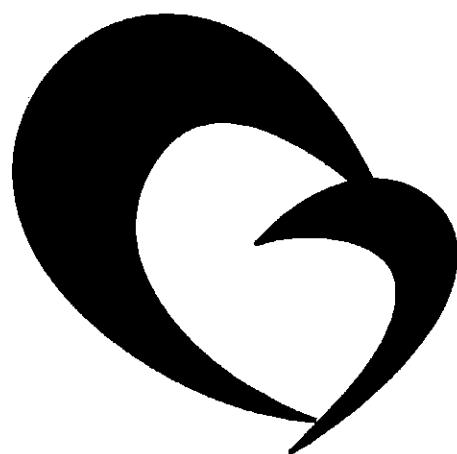


平成 27 年度
事業報告書



《理念》
共生 協働 自律

社会福祉法人 大館市社会福祉事業団

平成 27 年度 事業報告書 目次

	(頁)
・大館市社会福祉事業団本部事業報	1
・大館市養護老人ホーム成章園事業報告	8
・大館市特別養護老人ホームつくし苑事業報告	21
・大館市デイサービスセンター大滝事業報告	46
・事業団ヘルパーステーション事業報告	51
・居宅介護支援事業所おおたき事業報告	56
・大館市地域包括支援センターおおたき事業報告	60
・大館市ケアハウスほうとう事業報告	67
・大館市立老人福祉センター事業報告	78
・大館市ふれあいセンターやまびこ事業報告 (成章保育ルーム森のおうち)	80
・大館市へき地保育所事業報告	85

平成 27 年度大館市社会福祉事業団 事業報告

平成 27 年度は、人件費と業務委託費の増加により当初予算の事業活動収支差額でマイナス 4,700 万円の厳しいスタートであったが、人件費と事業費の支出がおさえられたことで、最終的には約 1,200 万円のマイナスで決算を終えることができた。

特に、支出額の減少が大きい人件費は年度中の休職や離職によるもので、事業費においては物品購入における価格や製品の見直しならびに消耗品等の節約により支出を抑えることができたと捉えている。しかしながら、単年度の収支では厳しい運営を強いられていることから、今後の大きな課題として収支の適正化に努める。

施設設備関係では、つくし苑(デイサービス含む)における給湯・給水管の腐食劣化が激しく、数箇所の漏水修理が発生し、また給湯・暖房の循環ポンプの経年劣化による交換が数台続くなど、修繕費の支出が大きくなつた。

年度末にはエリア全施設で使用している電話設備の更新が大館市により実施され、併せて使用状況を見直し必要な箇所の変更を行つた。

法人直轄の専門部会・委員会では、①キャリアステップ別の内部研修の実施と、法人としての研修体系ならびに力量評価システムの見直し、②将来的な食事提供方式についての方針を提案、③栄養士間の業務連携のあり方の検討開始、④地域貢献の取組として近隣地域行事への職員派遣、在宅高齢者への配食サービス事業の検討、⑤健康診断結果に基づいた健康指導の実施、⑥法人広報紙やホームページの見直しによる効果的な活用、職員向け広報紙の発行等の実績を残すことができた。

また、財務情報に基づいた経営分析や設備機器等の更新計画、人員配置計画等を計画したものの、作業に着手することができず、残された課題として平成 28 年度に繰り越すこととなつた。

社会福祉法人制度改革に伴う対応も含め、法人が抱える課題は大きいが、ひとつひとつ解決できるよう体制を整備し課題解決への道筋をつけることを当面の目標と捉え、総括とする。

平成 28 年 3 月 31 日

社会福祉法人 大館市社会福祉事業団
理事長 名村 伸一

1. 部会・委員会活動報告

【人財育成システム検討部会】

平成 27 年度は、①キャリアアップモデルに基づく研修の実施、②職員の成長を促す力量評価の仕組みに対する検証及び改善 という二つの重点目標を設定し活動した。

キャリアステップ別の研修については、前年度の実施状況の反省を踏まえ、プログラムを一部見直しし実施した。ステップ別の研修は 2 年目ともなり、職員の間に徐々に浸透しつつある。新採用からベテランまでの経験年数に応じた研修プログラムについては、引き続き実施状況の検証を行なながら、より充実したものとなるよう取り組みたい。

また、力量評価の仕組みの見直しについては、「力量評価システム実施要綱」の整備及び「力量評価表」の改定につながった。これにより、力量評価の目的や他の研修システムとの位置づけが明確となり、職員の成長につながる効果的な評価システムとなることが期待できる。

介護及び保育にかかる人財の確保は大きな課題であるが、職員の処遇改善のひとつには、職員の自己成長を支援する法人体制が挙げられている。今後も当部会において優れた人材を育成することにつながる体制作りに取り組む。

【厨房機器・給食提供検討部会】

運営方針に基づき、セントラルキッチン方式(センター集中調理方式)による食事提供システムへの移行に向け、基本設計実施のために、先進地視察(岩手県盛岡市、岩手県玉山村)を行い、情報収集を行うとともに、食品製造における、HACCP(危害分析重要管理点)について、外部講師を招き、衛生管理に関する講習会を開催した。

セントラルキッチンでの調理方法については、真空調理を主体とした食事サービスの提供を提案することとした。そして、厨房施設の新設については、本部事務局が具体化に向けて、今後、大館市との話し合いを持ちながら、検討を進めていくこととなった。

また、現在の施設の厨房で実施可能と考えられる地域貢献及び地域連携のひとつとして十二所地区の住民に対する配食サービスについて検討を行った。配食サービスの実施に関しては、平成 28 年度に推進チームを立ち上げ、平成 29 年度の事業開始を目指し、具体的な検討を進めていくこととなった。

この部会とは別に、栄養士間の連携を図る体制作りのための話し合いの場を設け、栄養システムへのソフト食の献立入力や 3 施設での共通献立の作成に向けての情報収集等を行い、体制強化を図っていくことを検討した。

【新規事業検討部会】

新規事業検討部会では、新たな事業の開始を模索しながら検討を重ねてきた。認知症共同生活介護(認知症グループホーム)については、当法人が実施しているサービス類型になく、今後予想される認知症高齢者の増加に対してどのような支援ができるか、法人のサービス類型のあり方における課題として引き続き検討する。

新規事業は、「地域包括ケアシステム」との連動を視野に入れる必要があり、地域との関係を強化できるよう取り組んだ。地域貢献のひとつとして、十二所地区敬老会の準備

及び片付けに協力したほか、大滝温泉自治会主催の盆踊りへの手伝い等、地域関係者と顔の見える関係づくりを図った。これらの活動と地域包括支援センターの地域ネットワーク協力員の意見等から、「配食サービス事業」の事業を推進していくこととなった。地域住民のニーズに応え、法人としての地域貢献ならびに法人事業の安定に向け、引き続き新規事業の検討を重ねることとした。

【感染症予防対策委員会】

法人感染症予防対策委員会では、法人各事業所の感染症発生の状況や対策の共有を図るとともに、法人内の事業所が協働し、感染症の拡大防止ならびに予防活動の推進に努めてきた。

定例会議における各事業所からの感染症発生報告のほか、感染症発生時に速やかに委員会への報告がなされ、その情報が迅速に各事業所へ発信される共有のしくみが確立されている。これら事業所間の迅速な情報共有が、併設事業所間の感染拡大防止に効果的に機能していると考えている。

近年はインフルエンザや感染性胃腸炎等の季節性感染症に限らず、集団風邪の発生など通年での感染対策が必要な状況となっていることから、高齢者や児童、職員の安全と健康を保持していくためにも、これまで以上に法人内の連携と結束を強め、感染症予防に努めていく。

【衛生委員会】

衛生委員会では、職員の心身の健康と安全を維持し、働きやすい職場環境を整備することに努めてきた。

職員の腰痛予防対策や職員健診後のフォローアップ体制の整備を図り、法人として職員の健康維持を継続的にサポートしていくよう取り組んできた。

特に職員健診における要精検者の二次健診の受診率は低く、効果的な生活習慣病予防につながっていない状況にあったことから、担当者の役割とフォローアップ体制を明確にし、平成 28 年度より具体的な対応に着手することとしている。

メンタルヘルス対策では、メンタル不調により休職中の職員の復職に向けた支援体制を整備するとともに、メンタル不調者が職場復帰に向けて段階的に心身の状態を整えていくよう支援してきた。「復職支援は休職時から始まる」と言われるように、休職中も担当者が職員や家族と定期的に連絡を取り合い、復職前の個別面接や通勤訓練、かかりつけ医や産業医との連携等により、可能な限り復職への不安を解消できるよう取り組んできた。こうした体制を整備し復職に至っても、復職後に再び病状の悪化をきたすケースもみられることから、日ごろからの職場における予防対策の強化と、高ストレス者を早期に発見し迅速に対応していく取り組みが重要と考えている。

平成 27 年度は、こうした職場における不調者の早期発見・早期対応の観点から、管理職や指導的立場の職員を対象にメンタルヘルス研修を開催した。本研修では日頃の部下との良好な信頼関係と、日々のコミュニケーションが非常に重要であることを改めて認識させられた。

平成 27 年 12 月より職場におけるストレスチェック制度の実施が法令により義務化さ

れ、当法人においてもその実施に向け準備段階にある。職員が自らのストレス状態を自覚し、セルフケアにつなげていけるよう体制整備に努めたい。

これらの活動のほか、隣接するコミュニティセンターとの共催による健康づくり教室やつくし苑喫煙室の分煙環境の整備など、積極的に職員の健康維持に取り組んできた。今後も現場で働く職員の声を吸い上げ、委員会活動に反映できるように努めていく。

【災害対策部会】

平成 27 年度は、災害対応マニュアルの改訂を行った。また、災害時の持ち出し物品の整備も行っている。6月には集中豪雨による水害を想定した『大館市社会福祉施設等災害支援ネットワーク避難訓練』をエリア内のつくし苑・ほうとう・やまびこを対象として実施している。成章園からも避難応援として参加してもらい、大規模な避難訓練となつた。当事業団では初めて実施する大規模訓練であったが、大館市内の各社会福祉施設からの協力を得ながら避難訓練を実施したことは意義があるものと考える。

近年は想定外と言われる自然災害が国内で頻発している。いつ、どのような災害が発生しても万全な体制で利用者を守れるよう今後も訓練の実施や備品等の整備を行っていきたい。

2. 役員会等の状況

(1) 理事会・評議員会

開催年月日	会 場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成27年5月27日 5月定例 理事会・評議員会	大館市ふれ あいセンター やまびこ	理事6名 (委任3名) 評議員15名 (欠席5名)	・事業団定款の一部改正案 ・平成26年度事業報告書 ・平成26年度決算報告書(監事監査報告) ・平成27年度第1次資金収支補正予算案 ・福祉サービス苦情解決第三者委員の選任案	承認 承認 承認 承認 承認
平成27年11月12日 臨時 理事会・評議員会	大館市ふれ あいセンター やまびこ	理事7名 (委任1名) 評議員17名 (欠席2名)	・事業団特定個人情報取扱規程案 ・平成27年度第2次資金収支補正予算案 ・事業団評議員の選任案 ・事業団役員の選任案 【追加議案】 ・事業団役員改選案(理事会)	承認 承認 承認 承認 承認
平成27年11月24日 臨時 理事会	大館市総合 福祉セン ター	理事9名 (委任1名)	・理事長選任案 ・副理事長案	承認 承認
平成28年3月28日 3月定例 理事会・評議員会	大館市 ふれ あいセンター やまびこ	理事9名 (委任1名) 評議員18名 (欠席3名)	・平成27年度第3次資金収支補正予算案 ・平成28年度事業計画書案 ・平成28年度資金収支予算案 【追加議案】 ・評議員の選任案(理事会) ・施設長及び管理者の選任案(理事会) ・福祉サービス苦情解決第三者委員の選任案(理事会) ・法人役員の選任案(評議員会・理事会)	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認

(2) 監事会

開催年月日	会 場	出席数	付 議 事 項 等	顛末
平成27年5月12日	つくし苑 会議室	3名	・平成26年度事業の執行及び収支決算について	承認

3. 職員の状況

※ 兼務・委託は 実数に含まず (平成28年3月31日現在)

施設名	本部	成章園	成章園 特定	成章園 ヘルパー	つくし 苑(SS)	ほうとう 特定	ほうとう特定	デイサー ビス	地域包 括支援	居宅支 援事業	事業団 ヘルパー	やまび こ	へき地 保育所	老福セ ンター	合 計
入所定員		80名	(80名)		120名	50名	(20名)	(35名)							
事業開始日	H10.1.1	H10.4.1	H19.1.1	H19.1.1	H11.2.1	H11.2.1	H24.4.1	H11.4.12	H11.4.1	H12.4.1	H11.4.2	H11.4.1	H22.4.1	H15.4.1	
事局長・施設 長(管理者)	(兼1)	1	(兼1)	(兼1)	1	1	(兼1)	(兼1)	(兼1)	(兼1)	(兼1)	(兼1)	1		4
主幹・次長・ 施設長補佐	(兼3)	1			2	1				1					5
事業責任者								(兼1)	(兼1)		(兼1)			(兼1)	0
医 師		嘱託1			嘱託1								嘱託12		14
事 務 員	(兼2)	2	(兼1)	(兼1)	4	1	(兼1)	(兼1)	(兼1)	(兼1)	(兼1)	(兼1)	1	(兼1)	8
パート事務員					3										3
生活相談員・ 社会福祉士		1 (兼2)	(兼1)		3 (兼1)	1	(兼1)	2	1						8
介護支援専門員 (計画作成担当)			(兼2)		1 (兼2)		1		1 (兼1)	7					10
看 護 師		3			8		1	2 (兼1)	1						15
機能訓練 指導員					3			1 (兼1)							4
介護(支援)員		6 (兼12)	6 (兼10)		48	6	(兼8)	13 (兼1)							79
パート介護 (支援)員			4 (兼2)		2										6
サービス提供 責任者					2							3			5
ヘルパー				6 (兼10)								3			9
パートヘル パー				2											2
登録ヘルパー											4				4
栄 養 士		1			1	1									3
調 理 員		(委託)			(委託)	(委託)		(委託)							0
技 能 員					2								1		3
パート技能員					2 (委託1)			3							5
保 育 士												3 (兼3)	36		39
保育補助(パー ト)													20		20
レク指導員												1			1
厚生児童員												2 (兼2)			2
合 計	0	16	10	10	81	11	2	21	3	8	10	6	71	0	249
うち産休・育休・病休	0	0	0	0	4	0	0	3	0	0	0	1	1	0	9

○ 職員内訳

	H25.3.31	H26.3.31	H27.3.31	H28.3.31
正職員	118	118	119	131
臨時職員(パート再掲)	120 (39)	119 (39)	116 (36)	100 (36)
嘱託職員(嘱託医師再掲)	18 (14)	19 (14)	18 (14)	18 (14)
合 計	256 (53)	256 (53)	253 (50)	249 (50)

4. 苦情(要望)・事故等の状況

平成27年度

項目	施設名 (事業所名)	成 章 園	つくし 苑	ケア ほう う おう	デ イ サ ー ビ ス	地 域 包 括 支 援	居 宅 介 護 支 援	事 業 団 ヘル パ ー	ふ れ ・ 森 の お うち	へ き 地 保 育 所	老 福 セ ン タ ー	合 計	前 年 度 実 績	前 年 差
苦情・相談・要望		2	21	8	20	2	10	1	1	3	20	88	81	-7
利用者への対応		2	14	2	12	0	1	1	0	2	0	34	26	8
家族等への対応		0	2	0	2	0	6	0	0	0	0	10	9	1
利用者間トラブル		0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	7	△ 5
制度・設備・環境		0	2	4	0	2	1	0	1	0	13	23	11	12
その他		0	2	2	5	0	2	0		1	7	19	27	△ 8
(申出人再掲)														
本人		2	11	8	4	0	1	1	0	0	20	47	46	1
家族		0	10	0	12	0	7	0	0	2	0	31	31	0
その他		0	0	0	4	2	2	0	1	1	0	10	4	6
事故・怪我		46	113	18	9	1	0	1	1	1	0	190	153	-37
骨折		11	6	4	1	0	0	0	1	0	0	23	21	2
骨折以外の大きな		4	8	0	0	0	0	0	0	1	0	13	8	5
軽傷		19	48	11	8	1	0	1	0	0	0	88	64	24
その他		12	51	3	0	0	0	0	0	0	0	66	60	6
(原因別再掲)														
転倒・衝突		33	23	10	4	1	0	1	1	1	0	74	55	19
転落・ずり落ち		2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	9	△ 3
誤嚥・異食		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	3
その他		9	84	8	5	0	0	0	0	0	0	106	88	18
【介護によるもの再掲】		7	46	6	4	0	0	1	0	0	0	64	51	13
ヒヤリハット		237	198	50	28	0	3	10	0	0	0	526	570	△ 44
不適合サービス		32	160	10	51	9	15	22	0	0	0	299	290	-9
合 計		317	492	86	108	12	28	34	2	4	20	1,103	1,094	9
前年度実績		347	456	141	95	6	13	11	2	9	14	1,094		
前年 差		△ 30	36	△ 55	13	6	15	23	0	△ 5	6	9		

平成27年度 大館市養護老人ホーム成章園 事業報告

平成27年度の大きな取組みとしては、介護部門目標として掲げた「個別入浴(個浴)」である。一人用の浴槽を使用し、個別で入浴することができるところから、入居者とのコミュニケーションの促進、慌ただしさの解消、入居者自身が行えることの拡大、大浴槽と個浴の選択、好みの湯温調整など、様々な面で効果があがっている。また毎日入浴できるようにしたことから、通院や外出、入居者の気分などにも柔軟に対応できるようになった。個浴の定着に向けて、入浴委員を中心にSDS(自己啓発援助制度)活用により個浴技術の外部研修に参加し、園内研修・練習会へつなげた介護員の努力に感謝したい。また、個別入浴は単に入浴の個別化を図るものではなく、自立支援に向けた取組の一歩である。入浴の機会を通じ入居者が、自分が出来ることを認識・学習することで、日常生活で出来ることを拡大していくことを目的としている。今後も入浴から他の援助へと自立支援を拡大していく。

一方、環境整備と安全対策については、運営委員会において議論を重ねてきたが有効な対策を見いだせなかった。特に安全面においては、骨折事故が年間11件発生しているが、多くは歩行等自立されている入居者の転倒によるものであり、対策の困難さを痛感した。日々の入居者の身体機能を確認し、予想されるリスクに対策を取りたい。また、平成28年度は居室の環境整備に取組む予定であり、個々の居室内環境を快適で安全なものに整え、骨折等の重大事故の軽減に努める。

特定施設入居者生活介護事業所は、要介護(要支援)利用者との特定契約及びケアプランの作成である。特定契約については毎月の運営委員会で、ヘルパーステーションと確認・検討し進めてきた。ケアプランの作成については、作成手順全般を見直し職員の負担軽減につながった。今後も生きがいを持てるよう、ケアプランの内容等の見直しを継続する。

ヘルパーステーションは、目標に掲げた「利用者の状態・ニーズの把握に努める」に対して、ケアプラン作成時利用者へのインタビューや、ヘルパーの日々の関わりにおける情報収集などで、概ね各職種間で情報を共有しながら対応できた。「統一された適切なケアを提供する」においても、介護職員会議のスタイルを変更し、個々の利用者について検討することを重視したことで、概ねケアの統一化に繋がった。

今後も各事業所の運営が有機的かつ円滑に行われるよう、入居者の安全と生活の質の向上、自立支援に向け喜びの感じられる施設づくりを目指し、職員一人ひとりが研さんを重ねることを誓い、事業報告とする。

平成28年3月31日

大館市養護老人ホーム成章園

施設長 成田 真紀子

1. 事業別事業報告

(1) 養護老人ホーム成章園

ア) 支援部門

平成 27 年度は平成 26 年度と同様、クラブ活動や遊びリテーション、行事活動に力を入れて取り組んだ。クラブ活動は 6 種類の内容で用意し、生け花や籠工芸の手作業や、おひさまクラブの畑作業と利用者様のニーズに合わせた活動で、日常生活を楽しむ為の機会を提供した。遊びリテーションの実施により、楽しく機能維持し、また認知症の進行予防にも努めた。行事は、園内で行うものと外出して楽しむものと個別性を重視しながら取り組み、生活のメリハリや生活意欲を高める為の取り組みを行った。

介護サービスの中では、入浴の内容を大きく変えて、個別浴に取り組んだ。まだまだ課題は残されているものの、利用者の潜在的な能力や入浴への意欲、よろこび、職員の気付きと、日常的な援助の中に沢山の気付きを見出しながら支援できた。

イ) 看護部門

平成 27 年度は、平成 26 年度の感染拡大を踏まえ、感染予防対策マニュアルの見直しと、緊急時対応マニュアルを作成し、それに基づいた研修を開催する事により、感染症の拡大を防ぐことができた。

平成 28 年度は、他部門と連携・協働しながら、入居者の健康被害を最小限に留めるべく、健康教室や救急救命・感染症予防などの研修内容を見直し、有効的な研修を開催することで、健康寿命を延ばすことができるよう努めたい。

ウ) 栄養部門

平成 27 年度も引き続き嚥下が困難な入居者に対して適切な食事形態での提供を実施した。また、正しい姿勢での食事摂取を目標に、車椅子から椅子への座り直しや、足底をつけてしっかりと咀嚼ができるように足台を使用するなど、入居者の嚥下状態の維持・低下防止に他部門と協力しながら取り組んだ。食事の姿勢は誤嚥の予防にもなるので今後も続けていく。

月 1 回のバイキング食を月 2 回にすることで、自分で好きな物を楽しみながら選択する機会を増やすことができた。毎月のおやつ作りや、クラブ活動で育てた野菜を使って調理し、きりたんぽやおにぎりを作るなどの体験を通じて、調理する楽しみを持てるよう取り組み好評を得た。

入居者の誕生日にはお祝いの言葉を掛けて、記念として写真撮影を行った。今後も喜んでもらえるよう工夫したい。

また、栄養委員会と協力して食事援助マニュアルを作成した。今後はマニュアルを周知・運用していく、食事に対する職員の意識を高めたい。

入居者が安全においしく食事を摂っていただく為に、一人ひとりに合わせた食事提供とメニュー・食環境の提供に努めていく。また食べる楽しみを感じてもらえるよう取り組みたい。

エ)事務部門

平成 27 年度は、「入居者の立場を考え各部門の調整を図るとともに、文書等の整理整頓と適切な保管に努める」という目標のもと活動を展開した。活動計画前半部分については、園内の感染症予防対策の更なる強化のために、冬期間に毎日行われた居住棟共用部分の消毒作業に参加し協力した。また平成 27 年度は、居住棟の共用スペースや居室の暖房機器が数多く故障等したことにより、使用に支障をきたす事態に陥ったが、他部門と連携を図りながら、迅速に修理対応、代替品用貸し出しストーブを用意するなどして入居者の防寒対策に努めた。今後も他部門と連携を図りながら、入居者のより快適な居住環境の提供に努めていく。

活動計画後半部分の「文書等の整理整頓と適切な保管に努める」については、保管している文書保存箱に、「保存内容」・「保存期間」を明示することで、何を保存していく、いつまで保存対象の文書であるか明確に識別できるようにした。今後も文書類の整理整頓と適切な文書管理に努めていく。

(2)成章園外部サービス利用型特定施設

平成 27 年度は、「入居者が有する能力に応じて自立した生活が出来るようとする」に繋げるべく、ケアプランの作成過程や内容の見直しに取組んだ。作成過程については、一般入居者のケアプラン更新を 1 年に変更、モニタリング評価を 3 か月に変更、アセスメント表の改定などを実施し、担当者の負担軽減を図るとともに、遅れがちであったモニタリング評価も確実に実施できつつあるなど、一定の成果をあげることはできた。しかし、ケアプランの内容についてはまだまだ改善の余地があり、自立支援に繋がるケアプランを作成するには課題が残った。

(3)成章園ヘルパーステーション

「利用者の心身の状態、変化やニーズの把握に努める」という目標に関しては、日々の援助や支援部門の記録などから利用者の状況を把握し、本人の希望や利用者に変化が生じた場合は、適宜関係職種と相談、連携しながら援助内容の変更等を行った。

「各職員間で情報を共有し、統一された適切なケアを提供する」という目標に関して、訪問介護計画書の内容については計画作成担当者、担当ヘルパー及びサービス提供責任者間での情報の共有はできていた。

ヘルパー職員全員がヘルパー利用者全員(約 40 人)の訪問介護計画書を全て記憶するのは難しいことから、自身の担当利用者以外の訪問介護計画書については、現在の援助からの変更点や重要事項について周知する形とした。

排泄、口腔ケア、移動援助、入浴などの重要な援助については、概ね訪問介護計画書に沿った内容で実施できたが、訪問介護計画書の“本人が行う事”に記載されている自立支援の視点で援助(負担のない範囲でできる事はやってもらう)する事に関しては、十分な伝達ができず課題が残った。

2. 成章園利用者状況報告

平成28年3月31日現在

(1) 年齢別・性別の状況

(単位：人)

区分	最高年齢	最低年齢	平均年齢	60歳未満	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	102歳	67歳	82.9歳	0	0	0	2	1	2	5	1	0	0	11
女			88.0歳	0	0	1	3	5	8	15	16	12	1	61
計			87.2歳	0	0	1	5	6	10	20	17	12	1	72

(2) 在所期間の状況

(単位：人)

区分	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満	25年以上	計
男	2	3	2	4	0	0	0	0	11
女	5	12	8	18	12	3	1	2	61
計	7	15	10	22	12	3	1	2	72
平均 男(4年7ヶ月) 女(7年3ヶ月)				最高 男(9年10ヶ月) 女(27年3ヶ月)				全体(6年10ヶ月)	

(3) 入退所の状況

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	入所者数	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(死亡者数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	入所者数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	2	5
	退所者数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	7
	(死亡者数)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	6

(4) 介護度別の状況

(単位：人)

	未認定	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	3	1	1	2	3	0	0	1	11
女	4	6	6	15	12	8	7	3	61
計	7	7	7	17	15	8	7	4	72

(5) ショートステイの利用状況

(単位：日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	0	0	0	0	0	29	24	29	0	0	0	0	82
女	0	14	30	31	4	29	31	12	0	0	0	0	151
計	0	14	30	31	4	58	55	0	0	0	0	0	233

3. 事業実績管理関係

月日	管理関係	月日	行事関係
4. 1 4. 2 4. 3・7 4. 23 4. 30	辞令交付式(つくし苑) 中浴場電気カバー交換 換気扇清掃 浄化槽合併処理施設保守点検 定期清掃(床リノリウム)	4. 2・9・14・22 4. 8 4. 28 4. 30	喫茶 リハビリ教室 血圧体重測定 定例会・福寿会
5. 1 5. 1 5. 1 5. 2 5. 8 5. 26・30 5. 26 5. 28 5. 28	浄化槽原水ポンプ交換 介護センター前製氷機修理 玄関・ホール間非常灯修理 車両無線機設置 非常通報装置点検 害虫駆除 浄化槽合併処理施設保守点検 トップライト・倉庫ドレーン廻り漏水修理 定期清掃(床リノリウム)	5. 2～6 5. 7 5. 7・13・22・26 5. 13 5. 18 5. 20 5. 28	お花見散歩 お花見ドライブ 喫茶 利用者健診 なべっこ昼食会 リハビリ教室 定例会・福寿会
6. 1 6. 1 6. 1 6. 3 6. 6 6. 10 6. 11 6. 15 6. 15 6. 20 6. 24 6. 25 6. 27 6. 27	ボイラー室給湯管ポンプ交換修理 ひまわり通り自動販売機を玄関ロビーへ移設 洗濯室・家庭用全自動洗濯機修理 浄化槽法定検査 エアコンフィルター清掃 地下油槽等点検・保守にかかる検査 浄化槽・原水層フロートスイッチ取替工事 大浴場介護リフトメンテナンス・漏水修理 貯湯槽清掃・貯湯槽内電気防食機器取付工事 貯水槽清掃 浄化槽合併処理施設保守点検 定期清掃(床リノリウム) 厨房電源漏電調査(殺菌庫漏電) 倉庫ドレン廻り漏水状況確認調査	6. 2・9・16・23 6. 8 6. 10 6. 11 6. 13 6. 16 6. 29 6. 30	喫茶 体重測定 リハビリ教室 成章小4年校外学習 地域交流会 老人クラブ連合会1円玉募金寄付 お楽しみゲーム大会 定例会・福寿会
7. 2 7. 4 7. 6～7 7. 8 7. 9～10 7. 10 7. 15 7. 16 7. 16～17 7. 18～19 7. 21 7. 24 7. 28 7. 28 7. 30 7. 30	厨房電源増設工事 浴室リフト水漏れ修理 職員健康診断 地下油槽保守点検 給排水設備保守点検 非常通報設備保守点検 計量機定期点検 管理棟区画漏電による停電復旧作業 施設サッシガラス清掃 施設内ワックス清掃 全自动ドラム式洗濯機修理 浄化槽合併処理施設保守点検 貯湯槽防蝕装置装置電流ゲージ交換修理 介護事業場に対する労務管理講習会 大型洗濯機修理 定期清掃(床リノリウム)	7. 1 7. 8 7. 9・14・22・28 7. 9 7. 21 7. 22 7. 27 7. 30 7. 31	七夕飾り リハビリ教室 喫茶 栄養教室 避難難練 にぎやか音楽会 体重測定 お楽しみドライブ 定例会・福寿会
8. 7 8. 8 8. 21 8. 27 8. 28 8. 28 8. 29 8. 29 8. 29 8. 31	危険物取扱者保安講習 地下タンク関係不良個所修繕工事 浄化槽合併処理施設保守点検 定期清掃(床リノリウム) ボイラー減圧弁交換修理 十二所地区敬老会準備手伝い 十二所地区敬老会後片付け手伝い 消防設備保守点検 ナースコールPHS交換工事 リースコピー機納入	8. 3～7 8. 10 8. 12 8. 13・26 8. 17 8. 20 8. 26 8. 27	買物ツアー 夏まつり リハビリ教室 喫茶 白百合ホーム児童との交流会 お盆(二十日盆)法要 出張祈願 定例会・福寿会
9. 1 9. 11 9. 24 9. 24 9. 25 9. 28	浄化槽制御盤内サーマルリレー取替工事 浄化槽清掃 地下タンク貯蔵所点検 定期清掃(床リノリウム) 浄化槽合併処理施設保守点検 ボイラー保守点検	9. 1・8・16 9. 24・29 9. 9 9. 10 9. 23 9. 30 9. 30	喫茶 リハビリ教室 敬老会 念佛数珠廻し 口腔ケア教室 定例会・福寿会
10. 14 10. 19 10. 22 10. 23 10. 23	大館市指定管理者監査 冷機器メンテナンス ナースコール・換気扇交換修理 浄化槽合併処理施設保守点検 介護センター前製氷機修理	10. 6・13・20・27 10. 14 10. 21 10. 25～11. 1 10. 28	喫茶 リハビリ教室 紅葉ドライブ 紅葉ドライブ週間 定例会・福寿会

月日	管理関係	月日	行事関係
10. 29 10. 29	定期清掃(床リノリウム) 施設内ワックス清掃	10. 28 10. 31	健康教室 大館男声合唱団訪問演奏会
11. 13 11. 19 11. 23 11. 23・26 11. 26 11. 26	施設サービス等利用者処遇事業調査 施設サッシガラス清掃 浄化槽合併処理施設保守点検 施設内ワックス清掃 厨房機器定期点検保守整備 定期清掃(床リノリウム)	11. 4 11. 4 11. 4・9・17・25 11. 11 11. 12 11. 12 11. 15 11. 16 11. 18 11. 22 11. 25 11. 25 11. 26	利用者健診 体重測定 喫茶 リハビリ教室 成章小4年生校外学習 インフルエンザ予防接種 総合避難訓練 お楽しみ昼食会 にぎやか音楽会 フルート演奏会 定例会・福寿会 栄養教室 居酒屋風バイキング
12. 10 12. 18 12. 21 12. 21 12. 22 12. 24 12. 24	災害支援ネットワーク幹事会 浄化槽合併処理施設保守点検 害虫駆除 ボイラ定期保守点検 厨房機器メンテナンス 施設内ワックス清掃 定期清掃(床リノリウム)	12. 1・8・15・24 12. 7～11 12. 9 12. 10 12. 15 12. 22 12. 25	喫茶 イルミネーションツアー リハビリ教室 体重測定 森のおうち訪問 忘年会 定例会・福寿会
1. 13 1. 22 1. 27 1. 28 1. 28	成章中・地域住民除雪ボランティア 浄化槽合併処理施設保守点検 入所判定委員会 施設内ワックス清掃 定期清掃(床リノリウム)	1. 4・12・22 1. 7 1. 13 1. 18 1. 26 1. 27	喫茶 体重測定 リハビリ教室 新年会 スイーツ祭り 定例会・福寿会
2. 8 2. 12 2. 16 2. 17 2. 18 2. 19 2. 20 2. 25	老人福祉施設入所舎の実態把握(鹿角市) コードレスフォン修理 施設内換気扇清掃 厨房コンピオーブンバーナー送風機交換 秋田県社会福祉経営協議会公開講演会 浄化槽合併処理施設保守点検 消防設備保守点検 フードスライサー修理	2. 2・9・16・23 2. 3 2. 4 2. 10 2. 24	喫茶 節分豆まき 体重測定 リハビリ教室 定例会・福寿会
3. 1 3. 2・31 3. 14 3. 14 3. 22 3. 25	夜勤者健診・胃健診 定期清掃(床リノリウム) トイレ換気扇交換工事 誘導灯交換工事 ボイラ定期保守点検 浄化槽合併処理施設保守点検	3. 2・9・15・23・ 30 3. 3 3. 3 3. 7・10・17・22 3. 16 3. 21 3. 30	喫茶 体重測定 ひな祭り 外食ツアー リハビリ教室 念佛数珠廻し 定例会・福寿会

4. 年間職員研修参加一覧

(1) 外部研修

月 日	研 修 名	研修場所	職 種	参加職員
4.17	県北地区老人福祉施設連絡協議会総会	小坂町	施設長	成田 真紀子
4.24	秋田県老人福祉施設協議会総会	秋田市	施設長	成田 真紀子
5.8	認定調査員新任者研修	秋田市	サービス提供責任者	岩谷 明美
5.12~13	福祉保健施設・事業者等職員新任研修	秋田市	介護員	木村 すず
5.19~20	福祉保健施設・事業者等職員新任研修	秋田市	介護員	田村 さやか
6.11~13 6.25~27 8.27~8.29	介護支援専門員更新研修	秋田市	主任支援員	小畠 延洋
9.3~4	東北ブロック老人福祉研究会	秋田市	介護員	岩谷明美・佐々木ひとみ
9.15	特定給食施設等関係者研修会(県北)	北秋田市	管理栄養士	滝沢 紀子
10.2	秋田県北地区老人福祉施設長研修会	大館市	施設長	成田 真紀子
10.15~16	県北・能代山本地区相談員部会研修会	大館市	相談員	山内和市・平澤幸子 大坂研一
11.5~6	指導者研修(専門性)	秋田市	サービス提供責任者	虹川 寛昭
11.21	県北地区介護支援専門員協会研修	能代市	相談員	平澤 幸子
11.30~ 12.1	認知症ケア初任者研修	秋田市	介護員	安保 奈々美
11.27	秋田県北地区老人福祉施設・地域包括・在宅介護職員研修会	大館市	全職種	小畠延洋・滝沢紀子 平澤幸子・菅原敏光
2.4~5	秋田県老人福祉施設職員研修会 I	秋田市	施設長補佐	大坂 研一

(2) 内部研修

月 日	研修内容	対 象	担当職員
4.23	法人研修(ISO活動報告会)	全職員	伊藤次長
5.7	園内研修(感染症・爪切り)	〃	稲部主任看護師
5.11	法人研修(チームワークとコミュニケーション)	ステップIV 6年~	成田施設長
5.18	園内研修(火災報知器取扱)	全職員	山内主任
5.18	園内研修(介護技術・移乗)	新採用・異動 介護員	阿部介護員リーダー

月 日	研修内容	対 象	担当職員
5.19・25	法人研修(ISO内部監査員研修)	指導者層	伊藤次長
6.10	復命研修(福祉保健施設・事業者等職員新任研修)	全職員	田村・木村介護員
6.25	法人研修(メンタルヘルス)	指導者層	工藤次長
7.15	法人研修(コミュニケーションの理解)	ステップ I 1~2年	成田施設長
8.7	園内研修(個別入浴)	介護員	外部講師
8.18・24	園内研修(入浴技術)	"	阿部介護員リーダー
8.25	法人研修(スーパービジョン)	ステップ II 2~3年	大坂施設長補佐
9.30	園内研修(口腔ケア)	全職員	外部講師
10.2	復命研修(東北ブロック老人福祉研究会)	"	岩谷サービス担当責任者 佐々木介護員
10.6・8・15	法人研修(腰痛予防)	"	松橋係長
10.19・23・26	園内研修(感染症対策)	"	稻部主任看護師
11.2・9・16	園内研修(吐物処理)	"	稻部主任看護師
11.9	園内研修(発電機操作)	"	山内主任
11.10	園内研修(職員連携①)	介護員	虹川サービス担当責任者
11.13・26	園内研修(トロミ剤使用)	"	滝沢管理栄養士
11.19	園内研修(介護の基本講義と実技)	全職員	外部講師
12.15	法人研修(力量評価者)	指導者層	伊藤次長
12.18	園内研修(会議の進め方 ファシリテーション)	全職員	平澤相談員
11.10	園内研修(職員連携②)	介護員	虹川サービス担当責任者
12.21	復命研修(認知症初任者)	全職員	安保介護員
1.13	園内研修(非常食提供方法)	"	滝沢管理栄養士
1.18	園内研修(救急対応・救命救急)	"	稻部主任看護師
1.26・28 2.4	法人研修(法人理念)	ステップ IV 6年~	工藤次長
1.21	復命研修(リーダーシップ)	運営委員	虹川サービス担当責任者
2.3	園内研修(職員連携③)	介護員	虹川サービス担当責任者
3.17	復命研修(人材育成)	全職員	大坂施設長補佐
3.30	園内研修(ポジショニング)	"	外部講師

5. ISO9001 活動報告

(1) 計画作成者部門

【部門目標】 ケアプラン作成手順の見直し

【設定理由】

成章園では、特定契約者のケアプラン及び一般入居者の処遇方針を、「養護パッケージプラン」の書式にて作成している。特定・一般入居者共に、ケアプランは6か月毎の更新手順となっており、年間約150件の作成が必要である。計画作成担当者は4名いるが全員他職種兼務であり、特に特定を担当する2名の計画作成担当者の業務が繁忙であり、休日出勤や時間外勤務にて何とかケアプランを作成している状況にある。作成手順を見直し負担軽減を図りたい。

【現状把握】

① アセスメント

- ア) 担当介護員にアセスメントシートに変更点を書き込んで貰っているが、記載内容に疑問点が多く、担当介護員へのインタビューを実施しており2度手間となっている。
- イ) 現在使用しているアセスメントシートは、アセスメント項目が膨大であり、重複している項目も多い。

② ケアプラン作成・ケアプラン会議

- ア) 表記が細かすぎて、ちょっとした援助の変更でもプラン変更が必要となる記載内容だが、実際には大きな変更が無い限り変更プランは作成されていない。
- イ) 特定・一般共に6か月毎にケアプランを更新しているが、年間約150件のプラン更新・ケアプラン会議開催となり、他業務を圧迫している。

③ モニタリング

- ア) 毎月モニタリング及びモニタリングの評価を実施する手順となっているが、ケアプラン作成で手一杯であり、モニタリング評価が実施できていない計画作成担当者もいる。
- イ) モニタリングの記載内容について、担当介護員によりかなりバラつきがあり、毎月ケース記録を全て読み評価しており時間を要す。

【実施内容】

① アセスメント

- ア) 東経システム養護ケアプランソフトを使用しアセスメントしていたが、居宅事業所のアセスメントシートを参考とし、養護老人ホームの特徴を盛り込んだ独自のアセスメントシートを作成し運用した。

イ) これまででは、前回のアセスメントシートを担当介護員に配布し、変更点を記入する手順としていたが、新アセスメントシート制定後は、計画作成担当者がアセスメントシート記入後、担当介護員にチェックして貰う手順とした。

② ケアプラン作成・ケアプラン会議

ア) 表記内容について、計画作成担当者間で表記方法の一部について検討し、記載内容の統一化を図った。

イ) 措置者からの指示など、個別に特化した内容をケアプランに盛り込む事とした。

ウ) 特定は現状の6か月更新としたものの、一般入居者のケアプランに関しては身体機能等に大きな変化がないケースが多いため1年更新とした。

エ) ケアプラン会議の参加者について、従来の参加者を整理し各職種1名とした。

③ モニタリング

ア) 「ケアプラン作成担当者一覧」に、作成担当者別にケアプランの作成月及びモニタリング評価月を記載し、何月に誰のケアプランを作成し、誰のモニタリング評価を実施するのかを確認できるようにした。

イ) モニタリングは従来通り毎月実施とし、評価記録に関しては3か月に1回とした。

【評価】

① アセスメント

ア) 独自のアセスメントシートを作成した事により項目が精査され、活用しやすい物となった。

イ) アセスメントシート作成の労力も軽減され、各作成担当者からも「使いやすい」との評価を得た。

ウ) 新規入所時のアセスメントシートも兼ねたものとしたため、入居後の初回ケアプラン作成時のアセスメントもしやすくなる効果があった。

② ケアプラン作成・ケアプラン会議

ア) 一部の記載内容について表現の統一化を図ったことで、細かすぎる記載が改善され、軽微な援助内容変更においてのプラン変更は不要となった。

イ) 個別に特化した内容をケアプランに記載することにより、ケアプラン内容の充実に繋がった。

ウ) 一般入居者のケアプラン更新を1年としたことで、年間約150件から110件に作成数が減り、残業時間・休日出勤数が減り、負担軽減になった。

③ モニタリング

ア) 3か月に1回の評価としたことで、遅れがちであった評価が確実に実施されつつある。また確実に実施されることにより、変更プランの要否も行われることで、必要時には変更プラン作成に繋がる仕組みとなった。

【まとめ】

ケアプラン作成手順の見直しに取組み、手順を一つひとつ見直すことで、残業時間及び休日出勤数の軽減に繋がり、目標とした計画作成担当者の負担軽減については一定の成果をあげることが出来た。しかし、細かな部分については改善の余地が残されており、引き続き改善をして行きたい。また、モニタリング内容について取組めなかつたので、今後の課題として取組みたい。

(2) 支援部門

【部門目標】 入浴の個別対応の実施

【設定理由】

前年度の26年度より個浴に注目して委員会の中でも活動の検討がされていた。個浴の提供は入浴サービスの質の向上につながると考えられ、今年度は、入浴サービスの個別対応の実施に向けた活動を行っていきたい。

【現状把握】

① 利用者アンケートの実施

入浴に関するアンケート調査を行い、現状の状態から利用者個々の意見を聞き取り個別対応に移行する際の改善点とした。

② 職員アンケートの実施

入浴サービスの内容が大きく変化し、また個別対応の中で個浴槽を使用する事への技術的な不安などもあり、開始前に不安解消すべきと考え実施した。

【課題の選出】

① 入浴の曜日の変更

利用者アンケートから、入浴間隔や1週間の入浴回数についての課題が出ており、業務内で実施できる内容で検討した。

② 入浴時間の変更

個別対応により、時間が掛かる事が予測され入浴業務時間の変更を検討した。

③ 個別対応と個浴槽を使用する事に対する技術的な不安

個浴槽の使用は初めての職員が多く、対象利用者やその利用者の身体状況に応じた援助内容についての不安が出ていた。

【実施前として】

① 入浴曜日の変更

利用者の入浴曜日の間隔がバランスよくなるように調整した。また、入浴回数に関しても柔軟に対応できるように、入浴日を増やし、変更した曜日は大き

なポスターを作製し、事前にお伝えした。

- ② 業務内容を確認し、1日の入浴業務の時間を30分多くとった。

入浴前の業務内容を調整し、入浴の開始時間を30分早めて時間を多くとった。

- ③ 個浴槽の使用に対しては技術研修を開催した。

入浴委員が先に立ち、外部の個浴研修に参加した。また、その内容を踏まえ、施設内での研修、または勉強会を複数回開催した。

- ④ 職員が戸惑わないよう、入浴の順番や曜日別での利用者の介護量を見て入浴表を変更した。

【実施状況】

- ① 個別対応について

ア) 職員が戸惑う場面もあったが、入浴委員が入浴対応に入っている勤務表を中心掛け業務分担した為、個別対応が徐々に形になった。

イ) 利用者の入浴状況も把握しながら行い、個浴槽とリフトやシャワー・キャリーの使用状況も確認した。

ウ) 職員が実際に入浴援助した状況をセンター会議で確認し、入浴委員会で改善の検討を繰り返した。

- ② 入浴日と入浴業務時間の変更

ア) ポスターの作製により、利用者への事前周知が上手くいき、大きな混乱なく開始できた。

イ) 入浴前の検温の業務が上手くいかず、30分早く開始する事ができなかったが、赤外線で測定する体温計を購入する事で検温業務を短縮し、30分早く入浴業務する事ができた。

- ③ 個浴槽対応の技術について

開始後も技術面の不安、また個浴槽を使用する環境として改修工事が必要とされる状況であり、浴槽に入るまでの段差も課題であった。

ただ、技術研修と勉強会、入浴委員が実際の援助場面で指導する等で、職員の援

助技術も個人差がありながらも上達していった。

【効果の確認】

現状把握で実施した利用者アンケートを再度実施し、現状把握の結果と比較検証した。曜日変更や回数の変更から、利用者の満足度は向上した。また、個浴槽に入浴した利用者からも好評の声が聞かれた。また、大浴場と個浴槽を選択して入る事も可能になり利用者の入浴意欲も高まった。

その他、入浴を断る事が多かった利用者が、定期的に入るようになったり、自分の通院に合せて利用者が各自で入浴日を調整する事もできるようになった。ターミナルケアの利用者もいたが、本人が「入りたい」と思った時に対応できたケース

もあった。

【まとめ】

効果の確認の際に、職員のアンケートも実施した。個別対応が良かったと言う意見の他、課題も見つかった。「職員の技術の差」「浴室改修されないと継続は難しいのでは」「職員のモチベーション維持」「個別浴の目的の再確認」等もあがった。課題に対しては、来年度以降も入浴委員を中心に今年度の活動内容での、援助状況の確認と、改善への検討、提案を繰り返していく事で、対応の維持・向上を図ることとした。また、個浴は入浴サービスの向上だけでなく、利用者の自立支援に向けた生活援助形態の一つである事も学び、施設での自立支援への取り組みも同時に取り組んでいく事となり、入浴サービスでの満足度を高めるだけでなく、利用者の生活全般に目を向けて援助を検討する土台となった。

平成 27 年度 大館市特別養護老人ホームつくし苑 事業報告

つくし苑では、介護報酬改定による減収や介護職員の離職、入所者の入院等による空床率の増加や集団風邪の発生など、今年度は多くの課題に直面し、施設運営にも大きく影響する結果となった。

職員の人材確保については、職員の待遇改善や正職員、準職員への登用など法人本部の取り組みと連動し、でき得る対策を講じてきた。

また、感染対策については、感染症予防対策委員会が中心となり、これまでの施設内の衛生管理や手洗い等の感染予防活動の実態を調査し、日々の標準予防策の具体的な見直しにつながったことは大きな成果であった。施設職員の予防への意識を高め、「感染症を出さない」ための日常の感染予防対策を強化したことにより、今冬は感染症の流行なく利用者の体調を維持できたことは、これら対策の効果と考えている。

つくし苑では、こうした様々な課題に対応しながら、同居する親族からの虐待により緊急保護を要する高齢者や、身寄りのない生活困窮者の受け入れにも、公正な視点をもって真摯に対応してきた。関係行政機関や成年後見人との連携を密にして、社会的弱者といわれる方々の尊厳と権利を守り、施設内でのカンファレンスを積み重ねながら、その人らしく暮らしていけるように努めてきた。

要介護区分の重度認定者が全体の 8 割以上を占めるつくし苑では、利用者の医療依存度が年々高まってきており、また、昼夜の不適応行動や不安定な歩行等による転倒などにより、常時見届けが必要な利用者も多い。職員の負担は大きく、従来型特養における見守り環境に限界はあるが、生じた事故や苦情に対しては、施設内で検証の機会を設け、再発防止につなげてきた。

人財の育成については、施設内で開催される内部研修や外部研修受講者の復命研修等による専門知識及び技術の習得の機会や、各専門委員会の実践的活動を推進し、利用者サービスの向上に取り組んだ。

また、今年度は認知症ケア推進委員会を新たに設置し、各棟において利用者の個別援助計画の立案や実施、評価を行ない、認知症ケアの向上に効果的に取り組むことができた。

施設を取り巻く社会環境は年々厳しさを増すなかにおいて、利用者の状態像や家族の意識も変わりつつある。これらの変化に柔軟に対応できる広い視野と創意工夫をもって改革に挑み、職員の意欲を最大限に引き出しながら、利用者の生活の豊かさを実現できる施設づくりに努めていくことを誓い、事業報告とする。

平成 28 年 3 月 31 日
大館市特別養護老人ホームつくし苑
施設長 鎌田 俊

2. 部門別報告

【相談部門】

相談部門では、看取り介護の充実に向け取り組み強化に努めてきた。看取り介護の知識について学び、ご家族へ終末期のケアにかかる施設の体制についてより丁寧に伝えることを目的として「看取り介護の指針」を改訂している。また、家族参加によるケアカンファレンス(会議)の積極的な開催、付き添う家族と利用者本人とが最後の時間を穏やかに過ごせるような環境整備を行い、家族の思いに寄り添ったケアが展開されるよう取り組んできた。これまで職員間で認識が曖昧であった「看取り期」についても嘱託医を交えて再確認した。

平成 28 年度も他部門との連携を強めながら、家族とともに看取り期の各段階における利用者の変化を共有し、施設職員や家族に見守られ穏やかな最期を迎えることができるよう努めていきたい。

また、利用者の高齢化重度化が進んで来ていることを踏まえ、相談部門としても、利用者の生活状況や体調に関する家族への密な連絡報告、ならびに緊急連絡先の更新を実施し、利用者家族との密な連携に努めてきた。利用者の日々の暮らしぶりや健康状態など利用者個々の生活状況について定期的な報告のほか、体調不良時や緊急時は十分な経過説明を行うことで、家族の理解を得て利用者の施設生活を支援することができた。今後も利用者にとってよりよい暮らしを実現できるよう家族との相互理解に努めていきたい。

平成 27 年度は、長期間の入院者の増加により空床が多数発生したが、空床を十分に活用することができず、施設運営にも大きな影響をきたす結果となった。

平成 28 年度は、スムーズな入退院調整と速やかなベットコントロールに対応していくよう、外部機関ならびに内部の関係部門との連携を密にしていきたい。

【介護部門】

介護部門では、棟ごとに部門目標を設定し取り組んでいる。利用者の意見やケアの質の向上など、各棟それぞれが話し合い目標を設定した。棟ごとの取り組みにより全職員の参画が得られ、糸余曲折しながらも効果的な活動となった。平成 28 年度も棟ごとに部門目標に取り組み、全職員が関わることで職員の主体性や自発性を養い意識を高めたい。

また、平成 27 年度は、施設内で風邪の集団発生が複数回発生した。感染症の発生は高齢者にとって心身への影響が大きく、その後の生活の質(QOL)にも大きく影響する。日常的に利用者ケアに携わる介護職員自身が感染拡大の要因にならないよう、日頃のスタンダードプリコーション(標準予防策)の徹底や環境の整備など、職員一人ひとりが自覚を持って感染症予防に努めたい。

サービスの質の向上を図るうえで職員の教育や研修は必須であり、研修で得た知識を業務に取り入れ、また復命研修を行なうことにより共有を図った。現状と課題を把握し、介護員一人ひとりがお互いに認め合える職場風土を整えられるよう一層努力していく。

【医務部門】

風邪の集団発生の影響もあり、日々の体調管理と感染予防の重要性を改めて認識させられた一年であった。苑内の感染症予防対策委員会と連携し、日々の感染予防のスタンダードレベルを上げ、その徹底を都度周知してきたことにより、今冬は感染症の流行なく経過できたことは成果であった。今後も他職種との連携を密にし、施設内の感染症の発生防止に努め、利用者の健康管理を強化していくよう取り組む。

施設での看取りについては、利用者の体調変化等を他職種と共有し、適時的確に嘱託医への報告や家族への説明の機会を設けることができた。利用者が穏やかに最期を迎えるよう対応するとともに、見守るご家族も利用者の状態を受け入れられるよう、看護師の立場で声掛けや状態報告を密に支援してきた。施設での看取りには嘱託医を含めた多職種間の連携が重要となることから、看取りケアの充実を図れるよう医務職員としても研鑽を積んでいきたい。

医務内の業務改善については、医務職員もその必要性を実感し、改善改革の声が挙がっている。現状の課題を整理し、施設看護師がその専門性を發揮し、利用者の健康管理を円滑に実施できる体制と仕組みの整備に早急に努めていきたい。

【機能訓練部門】

機能訓練部門では、内部コミュニケーションの強化を図り、情報の共有と利用者個々の課題解決に向け取り組んできた。

利用者のリハビリは、ケアプランに沿った個別リハビリ(基本動作練習、関節可動域運動、歩行訓練)と集団レク(グループレク)を個別の日課に合わせ実施した。

また、摂食や移乗動作のアセスメント、適切な車椅子や体交枕(寝返り用枕)の活用等への指導助言のほか、成章園、ケアハウスでのリハビリ指導も実施している。

今後は、認知症ケア・廃用症候群の予防・排便コントロール等を目的としたリハビリやレクリエーションの実施に取り組み、多様なメニューとシステムの構築に取り組んでいく。

年間行事として、音楽クラブと大相撲の星取りを定期的に実施している。今後も継続して実施し、利用者がより楽しみを見出せるよう創意工夫していく。

「機能訓練個別評価表」は、施設ケアプランのモニタリング(評価)に時期を合わせて実施し、リハビリの個別評価は担当ケアマネージャーと共有し、訓練内容の見直しや介護員への技術的指導や助言を行った。今後は「機能訓練個別評価表」を見直し、他職種との連携を図り、利用者ニーズにより一層対応できるよう努めていきたい。

【事務部門】

平成 27 年度は、介護報酬改定の影響を受け、大幅な減収となつたが、過誤の無い介護報酬請求を行うことを目標として掲げ、各職員が業務遂行にあたつた。

その結果、過誤請求はほぼゼロであり、月々の介護報酬も適切に受け取ることができ、施設運営に大きな影響を与えることは無かつた。

社会福祉法人新会計基準へ移行後、初の決算処理はトラブルも無く、期日通り処理が完了し、監事監査会、理事・評議員会とともに、日程通りに開催することができた。今後は、平成 29 年度の社会福祉法改正にともなう財務規律の強化に対応するために、適正

な会計処理と決算処理を行いたい。

ISO の部門目標の取組みに関しては、前年度から引き続き、「入所者金品預かりに係る対応の適正化」を目標とし、活動を行った。

施設で利用者の現金、預金等を預かるにより起こり得るリスク回避のため、身元引受人へ説明を行いながら、平成 27 年 12 月にすべての預かり金品の返却が完了した。これにより、預り金業務の軽減、預り金業務に係るリスクの軽減と業務の簡素化につながり、大きな成果が得られた。

【栄養部門】

栄養部門では、以下の内容について重点的に取り組んできた。

- ① 栄養ケアマネジメントのモニタリング期間を遵守し、ご利用者様の健康維持をサポートする。

栄養ケアマネジメントの更新サイクルを施設ケアプランのマネジメントサイクルに連動させ、現状の栄養ケアマネジメントの管理システムを有効に活用することにより、スクリーニング、アセスメント、モニタリングの期間管理が容易になった。

また、各種データの参照も一元的に行うことができ、利用者個々の栄養状態の把握がしやすくなったことにより、嘱託医への報告を迅速に行い、栄養介入へつなげていくようになつた。

- ② ご利用様の意思や嗜好を反映した食事提供を目指す。

選択食のメニューを充実させることにより、選択の幅を広げ、個別の提供と自己決定力を促すことができるようとした。また、個別の要望等も選択メニューに最大限取り入れていくことにより、個人の嗜好に考慮し選択できるようにした。

- ③ 咀嚼・嚥下状態に合わせたソフト食を充実させ、安全な食事の提供を行う。

ソフト食の提供は以前から行っていたものの、献立表の作成の為には、膨大な量のデータを献立作成システムに入力する必要があり、献立表の作成には至っていなかった。つくし苑栄養士だけでは作成不可能であったため、ケアハウス、成章園の栄養士の協力を得て、ソフト食献立の作成を実現することができた。ソフト食献立を作成することにより、これまで概算であった栄養量が明確となり、個別の必要量の確認や個別対応へつなげていくことができるようになった。

【短期入所生活介護事業所】

平成 27 年度の利用実績は年間 7,615 日であり、前年対比 105% と上回った。しかし、受け入れ稼働日数に対する稼動率((ショートステイベット数 + 空床含む))は、平均 83.5% と平成 26 年度より下回る結果となった。

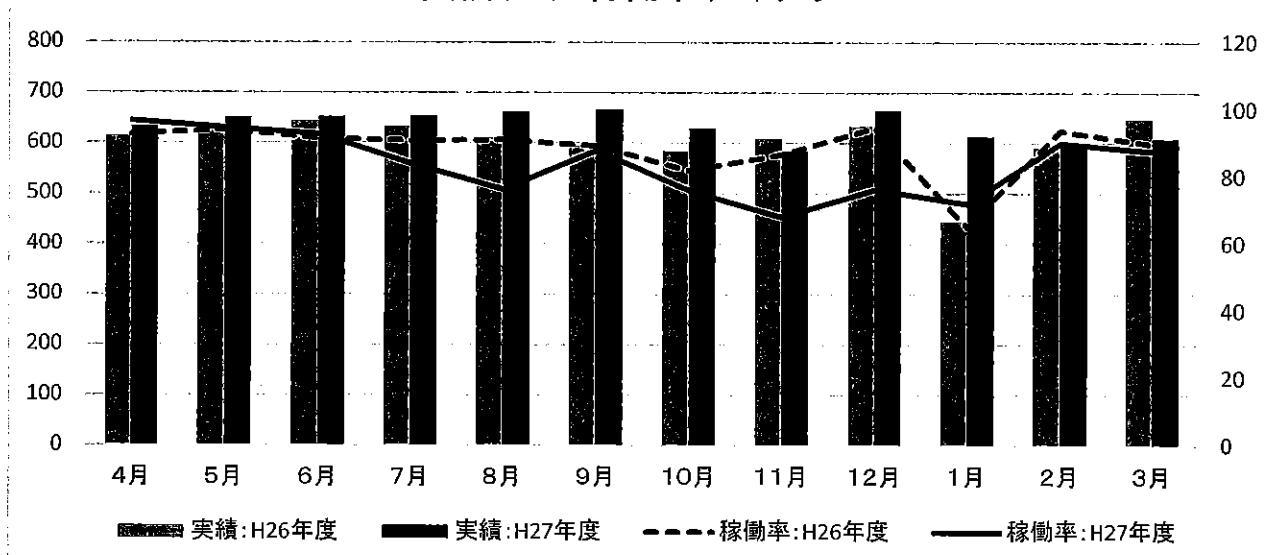
空床数(退所 + 入院 - 入院初加算)は、年間 1,898 床(月平均 158 床)であり、平成 26 年度に比べ約 1,000 床の大幅な増加が見受けられた。これらの要因としては、退所者や入院者数の増加、入院期間の長期化による空床数の増加に対し、ショートステイによる空床活用には最大限努力していたものの、次期入所者の受け入れまでに時間を要し、また集団風邪の発生による感染拡大防止の観点から他棟での空床活用に制限があったことが考えられる。

年間の延べ利用者数は631人で、平成26年度と比較すると約30人減少したが、利用者一人当たりの平均利用日数は12.1日となり、平成26年度を上回る結果となった。

単独のショートステイ事業所やサービス付高齢者住宅等の居住系サービスが増えるなか、新規利用者の獲得はより困難になってくることが懸念される。利用者や家族のニーズに対応した利用日程や日数の確保に配慮し、ケースの緊急性等を見極め、限られたベッド数を有効に活用できるよう努めてきた。

平成27年度は、居宅介護支援事業所や他の在宅サービス事業所との密な連携を図り、利用状況の報告やモニタリングを実施してきた。また、ショート利用者のケアに関わる棟介護員や医務、リハビリなど、他職種とのケースカンファレンスの開催を重ねながら、ケア内容の検討や支援の方向性の共有等を行なってきた。これらの取り組みにより、多様なニーズを抱えた利用者に対し、より効果的で適切なサービスをチームとして取り組むことが可能となりつつあるため、今後も継続的に取り組んでいきたい。

実績(日)・稼働率(%)グラフ



2. 委員会活動

【運営委員会】

運営委員会では、円滑な施設運営と顧客満足の向上に向け、施設におけるリスクやコスト管理、サービスの提供や質に係る課題の共有と改善の検討を行なってきた。

法人理念に基づき、施設の進むべき方向性を示しつつ、施設管理職と施設職員が互いに現状の課題を共有し、それらの改善や目標の実現に向け、共に考えていく場となるよう、委員の意見や考えを可能な限り引き出せるよう努めてきた。様々な課題を現場のみで抱え込まない施設風土と施設管理職の適時適切な支援による信頼関係の確立は、施設職員が安心してその役割を発揮していくための基盤となる。委員会内で活発な意見交換や議題提起がなされるようになったことや施設管理職の適時介入により、排泄チェックや部門間の連携など長年の課題が徐々に解消されるようになってきたことは大きな成果と捉えている。

また、利用者の直接処遇に係る課題に限らず、施設の経営状況やリスク等も適時提示されるようになったことにより、施設管理職と施設職員双方が今後の方向性や目的を共有しやすくなり、先を見据えた業務改善や活動の強化を図れるようになった。

施設を取り巻く環境は変化し益々厳しさを増しているが、その変化を改革のチャンスと捉え、本委員会内で達成目標を明確にし、その実現に向け意欲的に活動に取り組んでいく。

【感染症予防対策委員会】

つくし苑感染症予防対策委員会は、法人委員会とその役割や機能を明確に区分し、施設内の感染管理体制の強化に努めてきた。

昨年度、つくし苑では集団風邪の発生が相次ぎ、施設の運営にも大きな影響を及ぼすこととなつた。本委員会では、苑内の発生状況に応じて速やかに委員を招集し、対応に遅延のないよう、対策の検討と現場への速やかな情報の周知徹底に努めてきた。

本委員会では、集団風邪の発生を機に改めて職員の手洗いや苑内の衛生管理の実態を調査し、その結果、痰吸引や排泄ケア時の利用者ごとの使い捨てエプロンの使用や通年での苑内消毒の実施など、日々の標準予防対策の具体的な見直しにつながったことは大きな成果であった。

感染症が発生してから予防対策を強化するのではなく、日々の感染予防のスタンダードレベルを上げ、「感染症を発症させない」ことに焦点を当てた予防活動は、施設管理職や事務を含め施設職員が一丸となり、協働して実施を継続している。今後は現場における手洗いの徹底強化を図り、利用者と職員の健康と安全を保持できるよう努めていく。

【介護力向上委員会】

介護力向上委員会では、「利用者一人ひとりに合わせたサービス提供」を目指し、多職種が協調し連携できることを目標として、各職種が互いに専門性を発揮しながら、相互のコミュニケーションが円滑に行なえる仕組みや体制づくりに取り組んできた。

(1) 連携しやすい体制づくりに向けた取り組み

「連携」に対する相互の理解を図るため、つくし苑における各職種の立ち位置ならびに役割等の理解を深め、委員会で積極的な意見交換や情報交換を行なつた。

また、本委員会において、介護職員が日勤や夜勤の情報を各部門へ効果的効率的に情報伝達できるシステムの見直しに取り組んだ。他部門へ必要な情報が的確に届くことを意識しながら、夜勤リーダーの責任と役割を明確にし、フローチャートを整備し運用している。これらの見直しにより、夜勤者から日勤への申し送り、日勤者から夜勤者への引き継ぎなど、確実な情報伝達が効果的に実施できるようになったことや、夜勤者がチームとして情報共有できるようになったことは大きな成果であった。

(2) 課題の把握と解決に向けた取り組み

これまで有効な改善策が見出せず、長年の課題であった「下剤投与に関する不適合」について、運営委員会での要因分析と改善案の提示を踏まえ、介護力向上委員会において具体的なシステムの改善に取り組むこととなった。不適合の要因のうち、排便の「カウントミス」「チェック(有無)ミス」に改善の焦点を絞り、ミスを防ぐためにむしろ煩雑となっていた仕組みを抜本的に見直し、「簡素化」することを到達目標として検討を重ねた。

これまで、手順の各段階でのミスを防ぐため、各勤務帯において職員によるチェック(確認)作業が複数回行われていたが、職員の手間の割にミスの遅減につながっていない実態があった。また、これらの手順に係る医務・介護の責任の範囲が曖昧になっていたことから、利用者の排便コントロールに係る相互の責任と役割を改めて整理し、新たなシステムにそれらを反映するようにした。これまでの紙媒体での排便管理からパソコン管理にその方法を切り替え、排便データが医務・介護双方で適時共有できるようにし、それらのデータから看護師が下剤投与者をリストアップし、棟介護員へ指示する流れが整備できた。

新システムの運用にあたっては、関係部門の理解が十分に得られるよう委員会内でも話し合いを重ね、委員が中心となって各部門への説明を丁寧に実施してきた。新年度の運用の実現に向け、取り組みを強化していく。

【今後の取り組み】

今年度、本委員会で取り組んできた「下剤投与に係る不適合」に係る新システムの運用を開始し、仕組みの定着に向け引き続き取り組んでいく。

【排泄入浴委員会】

排泄入浴委員会では、「利用者の尊厳を重視し、より快適な生活を送って頂けるように排泄・入浴の場面でそれぞれ生じている問題やニーズを拾い上げ、それに対応していくよう尽力する」との活動方針のもと、4つの重点目標を掲げ取り組んだ。

(1) プライバシーへの配慮

平成26年度に引き続き、プライバシーに配慮したトイレカーテンの改善に取り組んできた。カーテンの長さや素材等を具体的に検討し、次年度のカーテン購入に向け準備を進めてきた。現在は現行のトイレカーテンを手直したもの(カーテンの素材を厚手のものに揃え、幅を広くしたもの)を使用して対応しているが、枚数も限られ毎月の交換にも不具合が出ているため、適切に対応できるよう進めていく。

(2) コスト削減

平成26年度より、委員が中心となり、正しいパッド選定(フィッティング)に取り組み、

利用者への適切な排泄用具の使用とコスト管理に努めてきた。各棟で実践していく上で、その実施の目的が的確に共有できていなかったことから、改めてフィッティングについて研修を開催し、職員の認識を共有できるよう取り組んだ。今後も全利用者を対象に活動を継続できるよう取り組み、コスト削減に努めていく。

(3) 安全・安心なケアの提供

① おしりナップの運用

清拭タオルの再利用からおしりナップの使用に移行した後の使用状況や皮膚トラブルについて、モニタリングを行なっている。おしりナップの移行当初と比較し、現場の職員も使用手順にも慣れ、微温湯での洗浄、ガサチリやトイレットペーパーの併用も上手くできるようになってきている。利用者の皮膚トラブルも報告されておらず、今後も引き続き使用に係るモニタリングを実施し、効果的に実施できるようにしていく。

② 排泄チェック方法の見直しに係る他委員会との連携

介護力向上委員会で取り組んでいる下剤投与に係る改善活動について、本委員会に関する排泄データに関する資料の提供やチェック様式の改定などについて、協働し取り組んだ。

(4) 排泄・入浴場面でのケアのスキルアップ

平成 27 年度も白十字株式会社担当者に講師を依頼し、介護職員の全体研修として正しいパッドの選定(フィッティング)に関する研修を開催した。より実践に即した具体的で専門的な研修内容であり、適切なパッド選定がコストコントロールにつながるだけでなく、利用者の不快感の解消や職員の排泄ケアの負担軽減に繋がるということを理解することができた。また、フィッティングの目的ならびに重要性を改めて認識する機会となつたことにより、棟内でのフィッティングの取り組みの円滑化に繋がった。

【栄養委員会】

栄養委員会では、以下の2つを重点目標に掲げ、取り組みを強化した。

(1) 口腔機能維持管理体制加算の取り組みの継続と見直し

平成 26 年度、他施設へのアンケート調査を実施し考察した結果、歯科衛生士による技術的指導助言後、現場において指導内容に沿って適切に援助できているか確認(実施評価)ができていないことや、技術的指導助言が、ケアプランの口腔ケアサービスと連動していないことが課題としてあげられた。

そのため、施設口腔ケア・マネジメントに基づき、実施評価を効果的に行なうことや多職種で口腔ケアに関わることを実施目標とした。その結果、多職種で技術的指導助言の内容を共有できるようになり、現場においても指導内容に沿って適切に援助できているか、担当介護員によるケアプラン経過や歯科衛生士立ち合いによる 3 ヶ月後のモニタリングを通して実施評価ができるようになった。

また、ケアプラン会議においても、適切な口腔ケアの必要性が示され、歯科医師または歯科衛生士から技術的指導等を受け、歯科往診につなげる橋渡しができるようになり、より効果的な口腔ケアサービスが提供できるようになった。

(2) とろみ調整剤について、利用者個々に合った分量を、分量表を見ながら使用できる。

取り組みにあたり、なぜ利用者個々に合ったとろみ調整剤の分量を把握し、使用する必要があるのか、「嚥下調整食学会分類 2013(とろみ)」を参考に、その目的と分類について確認した。また、実際に、分類として示されているとろみの程度(「薄い」「中間」「濃い」)をそれぞれを試飲し、見た目や味の違い、飲み込みのスピードなどを観察した。

今後の取り組みとして、既存の摂食スクリーニング・アセスメント表を見直しし、利用者ごとにとろみ剤の分量が明記できるようにし、またアセスメントを多職種で実施できるような仕組みの整備等に取り組んでいくこととしている。これらについては、経口維持加算(I)の取り組みと併せ、利用者サービスの向上に努めていく。

【移乗向上委員会】

平成 27 年度、移乗技術向上委員会では、職員の技術向上と安全な移乗に向けた活動、及び、物品管理の定着化について重点的に取り組んだ。

(1) 技術向上に向けた取り組み

新採用者向けの基礎研修として、委員が受講した外部研修をもとに「安全な介護・援助の考え方と基礎技術」をテーマに実施した。

また、職員向けの内部研修では、当苑で実際の移乗用具を用いながら、「介助する側」「される側」双方を体験し、参加者間で「利用者本位の移乗」を考える研修を行った。

(2) 安全な移乗に向けた取り組み

移乗介助を安全に行うことを目的に、「移乗アセスメント」の見直しに取り組んできた。当初は、書式の見直しを軸に活動してきたが、取組みを進める中で事故・怪我が「起きた後」に対策を取るのではなく、事故・怪我を「起こさない」予防的な視点に立った取組みが重要との見解に至り、実際の生活場面で定期的に移乗方法を確認する機会を設けていくこととした。しかし、今年度の取り組みでは、具体的な対策につなげることができなかったため、次年度も引き続き、職員、利用者双方にとって安全で安楽な移乗につなげができるよう取り組むこととする。

(3) 物品管理の定着化

平成 26 年度より、エアマットや体位変換枕等の物品管理方法を見直ししている。エアマットは、使用前後の現場の流れと連動できるよう、年度途中で介護主任へ管理責任を委譲した。また、体位変換枕については、物品管理フローに基づき、月 1 回確認の機会を設けることに加え、入退院時や退所時の対応手順を明確にしたことにより、より確実に使用、在庫状況が把握でき、管理の定着を図ることが出来た。

<今後の課題>

利用者の重度化が進むなか、移乗介助時の事故や怪我を予防するためには、利用者個々の状態や起こり得るリスクを見極めるとともに、根拠に基づいた適切な介助技術を提供することが不可欠である。

平成 28 年度は、本委員が中心となり介護技術の見直しに取り組み、介護職員が主体的かつ明確な根拠を持って「安全な移乗介助」を実践していくよう取り組んでいく。

【医療的ケア対策推進委員会】

活動方針に基づき、医療職と連携し、介護職員が行う医療的ケアを安全に実施できる仕組みと体制の整備に取り組んだ。

- (1) 咳痰吸引等業務(特定行為業務)に関する様式の見直しを実施し、業務計画書は、利用者のケアプランと連動して作成し、ケアマネジメントサイクルに則り見直しや評価を実施できるように手順を整備した。また、月次の実施状況報告書は担当介護員が実施し、施設看護師や嘱託医との連携が図れるよう仕組みを整え、円滑な運用につなげることができた。
- (2) 介護職員のたん吸引に係る安全確実な手技の取得とその根拠となる知識の確認を目的として、本委員会主催の内部研修を年2回実施し、介護職員が一定の水準を保持できるように努めた。また、経管栄養に使用するイルリガートルの定期交換と消毒の手順を見直し、施設内の統一した手順と基準を明確にし、各棟での確実な実施と衛生管理の向上に取り組んだ。
- (3) 特定行為業務に係るひやりハット報告書の様式について、県の参考様式を確認しながら、書式の制定と流れを再確認した。特定行為に係る不適合に対し、適切かつ迅速に対処するために、医務、介護間の情報の共有と処理経過が明確になるよう責任の所在と仕組みの見直しを行なった。定例の委員会において不適合報告事例を共有し、その対応経過についても振り返りを行なっているが、これまでに利用者の健康状態に影響する不適合は生じていない。
- (4) 介護職員の喀痰吸引等研修事業の実地研修は、1月から介護職員3名を対象に実施した。年度内に1名が修了し、2名は4月末の修了を予定している。研修の実施にあたっては、施設の指導看護師とともに、既に実施研修を修了した介護職員のサポートもあり、職員がスムーズに認定取得できるよう支援体制を敷いている。
- (5) 褥瘡については、既存の褥瘡アセスメント表とフローチャートの見直しに取り組んだ。現状の課題を把握し、対応の遅延が褥瘡悪化につながることのないよう、発生時にはベットサイドカンファレンスを開催し、速やかに多職種間で具体的なケアを検討できるような仕組みの改善に努めた。また、各部門が褥瘡への対応経過を適時共有できるようするため、パソコン内のケース記録を充実させ、内容に漏れのないよう記録の統一を図った。これらの取り組みにより、各職種間で遅延なく情報が共有されるようになり、また、ベットサイドカンファレンスにより速やかに効果的なケア内容を検討することができるようになった。

【認知症ケア推進委員会】

平成27年度、職員の認知症の基礎知識や技術の習得、認知症を抱える利用者へのケアの質の向上を図るため、認知症ケア推進委員会が新たに設置された。

本委員会では、現場における質の高い認知症ケアの浸透と展開を到達目標に掲げ、設置初年度は以下の目標に重点的に取り組んできた。

(1) 認知症ケアの継続的な取り組みの実現に向けた体制の整備

各部門、専門職種を構成メンバーとした本委員会を設置し、定期的(月1回)に委員会を開催した。また、認知症ケアに関する実践リーダーの育成を図るため、委員1名が

認知症介護実践者研修を受講し、必要な知識や技術の習得と自施設での個別援助の実践演習を終えている。本研修への受講により、参加職員の知識や技術の習得はもとより、利用者の個別援助を実際の介護現場でどのように展開していくかなど、より実践的な手法を学ぶことができた。各棟における実践リーダーの育成を図るため、次年度は委員2名が本研修の受講を予定している。

(2) 認知症ケアに係る質の向上への取り組みの実施

施設職員への認知症の基礎知識等の習得の機会として、本委員会による内部研修を実施した。講師の認知症対応型デイサービスの管理者より、グループホームでの実体験を通じ、真に「その人らしさ」を捉え、「その人の尊厳を守る」ケアの難しさと深さを実感し、参加職員の心に響く講話であった。

認知症ケアの実践にあたり、本委員会の委員が意欲的に自己研鑽に努め、外部の様々な研修会に参加した。日々の認知症ケアの実践の推進にあたり、各棟の委員が担当利用者についてセンター方式を用いたアセスメントを実施し、個別援助計画を作成し、具体的な援助内容について実践した。

本取り組みでは、相談員の協力を得て、利用者家族から改めて生活歴や家族歴等を聞き取りし、アセスメントに必要な情報を収集し、また棟会議の場を活用して他の職員と目的を共有し、利用者のケアに反映できるよう努力した。

本活動は取り組み過程の半ばにあるが、個別援助計画に基づき棟職員や他職種を巻き込み、現場での実践を積み重ねながら、当苑における認知症ケアの向上に努めていきたい。

3. つくし苑 利用者状況報告

集計期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日
集計日 平成28年3月31日現在

(1)年齢別・性別の状況

(単位:人)

年齢 性別	~64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	計
男	1	1	2	4	7	4	4	1	0	24
女	0	2	5	3	13	17	19	10	6	75
計	1	3	7	7	20	21	23	11	6	99
平均男(82.1) 女(87.7) 全体(86.3) 最高(105) 最低(61)										

(2)在苑期間の状況

(単位:人)

期間 性別	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上	計
男	8	6	2	2	1	1	1	3	24
女	12	12	8	7	5	9	3	19	75
計	20	18	10	9	6	10	4	22	99
平均 男(2年10月)、女(5年1月) 最高 男(12年6月)、女(17年1月) 全体 (4年7月)									

(3)入退所の状況

(平成27年4月～平成28年3月)

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規入所者	男	1	0	1	1	0	0	0	3	3	0	1	1	11
	女	1	0	1	3	0	3	0	0	3	0	1	1	13
退所者	男	1	0	1	0	2	0	1	2	1	0	1	1	10
	女	0	2	2	1	1	1	0	3	1	0	1	2	14
月末在所者 数	男	23	23	23	24	22	22	21	22	24	24	24	23	
	女	77	75	74	76	75	77	77	74	76	76	76	76	
	計	100	98	97	100	97	99	98	96	100	100	100	99	

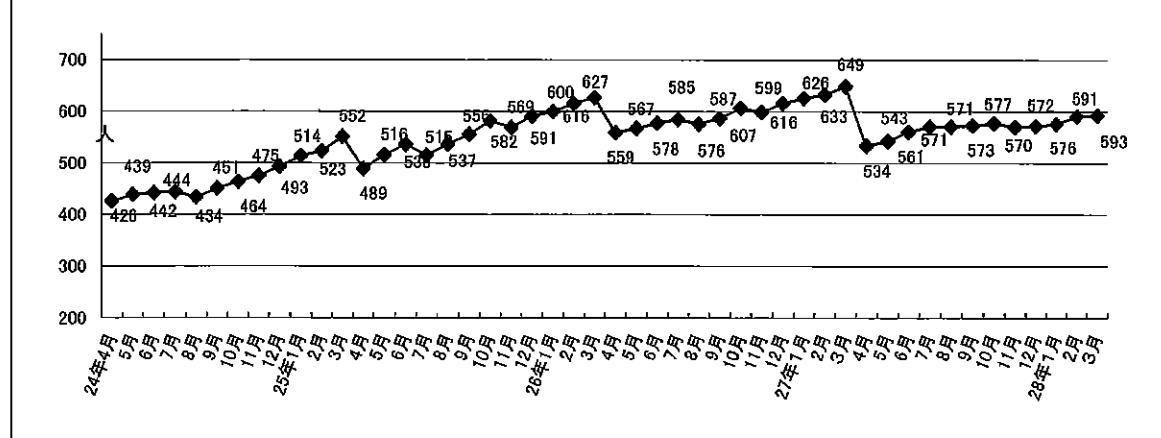
(4)介護度別の状況

(単位:人)

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度 ※支2=介1として計算
平成27年3月末現在	1	2	7	25	64	99	4.51
平成28年3月末現在	2	2	10	27	58	99	4.38
増 減	-1	0	3	2	-6		

(5)入所待機者の状況

つくし苑入所待機者数 平成24年4月1日～平成28年3月31日



4. 事業実施状況

平成28年3月31日現在

月	日	管理関係	日	行事ほか	日	実習・研修
4	1 3 5 8 9 10 15 17 20 23	辞令交付式・年度始め式 浄化槽保守点検 消防避難訓練 水質検査 県議会議員不在者投票 利用者用トイレ修理 煤煙測定 浄化槽保守点検 電気設備保守点検 市長・市議選不在者投票	11 22 22・23・ 26	賀寿祝い(1名) 賀寿祝い(1名) 桜花会 〃		
5	8~9 8・22 12 13 22 25 22 27 28	ガラス清掃 浄化槽保守点検 法人監事監査 コンビオーブン修理 ワックス掛け(ふるさと棟) スプリンクラー保守点検 浄化槽法定検査 定例理事会・評議員会 ねずみ・害虫駆除	10~24 11・26 21・27	大相撲星取り大会 買い物外出レク おやつ作り	12~7/9 25~6/24	大館准看護学院(3名×3G×9日) 秋田看護福祉大学 ソーシャルワーク実習(2名×23日)
6	5・19 10 16 9~15	浄化槽保守点検 電気設備保守点検 1円ポスト募金布巾寄付(老人クラブ連合会) 床ワックス掛け	9・15 18	個別外出レク 野外昼食会	1~19	比内養護学校高等部3年現場実習(1名×14日)
7	7 10 14 15 19~25 21~25 23 24 31	利用者健康診断 浄化槽保守点検 地下油槽清掃漏洩検査 計量器定期検査 床ワックス掛け 空調・換気扇清掃 厨房機器点検 浄化槽保守点検 エアコン室外機修理	12~26 22 22 26 30	大相撲星取り大会 康楽館芝居鑑賞ドライブ 茶話会(じゅかい棟) 茶話会(ふるーつ棟) 茶話会(ふるさと棟)	23~24 28~29	大館高校生活科学科福祉コース施設介護実習(2名×2日) 同(3名×2日)
8	1 6 11 19 21	大館南ガーデン竣工式 スプリンクラー設備修理 厨房設備修理 電気設備保守点検 浄化槽保守点検	1 16 17・27 28	つくし苑・ほうとうなつまつり 比内灯篭流し・花火鑑賞 おやつづくり 賀寿祝い(1名)	17~9/8	秋田看護福祉大学介護実習(3名×17日)
9	2 2~3 3 7・18 8 14~17	床ワックス掛け(ふるさと棟) ガラス清掃 ガラス清掃 スチコン修理 浄化槽保守点検 簡易水道検査 ガラス清掃	13~27 15 17 30	大相撲星取り大会 茶話会(じゅかい棟) 茶話会(ふるーつ棟) 敬老会		

10	9 9・23 22 26 29	避難訓練 浄化槽保守点検 受水槽保守点検 温水ポンプ交換 電気設備保守点検		*風邪症状感染拡大により行事中止	5~6	秋田大学医学部5年生実習(計5名)
11	6 12 13 19 20 21 24	浄化槽保守点検 臨時理事会・評議員会 温水用ポンプ交換 自動ドア保守点検 浄化槽保守点検 大型乾燥機修理 臨時理事会	3・7 8~22 9 16 22 25 25 27	個別外出レク 大相撲星取り大会 きりたんぼつくり 茶話会(ふる一つ棟) 賀寿祝い(1名) ビデオ観賞会 茶話会(ふるさと棟) 茶話会(じゅかい棟)		
12	4・18 7~15 15 21 22 28	浄化槽保守未点検 床ワックス掛け 電気設備保守点検 厨房設備保守点検 スプリンクラー保守点検 業務用乾燥機設置工事 仕事納め式	13 17 24	おやつ作り(ふるさと棟) 利用者忘年会 おやつ作り(ふる一つ棟・じゅかい棟)		
1	4 8・22 13 19 21~2/5 22 25	仕事始め式 浄化槽保守点検 ピット内配管漏水修理 厨房給湯器入れ替え 介護職員派遣応援(福島県広野町、特養花ぶさ苑) スプリンクラー保守点検 業務用洗濯機修理	10~24	大相撲星取り大会 *風邪症状感染拡大によりその他の行事中止		
2	1 5 7 8~16 12 15 19~21 19 23	漆器洗浄機修理 浄化槽保守点検 職員採用・登用試験 居住棟床ワックス掛け 公衆電話ディサービスへ移設 職員採用試験選考委員会 電話設備交換工事 浄化槽保守点検 職員採用試験合格発表 入札(福祉車両購入)	3 10 18 24 26	豆まき 個別レクリエーション(外出) 茶話会(じゅかい棟・ふる一つ棟) だまっこ作り 茶話会(ふるさと棟)		
3	3・15 4・18 14 22 29 31	漏電火災警報器異常点検 浄化槽保守点検 人事異動内示(4/1付) 浴室洗浄消毒 人事異動内示二次(4/1付) 退職者辞令交付式	3 17 22 26 27	ひなまつり おやつ作り 賀寿祝い(1名) おやつ作り 賀寿祝い(1名)		

5. 研修実施状況

内部研修 ※法人合同研修含む

番号	実施日	時間	対象	内 容	講 師	場 所	参加数 (のべ)
1	H27.4/1～H28.1/8	計 3460 分	新採用・登用職員研修	<主な内容> ①オリエンテーション ②労務関係オリエンテーション ③法人理念と運営方針 ④社会人マナー ⑤接遇の基本 ⑥チームケアとコミュニケーション ⑦事業所見学 ⑧感染症の知識と予防 ⑨介護職の倫理とコンプライアンス ⑩個人情報とプライバシー保護 ⑪介護技術の基本 ⑫ISO のしくみの理解 ⑬リスクマネジメント ⑭介護保険制度 ⑮他事業所業務体験 ⑯力量評価の仕方 ⑰先輩職員との交流 ⑱研修後の振り返り	法人内職員 (研修担当:施設長補佐 花田繁盛)	つくし苑内	69
2	H27.4/8	105 分	全職員	H27 年度 ISO 部門目標報告会	報告者:高橋辰也(介護)、能登谷直美(相談)、斎藤浩(事務)	ふれあいセンターやまびこ	21
3	H27.7 月	30 分	介護職員	応急手当研修「骨折・意識レベル低下、窒息等の対応研修」	主任看護師 武廣眞貴子	大食堂	35
4	H27.7/15,17,21	60 分	介護職員	「利用者本位の移乗とは」	移乗向上委員(三浦・田中・佐々木)	大食堂	
5	H27.9/7、	60 分	介護職員	「パットのフィッティングについて」	白十字株式会社 橋本氏	会議室	
6	H27.10/30、31、11/1,15	30 分	介護職員	医療的ケア研修(たん吸引)	副主任看護師 平澤真紀子 看護師 田子 晃代 看護師 高坂 一美	会議室	47
7	H27.11～12 月	30 分	介護職員	感染症研修 「吐物処理について」	各棟リーダー(高橋由香、高橋辰也、川嶋亜紀子)	各棟内	40
8	H27.12/3、8、10	60 分	介護職員	復命研修「中堅研修に求められる役割」	介護員 高橋 舞	会議室	37
9	H27.12/10	60 分	サブリーダー	「サブリーダーの役割」	棟リーダー(ふる一つ)高橋辰也	会議室	3
10	H27.12/26、28、29	30 分	介護職員	口腔ケア研修	栄養委員(市村・神田・長田)	大食堂	33
11	H28.2/17,22,26	60 分	全職員	認知症ケア研修	デイサービスれあれあ管理者 小貫 弥生	会議室	59
12	H28.3/23,29(2回)	30 分	介護職員	接遇研修	主任介護員 町井 美輝子	会議室 職員食堂	26
	総時間	3,985 分			延べ参加人数		370

外部研修

番号	期間	研修名	場所	参加職員
1	H27.4.17	県北地区老人福祉施設協議会総会	小坂町	施設長 鎌田 俊
2	H27.4.23~8.6	介護職員初任者研修	大館市	介護員 近藤 美咲 介護員 佐藤 楓
3	H27.4.24	県老人福祉施設協議会総会	秋田市	鎌田施設長
4	H27.5.25~29 6.1~8	介護職員のたん吸引等に係る研修(講義)	秋田市	介護員 小畠 涼
5	H27.6.22~23	たん吸引等に係る指導看護師養成講習(講義、演習)	秋田市	看護師 高坂 一美
6	H27.7.10	認知症ケアシリーズ「講演会」	秋田市	介護員 芝田和宏
7	H27.7.23, 24、 28~30	たん吸引等に係る指導看護師養成講習(演習)	大館市	看護師 高坂 一美
8	H27.8.25	社会福祉施設における感染症対策研修会～管理者に求められること～	大館市	施設長補佐 工藤 智美
9	H27.8.26~9. 10	介護職員等によるたん吸引等研修(講義)	秋田市	介護員 神田 千夏子 介護員 近藤 美咲 介護員 佐藤 楓
10	H27.8.26	社会福祉法人監事研修会	秋田市	鎌田施設長
11	H27.8.29,30 9/5,6	介護福祉士実習指導者講習会	秋田市	主任介護員 町井 美輝子 副主任介護員 高橋由香
12	H27.9.8~16 11/12.13	認知症介護実践者研修	秋田市	介護員 芝田和宏
13	H27.8.31~9. 1	施設職員中堅研修 I (組織性)	秋田市	介護員 高橋 舞
14	H27.9.3~4	施設職員指導者研修(組織性)	秋田市	副主任機訓指 佐藤 英明
15	H27.9.3~4	東北ブロック老人福祉施設研修会	秋田市	施設長 鎌田 俊 施設長補佐 花田 繁盛 施設長補佐 工藤 智美
16	H27.9.4	マイナンバー制度実務対応セミナー	秋田市	施設長補佐 花田 繁盛 施設長補佐 工藤 智美
17	H27.9.24	ストレスチェック制度説明会	大館市	施設長補佐 工藤 智美
18	H27.9.24~30	介護職員等によるたん吸引等研修(演習)	秋田市	介護員 神田 千夏子 介護員 近藤 美咲 介護員 佐藤 楓
19	H27.10.2	県北地区老人福祉施設長研修会	大館市	施設長 鎌田 俊
20	H27.10.15~16	秋田県北・能代・山本地区相談員部会研修会	大館市	副主任相談員 能登谷直美 生活相談員 苗代沢輝栄
21	H27.10.27~28	県老人福祉施設長研修会 I	秋田市	施設長 鎌田 俊
22	H27.11.5~6	施設職員指導者研修(専門性)	秋田市	副主任相談員 能登谷直美
23	H27.11.27	「暮らしの場で安らかに逝く・を支える看取りケア」	大館市	主任介護員 町井 美輝子 生活相談員 多賀谷瑞枝
24	H28.1.28	県北地区老人福祉施設連絡協議会「交流研修会」 「新たな取り組み 認知症改善へ」	大館市	主任介護員 町井 美輝子 介護員 佐藤 薫子 介護員 佐藤 真貴子
25	H28.1.22~2.4	福島県相双地域施設(被災地業務応援)	福島県 双葉町	介護員 片山 貴博 介護員 苗代沢 貴由
26	H28.2.4~5	老人福祉施設連絡協議会職員研修 II	秋田市	棟リーダー 川嶋 亜紀子
27	H28.3.20	摂食嚥下実技セミナー	秋田市	介護員 神田 歩実

6. ISO9001 活動報告

(1) 相談部門

【部門目標】 「看取りケアの充実に向けた取り組みの強化」

【設定理由】

近年、つくし苑で最期を迎えることを希望される入所者は増えてきており、今後も施設での看取りが増えることが予測される。「看取り」は日々の真摯なケアの積み重ねの先にあるものであり、相談員は日々の入所者個々のケアマネジメントを通じて、入所者本人及び家族の生き方や思いを、各部門へ繋げる重要な役割を担っている。

入所者のこれまでの人生の軌跡に寄り添い、家族支援を含めた看取りケアが提供され、信頼関係をもとに家族とのパートナーシップが構築できるように、相談部門として取り組んでいきたい。

【到達目標】

- ①家族参加によるカンファレンスの積極的開催(家族の思いに寄り添ったケアの検討・家族が抱える様々な不安の軽減)
- ②付き添う家族と共に最期の時間を穏やかに過ごせる環境の整備
- ③看取りに係るケアの知識や技術の習得、家族支援などに関する研修への参加
- ④看取りの指針やマニュアルの整備

【年間活動状況】

月	実施内容
4	テーマの設定、到達目標の共有
5	現状の把握 「到達目標(イメージ)の共有」をもとに、目標の達成に向けて必要な事項を探り、整理する。年間の活動計画の設定。 ①看取りに係るケアの知識や技術の習得(看取りに関する資料集め・勉強会の実施) ②静養室の環境整備 ③嘱託医との連携 ④看取りの指針やマニュアルの整備
6	看取りに係るケアの知識や技術の習得 ・過去の事例の振り返り ・静養室の環境整備(業者への見積もり依頼)
7	過去の事例の振り返り ・7月からショート相談員も加わっており、ショート相談員も看取りケアに対するイメージが付き易いように「看取りの指針や同意書・死亡時対応手順」について改めて確認している 静養室の環境整備(業者へ発注し、工事施工)
8	過去の事例の振り返り

9	嘱託医との連携(看取りに関する嘱託医の考え方や意見聴取)…嘱託医・施設長・施設長補佐・医務・相談員同席 ・つくし苑における「看取り期」の考え方が統一できるよう捉え方について確認
10	看取りに係るケアの知識や技術の習得 ・テキストをもとに、施設における看取り介護の定義と考え方・看取り介護加算の算定要件について勉強会を実施
11	看取りに係るケアの知識や技術の習得 ・テキストをもとに、看取り介護の流れに沿った相談員としての姿勢についての勉強会を実施
12	看取りケアについての研修参加・部門内での復命報告 看取りに係るケアの勉強会をもとに、その後の看取りケアで実践したことを確認し、部門内で共有
1	看取りの指針の整備 ・看取りに関する指針の見直し・書類の整備
2	看取りの指針やマニュアルの制定 部門内での今年度の活動のまとめ

【活動内容】

現状を振り返り、「看取り」に対する到達目標をイメージ化することで、取り組むべき課題を抽出している。その結果、家族参加型のカンファレンスの開催・静養室の環境の整備・看取りに係る知識の習得・看取りの指針やマニュアルの整備が挙げられた。これをもとに年間の活動計画を立て、部門内で情報共有している。

また、嘱託医を交えて、これまでの対応において職員間で困ったり判断に迷ったりした事例を挙げながら、看取りに関する嘱託医の考え方や施設における「看取り」について確認し、つくし苑としての看取りの捉え方や対応について整理している。

【まとめ】

今年度は『看取りケアの充実に向けた取り組みの強化』として、ハード面では静養室の環境を整備し、ソフト面においては看取りの指針やマニュアルを改訂することができた。部門目標として取り組み、文書を整理したことで、看取りに対する考え方や捉え方を整理することができたのは効果があった。

特に、看取りにおいては嘱託医との連携が必要不可欠なものであり、看取りに関する嘱託医の考え方を確認でき、また医務も交えた意見聴取がなされたことは、つくし苑としての看取りの捉え方や、嘱託医の役割を再確認する良い機会となったと感じている。

また、家族参加型のカンファレンスの開催や、看取り期へと移行する前段階で嘱託医との面談の場を設定する回数が前年度に比べて増えていることは、ご家族と一緒にチームケアを進めることができるとともに、体調不良時に嘱託医と面談することで、結果として最期の過ごす場所をご家族がどのように捉えているか、早い段階で確認することができ、ご家族の意向に沿った援助ができたと思う。

(2) 機能訓練部門

【部門目標】 「個別評価表の見直し」

【設定の理由】

前年度は、リハビリ部門と他部門とのコミュニケーションを強化し、生活リハビリが生活の場面で定着することを目的に、対応経過表を作成し運用してきた。対応経過表の活用より実施されたリハビリの効果を、定期的、かつ、継続的に評価していく上で、現在使用中の「個別評価表」を見直しし、効果的に評価できるよう目標設定とした。

【現状の把握】

前年度の取り組みにより他職種とのコミュニケーションの機会は増えたが、制定した「対応経過表」の認知度は低く、現場に有効に活用されていない。また、「対応経過表」と「個別評価表」に重複した機能があり、両者の活用はリハ職員にとっても手間になる。

【対策と実施】

* 個別評価表の見直し内容:

- ① 項目が細かすぎるため項目内容を整理し、利用者の状況をイメージしやすいように必要な情報を記載できるようにする。
- ② リハビリ職員が対応するケアプランのサービス内容を個別評価表に反映させ、モニタリング内容と連動するようにする。
- ③ 個別評価表の見直し案を作成し、試行を続けながら、都度追加修正してきた。
- ④ 「対応経過表」の活用による手間を解消するため、「対応経過表」の使用を廃止し、東経システム内のケース記録の活用に移行する。

【結果】

ケアプランに連動したリハビリ評価が、確実、かつ、効果的に実施されるようになった。また、リハビリの対応経過が、他職種のマネジメントサイクルと連動できたことにより、効率的効果的な実践経過と状況の把握が可能となった。

それによりリハビリ職員の負担感も軽減し、日々の取り組み姿勢も前向きに変化している。

【今後の取り組みと課題】

今年度目標としていた「個別評価表」の見直しを実現することはできなかつたが、取り組みの過程において、リハビリ部門のマネジメントサイクルにおける課題が明らかになり、より効率的効果的に回るための改善につなげることができたことは大きな成果であった。

今後は、部門内で施設の機能訓練の在り方とその意義をしっかりと共有し、これまでのやり方に捉われることなく、様々な視点から利用者の個別ニーズを引き出し、多様で幅広いリハビリが提供できるよう取り組んでいく。

(3) 医務部門

【部門目標】 正規入所の利用者様のカルテの見直し

【目標設定の理由】

前年度、緊急受診時や入院時にどの職員でも情報提供がスムーズに行えるように活動してきた事を踏まえ、今年度は緊急受診・入院の他、定期受診や回診・往診において

もスムーズに情報提供できるように、分散された情報を整理し改善したいと考えた。

【実施内容】

(1) 現在使用しているカルテの問題点の抽出。

- ・受診、回診履歴表は記入する機会が多く、また薬事情報をファイルする機会も多い。更に回診では医師がカルテに記入する事がある。使用頻度の高い項目を速やかに開けるようにしたいが、カルテ内が雑然としており必要な情報等を探すのに時間を要している。
- ・各科カルテ、検査結果の見出しが小さく、古い情報も綴じられているため見つけにくい。
- ・カルテ内での管理が不要な情報等も綴じられており、カルテが厚く重くなっている。

(2) 改善策の検討。

- ・ファイル順を統一し、特に良く使う情報等をクリアケースの前にすることにより、それが目印になりスムーズに開けるようとする。
- ・見出しの字を大きくし、カードデックスも新しいものに変える。
- ・今後不要と思われる物や古いケース記録は整理する。

(3) 改善策の実施

1) ファイル順の決定

- ①緊急受診用クリアファイル
- ②薬事情報
- ③受診・回診履歴表
- ④クリアケース
- ⑤インフルエンザ予診表
- ⑥検査結果
- ⑦主治医意見書
- ⑧ケアプラン・アセスメントシート
- ⑨診断書・退院時サマリー
- ⑩各科カルテ
- ⑪入退院チェックシート

※①に入れるものは、基本情報フェースと既往歴表のみに変更。

※②薬の説明が書かれている見やすい為、以前行っていた処方箋のコピーをクリアファイルに入れるという方法から変更している。なお、受診時や入院時に情報提供する時は病院でコピーをとてもらい原本は返してもらう。処方変更時は、カルテ担当者が新しいものと交換する。臨時薬はファイルしない。

※④クリアケースに入れるものは肺炎球菌ワクチン・胃瘻交換のカード。

※⑥定期採血がある場合、結果が届き次第カルテに貼付する。

2) カラーインデックスを新しくし、ファイル項目毎に色を決め、大きな字で表示する。

- ①検査結果:グレー
- ②主治医意見書:黄緑
- ③ケアプラン・アセスメントシート:黄色
- ④診断書その他:オレンジ
- ⑤各科カルテ:青

3) 現在カルテに挟んでいる古いケース記録や書類の整理

- ①SS利用期間中のケース記録はSS相談員が保管している為、正規入所になった時点で破棄。

- ②初回面接記録は相談員が保管している為、コピーは破棄。

- ③書類が多い場合は別に綴じている為、相談員へ渡して一緒に保管してもらう。

なお、実施についてはそれぞれの担当者が担当分のカルテ管理を行う。

今後のカルテ整理の継続に関しては、5月・9月・1月をカルテ整理期間として、担当のカルテを点検していく。

4) 新規入所者のカルテについて

①初回面接に参加した職員がカルテ表紙に氏名のテープを貼る。情報をケースに入力し、印刷してカルテに綴じる。カラーインデックスを綴じる。

②担当職員が面接等の情報を基に、既往歴表を作る。その他の必要書類をそろえて綴じる。

長期ショートステイから正規入所となった場合は、①入所日が決まった日の遅番がカルテ表紙に氏名のテープを貼りカラーインデックスを綴じる。②担当職員が必要書類をそろえる。

【効果の確認】

よく使用する回診歴や受診歴を1番開きやすくする事により、履歴(内容を含む)の検索や受診等の記録時間が短縮され、業務の効率化につながった。

不必要的書類をカルテから外すことで、必要な情報だけを集約し整理でき、見出しを統一したので必要な情報をすぐに検索できた。また、受診の際は数人分のカルテを持参することもあるが、不要な情報を整理したことによりカルテの軽量化が図られ、持ち運びの際にも容易になった。

処方箋から薬情に変更したことにより、受診先の看護師からも内容が把握しやすいとの声があった。

【今後の課題】

平成26年度から引き続きカルテ整理を部門目標として取り組み、緊急受診時に受診対応者(医務・介護・相談等)が、医療機関への的確かつ効果的に情報提供できることを到達目標とした。また、カルテ整理に係る部門内のルールを明確にし、各担当がカルテ整理に着手することができた。

しかし、整理が不十分なものや他利用者の情報が誤って綴られているものなどが散見されており、再整理が必要なものもあった。今後、年3回カルテ整理の時期を設け、定期的に実施していく予定としているが、確実に実施していくか、また、ルールに則り確実にカルテが整理されていくかなど、今後の継続性への課題がある。一時的な取り組みに終わることのないよう、より効率的で効果的な管理手順と仕組みを模索していく。

(4) 介護部門 ふる一つ棟

【部門目標】 「担当職員のモニタリング実施の定着」

【目標設定の理由】

ケアプラン会議開催後の利用者サービスの提供については、提供後の効果が確認できていなかった。モニタリングを実施することで、利用者との関わりが増え、職員が担当利者に対する責任を自覚することにもつながり、職員のスキルアップやサービスの質の向上につながるのではないかと考え、今回の目標に取り組むこととした。

【現状の把握と課題】

棟職員へ利用者へのサービス提供後のモニタリングについてアンケート調査を実施し、モニタリングの実施状況や必要性等について確認した。

アンケート調査の結果、サービス提供後のモニタリングの実施について、以下の課題が明らかになった。

- ① モニタリングはほぼ実施できていない。(職員 12 名中 11 名が「出来ていない」と回答。)
- ② モニタリングを実施できていない理由は、「(実施を)忘れている」との回答が多く、実施が習慣化されていない。
- ③ 職員全員がモニタリングの実施について「必要」と回答しており、必要性は感じているが、実施につながっていない。

【現状の課題に対する実施内容】

棟リーダーが棟職員へ個別の聞き取りを実施したところ、モニタリングの必要性は理解しているようであるが、モニタリングの意義や目的について明確に述べることができる職員は少なかった。また、モニタリングの視点についても職員の個人差があり、それがモニタリング記録にも反映されていることが分かった。

そこで、再度棟リーダーより職員へ取り組みの経緯の説明を行い、本活動のモニタリングは「介護職員の介護過程の展開におけるモニタリング(評価)」の位置づけであること、記録入力の観点ではなく利用者への介護実践の状況とその結果(利用者の反応や客観的事実等)を、担当職員が「見る」「関わる」「触れる」こと等により把握していることが重要であることを改めて説明している。

【到達目標】

「モニタリング能力(スキル)の向上」

【対策の実施】

8月～12月まで以下の対策を実施した。

①利用者サービスに関わる検討会の開催

月1回の棟会議において、担当職員より利用者の情報提供やケア内容について、他の職員から意見を求めたり、課題を議題提起したりする機会を設ける。それにより、担当職員の利用者サービスの提供に係る「自覚」と「責任」を促すことにもつながった。上記期間において、計37事例について職員より情報提供や議題提起があり、具体的なケア内容の検討や対応時の留意点等について話し合うことができた。

②ケアプラン経過の入力内容や方法の見直しと、観察ポイントの統一を図る。

職員の個人差が大きく、サービスに至った「経緯」「経過」「実施の効果」など効果的なモニタリングが実施できるよう「出だし項目」を統一した。また、記録の「仕方」ではなく、記録の「内容」に重点をおいて進めていくことを都度共有しながら取り組んだ。

【効果の確認】

棟職員のほか、他の施設職員(施設長補佐、相談員、介護主任、他棟リーダー)より、本活動の効果について確認した。

(棟介護員の意見を抜粋)

<効果>

- ・これまで担当利用者への関わり方が分からず、どの部分を注意して観察すべきか悩んでいたが、今回の取り組みにより留意点が分かってきたように思う。
- ・ケアプランのサービス内容の根拠(経緯)を意識するようになったことで、利用者の全体像を理解することができ、ケア時も既往歴等について考え対応するようになった。
- ・利用者サービスに関することを棟職員間で協議する機会が増えた。
- ・どのようなことを観察していくべきか理解できるようになった。

<課題>

- ・取り組み間もないせいか、ケアプラン経過の入力にかなりの時間を要し、時間外で殆ど対応せざるを得なかった。
- ・まだ個人の力量差があり、指導を要する職員もいる。

【まとめ】

目標に対する職員個々の理解度に違いがあり、活動を浸透させることの難しさを痛感した。しかし、施設ケアマネジャーが行なうケアマネジメントの「モニタリング」ではなく、介護職員による「介護過程の展開におけるモニタリング(評価)」であることを伝えたことにより、この目標の位置づけが明確となり、今回の取り組みの方向性を共有することができた。

現状の「ケアプラン経過入力」を活用することにより、職員の情報収集能力は向上した。また、棟会議における検討事例も徐々に増え、担当職員が利用者個々のニーズに目を向けるようになったことは大きな成果であった。

さらに、活動を通じて職員が互いに内容を確認しあい、意見交換する姿が増え、介護専門職としての意識や棟内のコミュニケーションの向上につながった。

今後は、個人の力量差を解消できるようリーダー・サブリーダーによる指導を続けていくとともに、担当職員に限らずチームとして利用者ケアを検討できるよう取り組んでいく。

(5) 介護部門 じゅかい部門

【部門目標】 「定期的な余暇活動の実施」

【目標設定の理由】

以前は、利用者に比べ余暇活動を提供する場が少なくなったのではないかという声が職員からあがつた。個別の対応が出来ている利用者もいれば、余暇の提供が十分に行なえていない利用者もいる。グループレクリエーション等の実施や利用者に楽しんでもらえる時間を持ちたいという思いもあるが、なかなか定期的なレクリエーションの提供が行なえていなかったため、今回の目標設定となった。

【現状の分析】

目標の実現に向け、余暇を提供できない理由や余暇の具体的な内容について、棟会議にて職員から意見を出してもらった。

職員からは、「日勤帯に職員が少ない為、提供する時間がない」「忙しい」「経管栄養の方は離床してもらうのが大変」との理由が聞かれた。

余暇の具体的な内容については、「散歩」という意見が多く聞かれており、経管栄養の利用者を含め、どの利用者に対しても提供できることが主な理由であった。棟会議で

の意見聴取後、1ヶ月間で職員の対応に変化があったか否かを確認したところ、「積極的に自ら考え余暇を提供した」職員と「提供できなかった」という職員に区分され、本取り組みへの意識に職員の温度差があることがわかった。

【実施内容】

利用者一人ひとりに何が出来そうか、何が楽しめそうか意見をだしてもらった。また、担当以外の職員も活用できるよう、利用者個々のニーズを反映した余暇メニュー表を作成し、余暇提供時にはその実施状況をケース記録に入力することとした。

取り組み当初は、利用者へ余暇を行なっているものの、記録に残すことが徹底されず、余暇メニュー表の活用も十分ではなかったが、棟会議でこの活動の情報共有や意見交換を積み重ねていくなかで、利用者本位の余暇内容の検討や職員間のコミュニケーションが図られるようになってきた。

しかし、余暇の実施には職員の個人差が見受けられることが課題となっていたことから、余暇の時間として業務日課に盛り込み、余暇の提供時間を定め対応してみることとした。棟職員の意見を聴取し、「16時頃を「余暇の時間」としたところ、業務に組み込んだことにより余暇への意識が高まり、実施しやすくなったとの声が聞かれるようになった。が、反面、「やらされている感がある」との意見もあり、定着には至っていない。

職員へは、余暇を実施することの意義を改めて棟会議で共有し、今回の目標を振り返る機会を持った。職員が業務に追われるなかでも、職員が少しでも利用者とふれあうことを意識し、施設での暮らしの中でも利用者の喜びや楽しみを可能な限り引き出せるよう取り組んでいく。

【まとめ】

利用者の体調や苑内の風邪の流行等により、思うように余暇を提供できなかつたこと也有った。が、取り組みを続けるなかで、少しずつではあるが棟内でも「何をしようか、余暇を提供しよう」との声も聞かれるようになった。

取り組み当初と比べ、職員の意識も余暇の提供の実現に向け、変化してきているが、すべての利用者に対し効果的な余暇を実施できておらず、「定着」には至っていない。また、余暇を提供した後の「実施の記録(ケース入力)」が不十分など課題も残されている。

平成28年度は、余暇の提供方法や内容の充実、参加の勧奨等について具体的な対策を強化し、継続的効果的に実施できるよう取り組んでいく。

職員が業務繁忙な状況にあっても、少しでも利用者とふれあう時間を持ち、利用者の喜びや楽しみを可能な限り引き出せるよう、棟職員で目標を共有し意欲的に取り組んでいきたい。

(6) 介護部門 ふるさと棟

【部門目標】 「午後の軽体操が毎日行えるようになる」

【目標設定の理由】

数年前からショートステイの利用者に対して、毎日午後に軽体操を提供してきていたが、棟編成以降の業務変化や当日の棟の状況により軽体操を実施できない日があった。毎日の軽体操は身体を動かす機会になり、不活発な生活にならないようにする一つの

手段であり、利用者の楽しみにもつながるものであることから、利用者へムラなく提供できることを目指し、目標設定とした。

【現状の把握】

5月上旬、前月の軽体操の実施状況を調査したところ、未実施日が4日間あった。未実施の理由の内訳は①慰問や行事があった。②職員側(業務)の都合。であり、軽体操が毎日実施されていないことを確認できた。

【実施内容】

業務に関連して実施できていない原因を分析し、軽体操を提供する時間を確保できるよう業務の見直しを行なった。昼食時の終了時間が遅くなることに対しては安全に配慮しながら食事席を増やし、日勤が誘導の補助に入ることを対策として実施した。10月上旬に苑内で風邪が流行したことにより、感染拡大防止の観点から集団レクリエーションの提供を中止し、軽体操の実施も一時休止したが、苑内の感染解除に伴い、11月に再開している。

その後も利用者の急変や職員の欠員など突発的な理由により軽体操が実施できない日もあったが、2~3月は安定して実施することができ、目標を達成することができた。

【まとめ】

軽体操の時間を確保するため、日勤者が補助に入るように役割を振り分けたことが、毎日の軽体操の継続実施につながった。棟職員も体操の必要性を認識し、毎日提供できるように意識して活動に取り組むことができた。

職員も実践を継続することで、この活動の「必要性」や「利用者の意欲」を感じることができ、職員の意欲も向上することができたのではないかと感じている。引き続き日勤が軽体操の参加誘導に協力できる体制をとり、継続的に軽体操を実施できるよう取り組んでいく。また、今後の取り組みの中で、軽体操だけではなく他のメニューも棟内で実施できるよう検討していきたい。

平成27年度 大館市デイサービスセンター大滝 事業報告

デイサービスセンターは、身体機能維持や介護者の休息時間の確保、また他者交流の場や生きがいづくりと社会性を保った生活を維持するための役目を果たしている。外出の機会が減少することにより活動性や身体機能の低下など考えられ、その課題に対し計画的に援助を提供してきた。

平成27年度は、介護報酬の改定が行われ通所介護費が引き下げられ、加算要件が細かく設定されたものとなった。中重度者の受け入れやリハビリ実施体制を整え制度改革への対応を行ってきたが、これまでの収支をみると厳しい運営状況となった。平成28年度は、これまでのサービス体制を改めて見直し、より専門性の高いサービス提供につなげたい。

また、開設から17年経過し設備の経年劣化も目立ち、利用者のニーズ、現状に沿った設備投資を検討してきた。平成28年度は、入浴設備設置を計画しているが、それに合わせ利用者のニーズに添えるよう介護技術の習得に努めたい。

平成27年度は、部門の活動として「職員間の連携を図る為に、学習の機会を作る」目標に取り組んだ。学習のテーマを「連携を図るための自分自身のありかた」「連携の方法」「連携を高める組織」の三つに絞り込み、職員全員が参加し三チームに別れ、それぞれのテーマについて学び、知識を深めることができた。また、各チームが学んだ知識を研修で伝え合い、目標である「学習の機会を作る」ことは達成できた。今回の活動は、これから職員に対する指導の場で活かせる内容もあり、すべての職員が大きな学びを得た。振り返りからは「チームワークの勉強になった」「学んだ内容を活かしたい」等とあり、一定の成果が見えた一方、「研修をどうして学んだことをまだ活かせない」等、学びと実践とのかい離に関する葛藤もみられ、今後の課題としたい。

平成27年度の顧客満足度調査からは、多くの「ねぎらいの言葉や感謝の言葉」を頂いている。初めて取り組んだ「大人の社会科見学(外出)」については好評であった。しかし、顧客満足度調査の意見の中には、専門職としての技術や接遇面についての課題も挙げられており、改善すべき課題も見つかっている。

今後も、在宅生活を支える柱として「その人らしい生活」ができるように利用者の状況を把握・観察し一人ひとりのニーズに沿った援助を提供したい。また、自らの業務を振り返りつつ、課題に謙虚に向き合い、職員で話し合いながら改善へつなげ、利用者にとって楽しみと生き甲斐のあるデイサービスであるよう事業を進めていく。

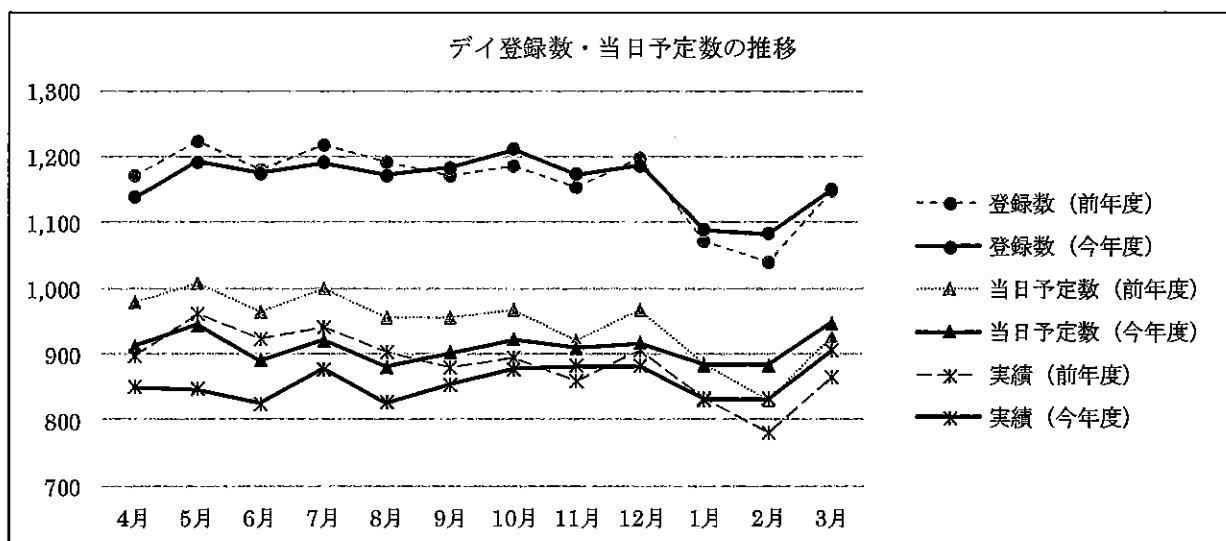
平成28年3月31日

大館市デイサービスセンター大滝
管理者(主任介護員)工藤 祐子

1. 事業実績

(1) サービス実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
営業日数	30	31	30	31	30	30	31	30	31	29	29	31	363	362
登録者数 (延べ)	1,139	1,193	1,175	1,191	1,172	1,183	1,212	1,173	1,187	1,089	1,083	1,150	13,947	13,950
当日予定 (延べ)	912	945	890	922	881	902	923	909	917	884	883	947	10,915	11,354
利用人数 (延べ)	850	847	825	878	827	855	877	882	882	831	833	906	10,293	10,643
上:予防実 中:介護実 下:合計	59	56	53	52	52	52	52	53	52	51	54	56	642	776
	85	88	88	86	82	81	84	87	84	82	78	77	1,002	1,051
	144	144	141	138	134	133	136	140	136	133	132	133	1,644	1,872
廃止停止	1	1	1	4	3	3	4	6	7	0	3	4	37	43
新規	6	1	0	2	0	3	2	4	2	2	0	3	25	23



	年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	構成比
要支援1	H26	24	24	22	20	20	19	17	19	16	15	14	14	224	12.3%
要支援2	H26	45	46	45	46	47	47	47	47	46	47	46	47	552	30.2%
要介護1	H26	37	36	37	37	36	37	35	36	36	33	31	32	425	23.2%
要介護2	H26	23	21	22	20	19	15	17	17	18	17	16	20	225	12.3%
要介護3	H26	14	16	14	16	16	16	15	17	15	14	14	13	180	9.8%
要介護4	H26	12	14	15	14	14	14	14	14	14	13	12	11	161	9.3%
要介護5	H26	5	6	6	6	6	6	6	5	4	4	4	4	615	3.3%
計		160	164	161	159	158	154	151	154	150	142	138	137	1,828	100.0%
要支援1	H27	18	18	14	16	14	14	14	14	13	10	12	13	170	10.3%
要支援2	H27	41	38	39	36	38	38	38	39	39	41	42	43	472	28.7%
要介護1	H27	34	34	35	33	33	30	34	36	35	33	33	29	399	24.3%
要介護2	H27	19	21	20	20	19	20	19	21	19	23	21	24	246	15.0%
要介護3	H27	15	16	16	15	14	15	16	15	16	15	14	14	181	11.0%
要介護4	H27	13	12	12	12	11	11	10	9	8	7	6	6	117	7.1%
要介護5	H27	4	5	5	6	5	5	5	6	6	4	4	4	59	3.6%
計		144	144	141	138	134	133	136	140	136	133	132	133	1,644	100.0%

2. 行事実施状況

月	行事・レク名	実施日	延人数	
4	観桜ドライブ	4/23（木）～4/26（日） 5/4（月）～5/6（水）	7日間実施	157
5	買い物ツアー（陽気な母さんの店）	5/25（月）～5/31（日）	7日間実施	23
6	十二所保育園慰問	6/30（火）		28
	買い物ツアー（曲田ローソン）	6/30（火）～7/10（金）	6日間	15
7	買い物ツアー	7/27（月）～8/2（日） 8/7（金）	8日間実施	27
8	夏祭り	8/17(月)～8/23(日)	7日間実施	198
9	敬老会	9/14（月）～9/20（日）	7日間実施	203
10	森のおうち交流会	10/7（水）		24
	買い物ツアー（ダイソー）・紅葉ツアー	10/26(月)～11/1（日）	7日間実施	39
11	だまっこ作り	11/16（月）～11/22（日）	7日間実施	210
12	十二所保育園クリスマス交流会	12/21（月）		23
	クリスマス忘年会	12/14(月)～12/20（日）	7日間実施	195
1	正月を楽しもう	1/3(日)～1/9(土)	7日間実施	210
2	おでんバイキング	2/15（月）～2/21（日）	7日間実施	201
3	デイオリンピック	3/14（月）～3/20（日）	7日間実施	210

3. 研修参加状況

内部研修

月	場 所	研 修 名	講 師
4	デイホール	火災避難訓練（要綱確認・訓練実施）	川嶋慎一・児玉京子
5	デイホール	マニュアル「業務日課表」の確認	工藤祐子・畠山芳人
8	デイホール	接遇	工藤祐子
11	デイホール	感染症予防研修	畠山芳人・千葉洋子・北林綾
12	デイホール	ISO 部門目標研修「自分自身」	工藤祐子・児玉京子・北林綾・虻川真由子・安達美代子・栗山一夫
1	デイホール	ISO 部門目標研修 B チーム「方法」	川嶋慎一・野呂祐美・千葉洋子・菊沢ルミ子・横山強
2	デイホール	ISO 部門目標研修 A チーム「チームワーク組織」	畠山芳人・新井直子・児玉朋子・田中幸子

外部研修

月	開 催 地	研 修 名	参加者
10	大館市中央公民館	在宅医療チームのあり方を考える～他職種連携における促進要因と阻害要因～	児玉 京子

3. ISO9001活動報告

【部門目標】 「職員間の連携を図るために学習の機会をつくる」

援助の場面に置いて利用者を持たせる不便を掛けることがあると課題があった。状況を確認する中で「職員数が少なくてもスムーズに業務を運べる日もあり、職員数がそろっていても、全然業務が進まない日がある」とのこと。業務の仕組や役割の問題よりは、職員間の連携とチームとしてまとまった動きが出来ていないことに問題があるのではないかということから取り組みたい。

【活動状況】

(1) 現状把握

「連携がとれる時」をテーマにし3グループに別れワールドカフェ形式で検討を加え、挙げられた意見を分類した。

(2) 研修内容決定

分類したものを参考にし、KJ法を用いて「何を学んだらいいのか」話し合っている。「自分自身」「方法」「組織」について学ぶこととした。

(3) 研修準備期間

絞り込んだ三つのテーマをどのように研修を開催するか、職員全員を三グループに分け、グループ毎にそれぞれのテーマについて研修準備に取り組んだ。研修開催月を決め、それぞれのグループ活動の進捗状況を毎月会議で報告し共有した。

※事前に各チーム活動に向けて、チームリーダー三名で活動の「ゴール⇒研修準備」「ねらい⇒テーマの知識を得る」「研修のねらい⇒どうしたら皆にわかつてもらえるか」を共有している。

【活動内容】

	12月	1月	2月
研修テーマ	自分自身の感情のコントロール	アサーションについて、チームの発展過程ほか	チームワークと組織とは

【活動のまとめ】

職員全員に今年度の活動で学んだ事の振り返りを用紙に記入してもらい、会議で全員発表した。目標は達成できたが、今後の実践へつなげる課題に気付く機会となり、これから活動につなげていきたい。

平成 27 年度 事業団ホームヘルパーステーション 事業報告

ヘルパーステーションは、可能な限り在宅で安心して暮らしたいという利用者の思いに寄り添いサービスを提供してきた。日常生活における自由な自己決定の積み重ねが「尊厳ある生活」の基本と考え、自立支援を目的に利用者の意思を尊重しながら支援した。

平成 27 年度は、活動件数が月平均 733.6 件(平成 26 年度 837.6 件)であり、前年を大きく下回る結果となった。新規の依頼も見られたが、夏場と冬場の利用が低迷したことや、体調の不良による入院やショートステイ利用、施設入所等の住み替えも影響があった。しかし、福祉輸送サービスの依頼は増加傾向にあり「通院等乗降介助」の活動実績については、全援助時間に占める割合が 3% 台から 4% 台へと漸増している。病院への移動に伴う利用者の金銭負担を低減することは、地域とともに支え合う社会福祉法人の責務としても有益なものである。

ISO の部門目標活動においては、訪問介護計画書の作成が滞りがちであり、時には配布が遅れる状況が見られることから、「訪問介護計画書のプロセスの見直し」を目標とし活動した。サービス提供開始月には利用者への説明・同意・交付が終了しているよう取り組み、目標が達成できている。また昨年度取り組んだ「記録の標準化」についても、新たな職員への教育ならびに既存の職員の力量の担保を目的として、マニュアルの作成に取り組むこととした。

最後に、住み慣れた地域で暮らし続けたいと思われる利用者および家族の抱える様々な事情を理解し、心身の負担の軽減につなげていきたい。訪問介護は、在宅介護の最前線に位置する重要なサービスであり、様々な生活様式を抱えた地域の高齢者に寄り添いながら、その生活を支えていくことに誇りを持ち事業に臨んでいくことを誓い、事業報告とする。

平成 28 年 3 月 31 日

大館市社会福祉事業団ホームヘルパーステーション

管理者(サービス提供責任者) 羽澤 紀子

1. 事業実績

(1) 利用人数(実)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
介護予防	27	26	26	28	25	25	28	30	26	28	26	26	321	41.8%
要介護	39	37	36	39	35	33	35	36	34	33	34	33	424	55.2%
軽度生活支援	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3	0.4%
生活管理指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
移動支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
障害者支援	2	2	2	2	0	2	2	1	1	1	2	3	20	2.6%
計	68	65	64	69	60	60	65	68	62	63	62	62	768	100.0%

(2) 活動件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
介護予防	137	135	141	148	103	119	143	130	122	111	122	96	1,507	17.1%
要介護	503	483	509	569	499	483	491	456	467	511	521	536	6,028	68.5%
軽度生活支援	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	0	0	8	0.1%
生活管理指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
移動支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
移送サービス	118	64	82	98	79	109	114	114	111	111	111	111	1,222	13.9%
障害者支援	4	4	2	5	0	2	4	2	4	1	3	7	38	0.4%
計	762	686	734	820	681	713	752	703	707	738	757	750	8,803	100%

2. 要介護度別利用者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	構成比
要支援1	10	8	8	11	9	9	10	11	8	10	11	11	116	15.6%
要支援2	17	18	18	15	16	16	18	18	18	18	15	15	202	27.2%
要介護1	15	17	15	16	16	15	19	18	17	17	18	18	201	27.1%
要介護2	9	6	4	6	4	4	3	5	4	5	5	5	60	8.1%
要介護3	8	8	10	11	9	8	7	8	8	7	7	6	97	13.1%
要介護4	5	4	5	3	4	4	4	3	3	2	2	3	42	5.7%
要介護5	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	24	3.2%
計	66	63	62	65	60	58	63	65	60	61	60	59	742	100%

3. 研修参加状況

内部研修

月	研修名	場所	講師	人数
5	倫理・法令遵守 ～ヘルパーのやつていいこと悪いこと	ヘルパー室	羽澤紀子 伊藤裕子 工藤恵子 小松政子	6
6	食中毒について	つくし苑 会議室	滝沢管理栄養士	10
7	調理実習 ～食中毒予防を意識した調理	十二所公民館 調理室		9
8	高齢者の疾病について ～糖尿病について	ヘルパー室	資料協力 稻部看護師	10
9	調理実習 ～糖尿病に留意した調理	十二所公民館 調理室		10
11	感染症について	ヘルパー室	羽澤 紀子 伊藤 裕子 小松 政子	7
12	もう一度振り返る介護の基本～身体介護(入浴援助)	デイサービス 浴室	羽澤 紀子	9
2	もう一度振り返る介護の基本～生活援助(調理)	十二所公民館 調理室		10
2	リスクマネジメント	面談室	伊藤補佐	10
3	介護記録について～振り返り	ヘルパー室	伊藤裕子	9

外部研修

月	研修名	開催地	参加者
4	福祉有償運送運転者講習	北秋田市	羽澤 紀子
5	ヘルパー協鹿角・北秋支部前期研修会 『海外研修から得た現状と問題提起』	鹿角市	羽澤 紀子

11	ヘルパー協ブロック別研修会 『認知症を学ぶ』	大館市	羽澤 紀子 伊藤 裕子 工藤 恵子
1	サービス提供責任者に求められる役割について	秋田市	羽澤 紀子

4. ISO9001 活動報告

【部門目標】 訪問介護計画書のプロセスの見直し

【設定理由】

訪問介護計画書の作成が滞ることが見られ、利用者への交付も滞ることがある。昨年の内部監査ではモニタリングが実施出来ていないことが問題としてあげられ、訪問介護計画書の作成プロセスについて、見直しと改善が必要と思われ目標として取り組んでいくこととした。

【活動状況】

(1) 現状の問題点を把握する

『どこが回っていないのか？』訪問介護計画書の作成フローと作成手順を職員(登録ヘルパーも含め)個々にチェックする。

(2) 問題を特定する

①手間がかかる。②基準があいまい。③モニタリングが出来ていない。対応として、訪問介護計画書の手順の見直しする必要があり、フローチャートを見直し、運用することとした。

(3) 新様式の案を確認

訪問介護計画書の作成プロセス全体をサービス提供責任者が管理していく仕組みとなり、担当ヘルパーから、モニタリングの内容と訪問介護計画書の内容も分からぬとの意見があった。そのため、周知することとした。また、利用者個別のサービス留意点を記した「個別マニュアル」の修正ならびに「訪問介護計画書作成管理表」(作成全体の実施状況を管理するシート)の運用についても流れを明確にする必要があった。そのため「訪問介護計画書作成管理表」を改定し、フローチャートを再度変更した。

(4) 新様式の案を試験運用

訪問介護計画書の作成、モニタリングは、担当者会議ごとに更新と回覧が出来よう

になった。

(5) 本運用と評価

作成管理票が埋まり次第、決裁に回していくこととした。利用者への説明と同意は、当月中には終わっていなければいけない。その為遅れがある場合は、『協力しながら動く』ことを意識することとした。

【評価(まとめ)】

訪問介護計画書策定過程の(立案～評価)の流れを意識しながら、アセスメント・訪問介護計画書の作成・モニタリング・担当ヘルパーへの回覧がスムーズに流れようになってきたため継続していく。「個別マニュアル」に関してはサービス提供責任者と担当ヘルパーで作成していくこととした。ヘルパー間で回覧した訪問介護計画書は、台帳にファイルし変更・修正した部分についてもスムーズに確認できるようになっている。

平成27年度 指定居宅介護支援事業所おおたき 事業報告

居宅介護支援事業所では、在宅で生活する要介護者が自立した生活を送ることが可能となることを目的に、また要介護状態の軽減や悪化の予防を図ることを目的として介護保険制度を始めとする諸制度やサービスを組み合わせ、その人が望む生活の実現を目指し支援している。

平成 27 年 4 月には介護保険制度の改正が行なわれた。これまで別に算定することを認められていた認知症加算や独居高齢者加算が基本報酬へと包括化され、居宅介護支援費の単価が上がったことで、制度側から見ればケアマネジャーの専門性をより一層期待される状況となった。事業所内部では、自立支援に資する居宅サービス計画書の立案を目指し、面接技術やサービス計画書の作成方法に関する研修機会を設け、またグループスーパー・ビジョンを行ないケアマネジャーの資質向上に努めながら事業運営を行なってきた。

そのほか、認知症高齢者についてはその疾患の理解とともに、ケアマネジメントにおいても専門性を活かした支援が求められることから、平成 27 年度は認知症の人をとりまく社会資源についての調査を行ない、取り組みの結果、認知症ケアマネジメントガイドライン及び利用者向けの認知症に関する資料の作成に至った。今後は作成した資料を、実際のケアマネジメント業務において活用しながら、認知症に関して不安を抱える利用者の不安軽減へつなげ、認知症に罹患しても住み慣れた地域での生活を続けることができるよう取り組む。

実績面では、年度の初めと比較し概ね横ばい状態を推移している。平成 27 年度の改正により居宅介護支援の基本報酬は上がった。しかし、実績をみると、報酬単価の高い「要介護 3~5」の中重度者の人数が減少し、「要介護 1・2」の軽度者の人数が増加している。これは、市内特別養護老人ホームの整備ならびに有料老人ホーム及びサービス付き高齢者住宅への入居により中重度者の異動が見られたことによるものと分析している。この経過ならびに地域の高齢者数の推計から、給付管理件数の増加を見込むことは難しい。したがって、給付管理件数の推移を今後も見守りながら、適正なケアマネジャーの配置を含め検討していく。

重度者の長期入院や病院から直接の施設入所の希望など、給付管理の対象にならないケースもあるが、社会福祉法人が設置する事業所の使命のひとつとして、これらの相談支援を継続する。

介護支援専門員は、「自立支援」「公正・中立性」「総合的かつ効率的なサービス提供」に資する適切なケアマネジメントを推進していくことを期待されており、専門職としての力量の向上を図りながら、期待に添える力量を確保するため、職員一同が支え合いながらそして高めあいながら業務に臨むことを誓い、事業報告とする。

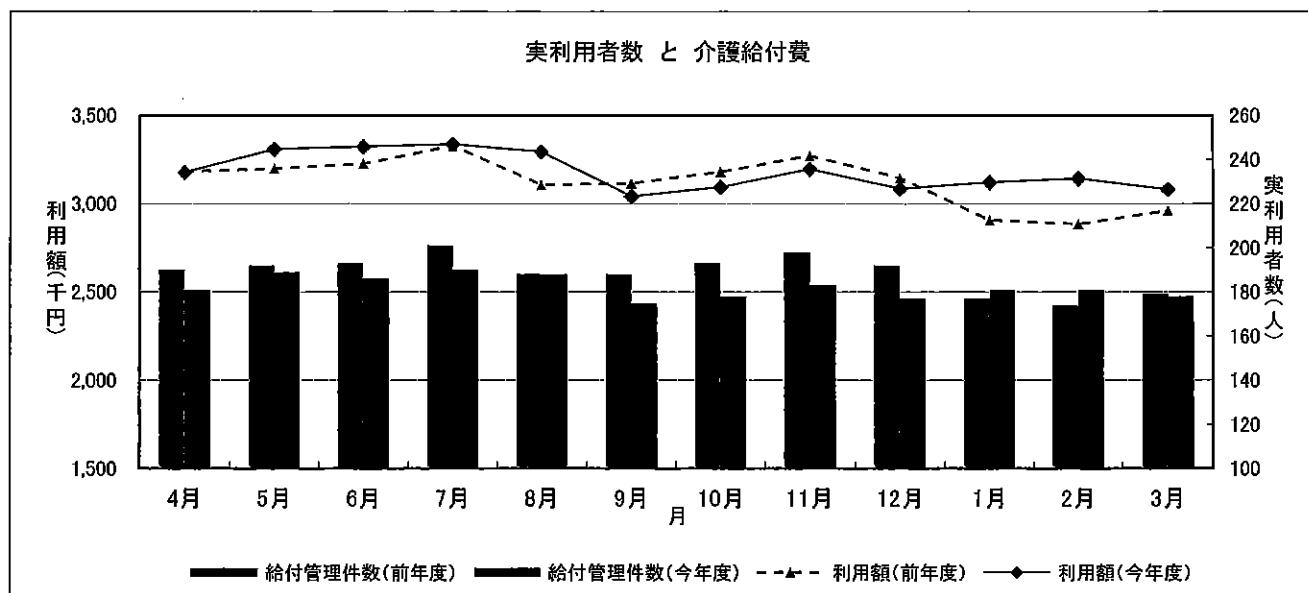
平成 28 年 3 月 31 日

指定居宅介護支援事業所おおたき
管理者 伊藤政利

1. 事業実績

(1) サービス実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年実績
利用者数(実)	181	189	186	190	188	175	178	183	177	181	181	178	2,187	2,265
予防受託件数	16	16	15	17	17	17	17	18	20	19	19	20	211	135
廃止・停止件数	8	7	3	3	7	5	16	7	7	4	4	7	78	85
新規依頼数	10	7	1	7	4	7	8	3	4	2	6	7	66	78
医療連携加算	6	3	4	5	11	2	4	9	5	1	5	2	57	48
退院退所加算	3	1	4	4	3	2	1	4	4	2	2	2	32	36



(2) 要介護度別利用者数

	年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	構成比
要介護1	H26	57	59	57	64	62	63	66	70	71	61	58	60	748	33.1%
要介護2		44	39	42	41	40	40	44	44	45	42	39	44	504	22.3%
要介護3		30	35	33	36	34	31	30	29	26	24	27	28	363	16.0%
要介護4		36	37	38	38	34	33	32	32	29	29	30	27	395	17.5%
要介護5		23	22	23	21	18	21	21	23	21	20	20	20	253	11.2%
計		190	192	193	200	188	188	193	198	192	176	174	179	2,263	100.0%
要介護1	H27	64	67	67	68	69	63	71	72	68	66	67	63	805	36.8%
要介護2		47	51	46	49	48	48	48	50	48	51	48	52	586	26.8%
要介護3		26	29	30	29	28	25	24	24	23	25	29	30	322	14.7%
要介護4		27	27	26	26	24	22	21	19	20	20	20	18	270	12.3%
要介護5		17	15	17	18	19	17	14	19	18	19	17	15	205	9.4%
計		181	189	186	190	188	175	178	184	177	181	181	178	2,188	100.0%

2. 研修参加状況

内部研修

月	研修名	場所	講師
4	運営基準や減算・加算条件	つくし苑談話面接室	平澤陽
5	ケアプランの作成①	つくし苑会議室	平澤陽
6	ケアプランの作成②	つくし苑談話面接室	伊藤恵子
7	病院との連携の仕方	つくし苑会議室	平澤陽
8	面接技術①	つくし苑会議室	平澤陽
9	面接技術②	つくし苑会議室	平澤陽
10	グループスーパービジョン①	つくし苑会議室	伊藤政利 平澤陽
11	グループスーパービジョン②	つくし苑会議室	伊藤政利 平澤陽
12	グループスーパービジョン③	つくし苑会議室	伊藤政利 平澤陽
1	グループスーパービジョン④	つくし苑会議室	伊藤政利 平澤陽
2	グループスーパービジョン⑤	在宅事業所面接室	伊藤政利
3	グループスーパービジョン⑥	つくし苑会議室	伊藤政利 平澤陽

外部研修

月	場所	研修名	参加者
8	ホテルゆとりあ藤里	地域づくりの可能性セミナー	伊藤政利
8~9	中央シルバーエリア	介護支援専門員専門研修 (専門研修課程Ⅰ・更新研修前期研修)	石垣恵美子
8	中央シルバーエリア	介護支援専門員専門研修 (専門研修課程Ⅱ・更新研修後期研修)	平澤陽 石垣恵美子
10	中央シルバーエリア	介護支援専門員実務従事者基礎研修	上田美穂子
10	秋田県社会福祉会館	秋田県介護予防支援従事者研修	上田美穂子
2	ホテルクラウンパレス 秋北	秋田県社会福祉法人経営者協議会県北 会公開講演会	伊藤政利

3. ISO9001活動報告

【部門目標】 認知症の人をとりまく社会資源に関する資料を作成する

【設定理由】

高齢化によって近年急激に増え続けている認知症は、今後ますます身近な疾患になる。しかし、「認知症」という言葉や「アルツハイマー病」という言葉はよく知られているが、認知症に関する正しい知識を持っている人はまだ少ない。また、認知症に罹患したものの、どうすればよいかわからず、家族で問題を抱え込んでしまう場合もある。

認知症に罹患しても住み慣れた地域で安心して生活できるよう、ケアマネジャーが相談対応を行ない、悩みごとの軽減を図れるように資料を作成することとした。

【活動状況】

月	取組事項	内容
4	ゴールの共有、年間活動計画の策定	方向性の検討を行なう
5	内容の検討①	資料に盛り込む内容を検討する
6	内容の検討②	情報の整理を行なう
7	内容の検討③	項目(目次)の内容を検討する
8	内容の検討④	目次に添って項目ごとの内容を検討する
9	内容の検討⑤	盛り込む情報の詳細を検討する
10	対策の実施①	仮の資料の作成を行なう
11	対策の実施②	仮の資料の修正を行なう
12	対策の実施③	〃
1	対策の実施④ 利用者向け資料の作成①	資料の完成にむけて確認を行なう 利用者向け資料の内容検討を行なう
2	モニタリングの実施 利用者向け資料の作成②	資料の活用状況の確認を行なう 利用者向け資料の内容確認を行なう
3	モニタリングの実施 利用者向け資料の作成③ まとめ	資料の活用状況の確認を行なう 利用者向け資料を完成させる 年間のまとめ

【まとめ】

事業所内職員全ての参画をもって取り組むことができた。完成した資料は一般的なものではなく、この地域独自のものであり、ケアマネジャー用のものも利用者家族向けのもの双方ともに活用しやすいものとなった。認知症で悩みを抱える利用者のケアマネジメントに活用していきたい。

平成27年度 大館市地域包括支援センターおおたき 事業報告

地域包括支援センターは地域の総合相談窓口をはじめ、住みよい地域づくりに向けた地域支援事業、そして要支援認定者への介護予防ケアマネジメント、ほか様々な活動に取り組んでいる。

相談対応について、H27年度は各相談が前年度並みとなり年間延べ1,643件に対応した。これまでと比較すると虐待に関する相談が多くなり、迅速な対応に努めてきた。地域の相談窓口として9年が経過し、地区によっては未だ包括支援センターに対する認知度の差は残されているものの、当センターの機能について地域住民の理解が促進されつつあると感じている。

地域支援事業については、平成26年度の事業参加者が記入した顧客満足度調査の結果を反映させたプログラムで実施した。参加者を増加させることをねらい事業に取り組んだが目標は達成されず、事業の進め方については継続課題として残っている。しかしながら、参加者の意向に添いながら活動を行ったことから、アンケートの結果、活動そのものに対する満足度としては評価が高かった。

地域包括ケアシステムの構築やH29年度より開始される介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)の準備段階として、H26年度からはネットワーク協力員の構成メンバーを地域住民と近く関わる機関へと変更してきた。H27年度はそのメンバーを中心に会議や研修を実施し、当センターの担当圏域を含め大館市の地域事情や課題、今後必要とされる資源などを検討した。その結果、「配食」や「買い物支援」など高齢者の移動に伴う課題は大きく、ほか認知症の専門機関がない、交流の場が少ないなど、様々な意見を伺うことができ、新たな事業展開に向け多くの示唆を得ることができた。

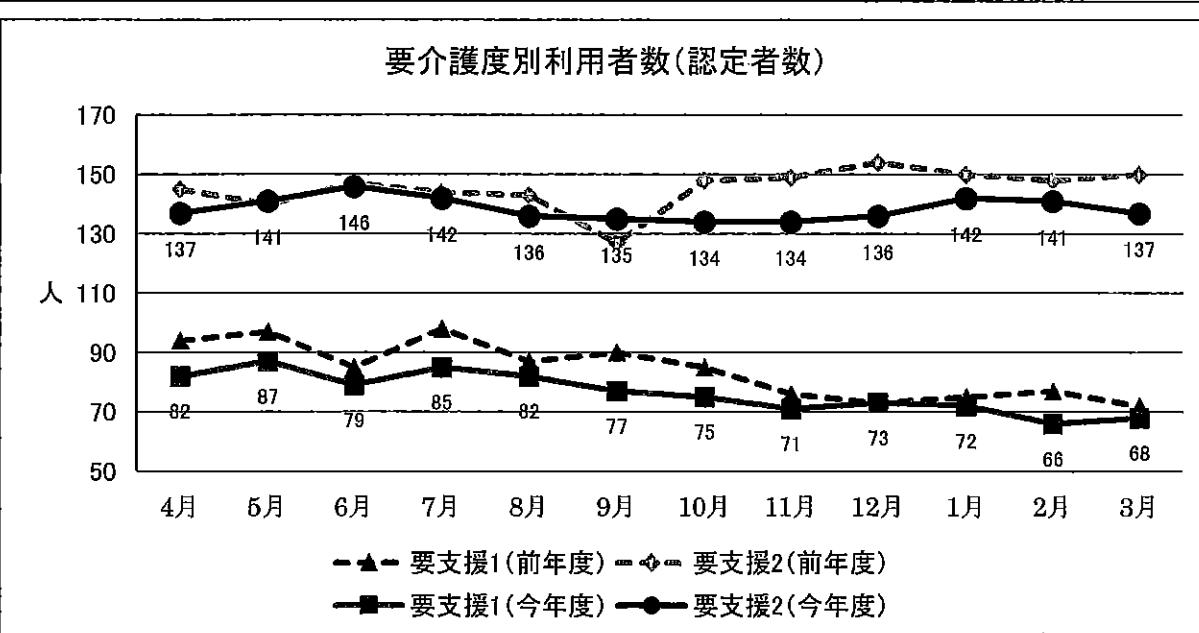
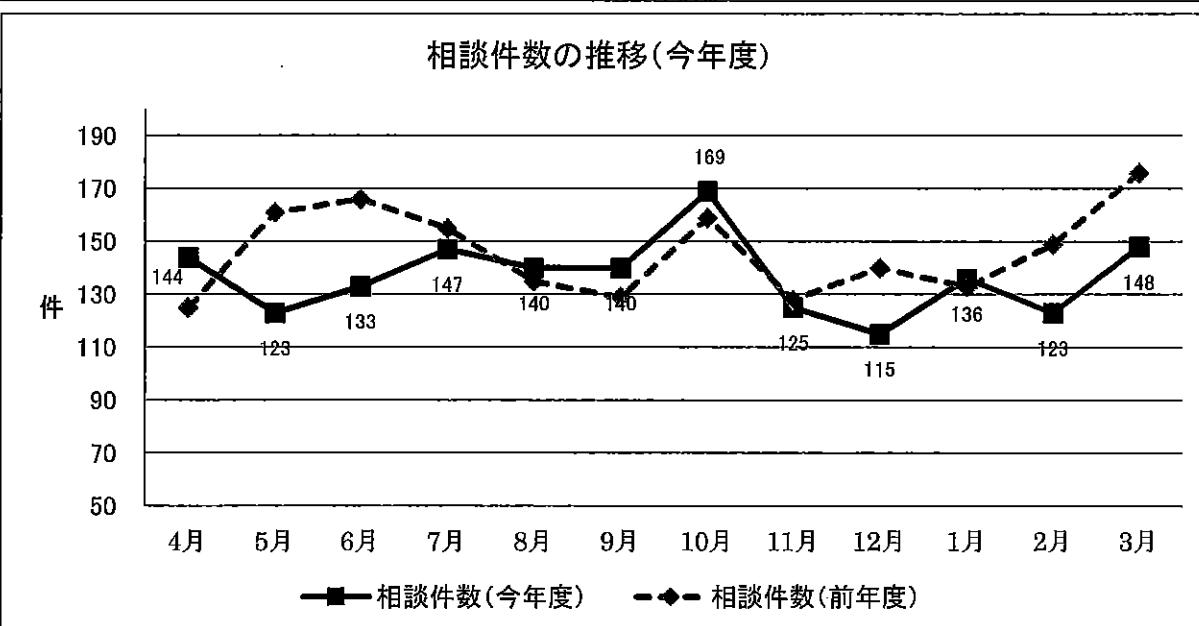
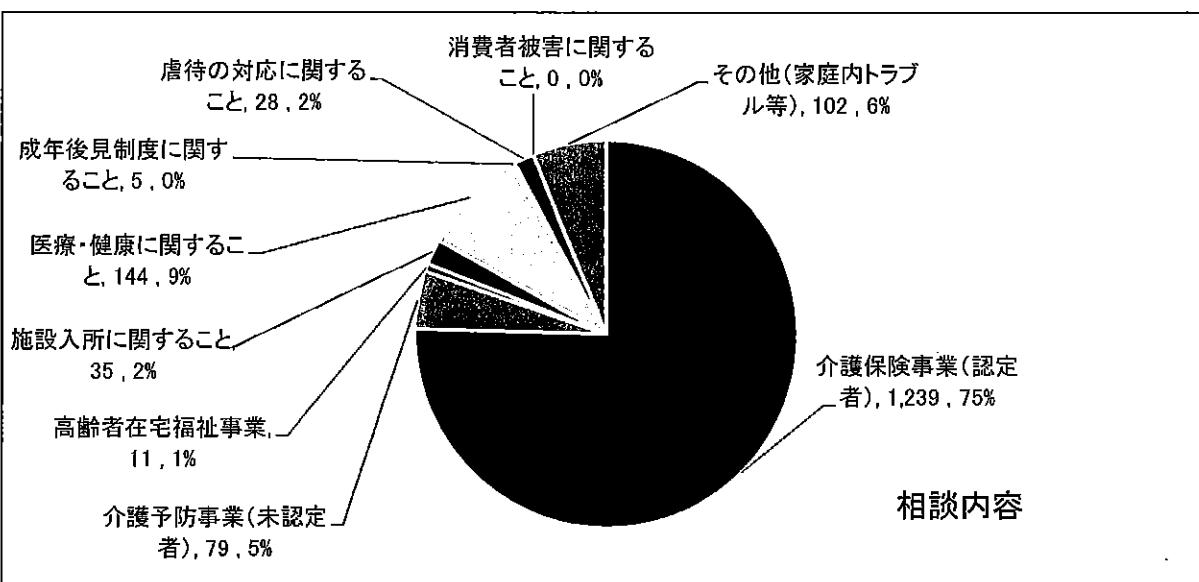
ISO部門目標では地域のネットワーク構築を図るための一つの手段として、災害対策マニュアルの作成に取り組んだ。作成の各段階を踏みながら、地域の実情を知ることができ、センターと地域のつながりが強くなったと感じている。

平成28年度は先に挙げた総合事業へ向け、具体的な準備段階に入る。地域に入り住民の声を吸い上げ協働していくこと、また、住民が主体となって安心して暮らせる地域づくりを支援していくよう努めていきたい。

平成28年3月31日

大館市地域包括支援センターおおたき
管理者（主任介護支援専門員）畠山 美香

1. 事業実績



2. 会議開催状況

ネットワーク協力員関係

開催日	会議名	概要
4月24日	地域ネットワーク協力員会議	新任協力員への委嘱状交付 事業報告・事業計画説明、介護保険制度改革の説明、その他意見交換等
9月7日	地域ネットワーク協力員研修	はなわまちなかエリア見学 新地域支援事業に関する講話 (鹿角市役所・長寿生活班)
9月7日	地域ケア会議	地域包括ケアシステムおよび新総合事業について説明、 地域高齢者の課題および社会資源の状況についてグループワーク

地域ケア個別会議

開催日	概要	年度末の状況
6月22日	キーパーソンが不明確 課題解決およびネットワーク構築 本人・知人・医療機関ほか参加	特養施設入所
10月13日	支援者が困難を感じている・権利擁護の必要性あり。 課題解決およびネットワーク構築 本人・家族・民生委員ほか参加	同一世帯 I
10月19日	認知症・独居高齢者 課題解決・ネットワーク構築(在宅生活継続に向けた体制つくり) 家族・地域・警察ほか参加	在宅生活継続
11月30日	世帯員それぞれが課題を抱える親子 在宅生活における課題の把握、ネットワーク構築(生活を見守る体制つくり)、支援導入 本世帯員、主治医、支援機関ほか参加	同一世帯 I 父:養護施設入所 母:在宅生活 息子:在宅にて支援導入

高齢者虐待対応会議

開催日	概要	年度末の状況
9月5日	アルコール依存にある息子から両親に向けた身体的・心理的虐待への対応⇒保護による分離	同一世帯 I

10月30日	老々介護のケース。介護負担に伴う夫から妻への身体的虐待⇒家族への支援および在宅サービスの調整・専門医療の導入。	特養施設入所
11月27日	認知症高齢者と甥の世帯。認知症による問題行動が急激に進行したことによる介護負担の増強。深刻な虐待に至る前の対応策⇒分離	グループホーム入所
12月3日	老夫婦および精神疾患を抱える息子の世帯。息子の精神状態の悪化に伴う身体的・心理的虐待⇒家族への支援、関係機関との連携強化	同一世帯Ⅱ
12月4日	老々介護。認知症を抱える妻の問題行動による夫の突発的な身体的虐待⇒在宅サービスの拡大。専門医療導入支援	長期ショートステイ
3月17日	支援継続の世帯。息子の状態悪化により2回目の会議を開催。老夫婦の恐怖心も高く、養護者との分離および養護者支援を強化し、包括的・継続的ケアマネジメントへ移行	Ⅱ分離の方向に向け 相談支援継続中 息子：精神科入院中 (施設入所に向けて支援) 老夫婦：在宅生活
3月24日	要介護状態にある高齢者へ関わる家族間(高齢の嫁とその息子)のトラブル。息子のストレスが主介護者となる嫁に向けられた身体的虐待⇒家族への支援継続。要介護者へのサービス導入・調整。関係機関との連携強化および緊急時の体制強化。	左記支援にて経過観察中

3. 会議出席状況

開催	会議名	出席者	開催場所(内容)
年2回	大館市在宅医療・介護連携推進協議会実務者会議	畠山美香	保健センター
各月	グループホーム山王台運営推進会議	畠山美香	グループホーム山王台
各月	グループホーム鮎乃里運営推進会議	町井脩徳	グループホーム鮎乃里
随時	各地区地区民生委員会議	地区担当職員	各地区公民館ほか
年2回	特養つくし苑入所調整会議	畠山美香	つくし苑会議室
年1回	消防防火診断	包括1名同行	担当圏域高齢3世帯訪問

4. 地域支援事業

(1) 一次予防通所型介護予防事業及び生きがい健康づくり支援事業

(年間計40回開催、参加延べ人数491名)

内容：脳トレーニング、軽体操、レクリエーション

・脳トレーニング：①音読②間違い探し③指体操④記憶のトレーニング⑤計算⑥反射トレーニング

など

- ・軽体操:①ストレッチ②タオル体操③ラジオ体操 など
- ・レクリエーション:①ポールダーツ②太極拳③大運動会④スカットボール⑤叩き相撲⑥風船バレー
⑦創作活動(うちわ)⑧かるたあそび⑨認知症に関する講話 など

(2) 認知症予防事業 (12月開催、42名参加)

テーマ:音楽はともだち～音楽で認知症を予防

講師:田口諒也氏(音楽療法士)

(3) 家族介護者教室

(9月開催、23名参加)

テーマ:最期まで家で暮らすために～訪問看護のことを知ろう

講 師:大館市立扇田病院 看護部長 柴田貴子氏

〃 MSW 石田文香氏

(3月開催、24名参加 ケアマネジャー5名協力)

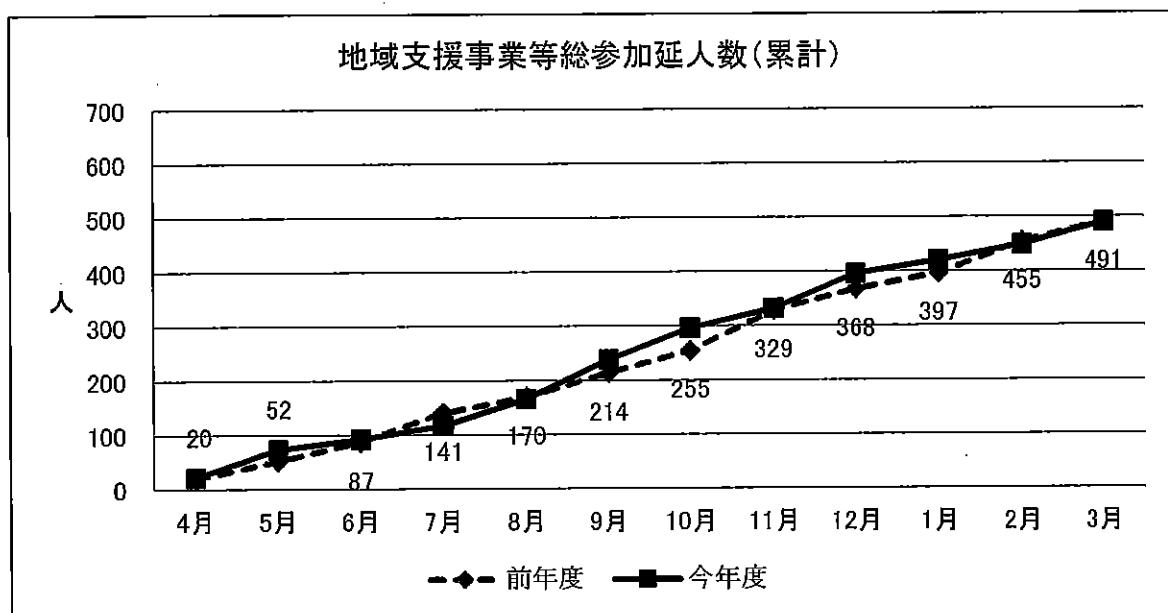
テーマ:認知症とうまく付き合おう

講 師:フロンティア薬局 管理薬剤師 小野徳之氏

(4) その他の活動

自治会や公民館からの依頼による予防教室講師活動(2回)

認知症キャラバンメイト養成講座講師(1回)



5. 外部研修

開催月	研修名	参加者	場 所
7	秋田県地域包括・在宅介護支援センター協議会 初任者研修	虻川江美子	秋田市

8	大館市在宅医療介護連携推進協議会研修 『薬剤師による居宅療養管理指導』	畠山美香	大館市
	地域づくりの可能性セミナー	町井脩徳	藤里町
	H27年度 大館市居宅介護支援事業所連絡会	町井脩徳	大館市
9	大館市在宅医療・介護連携推進協議会研修 『在宅歯科医療とその実際』	畠山美香 虻川江美子	大館市
	大館市福祉環境部管内 認知症対策検討会	虻川江美子 伊藤政利	大館市
10	H27年度 地域ケア会議運営に係る実務者研修	町井脩徳	青森市
11	大館市在宅医療・介護連携推進協議会研修 『在宅医療における訪問看護の役割』	畠山美香 虻川江美子	大館市
	秋田県地域包括・在宅介護支援センター協議会 職員研修会	虻川江美子	秋田市
	H27年度高齢者権利擁護推進事業事例検討会	畠山美香	大館市
12	医療・介護・福祉連携促進先進事例研修会	包括3名	秋田市
12	大館市在宅医療・介護連携推進協議会研修 『在宅医療の推進に向けて』	畠山美香	大館市
1	認知症キャラバンメイト養成研修	包括3名	大館市

6. ISO9001活動報告

【部門目標】 地域に根差した災害マニュアルの作成

【設定理由】

この数年、震災や水害等の被害が多くなり、センターの出動頻度もましている。しかし、地域事情や支援体制を把握しないままの動きとなっており、センターとしてスムーズかつ迅速に対応できるようにするために、この部門目標を設定し取り組むこととした。

【活動状況】

月	項目	内 容
4	目標の共有・活動計画作成	これまでの災害時振り返り・活動計画
5	実態把握の検討	確認する対象者・確認する事項・担当振り分け・調査方法を検討
6～7	実態把握	上記に添って実態把握

8	地域診断	実態把握の結果共有
9～10	マニュアルの検討	災害時の包括と地域の動きを確認
11～12	マニュアルの作成	フロー・各項目内容を確認
1～2	マニュアルの配布等	取組の結果を確認
3	まとめ	年間のまとめ

【まとめ】

この度の部門目標の取り組みは地域を知り地域との関係を深める機会となった。

当初の活動計画では、マニュアル配布等までを予定としていたが、それらについては慎重丁寧に実施することがより良い関係構築につながると考え、今年度の取り組みは『マニュアル作成』をもって達成とした。今後、マニュアルの運用に向けて関係者への説明や協力依頼などを進める。

平成27年度 大館市ケアハウスほうとう 事業報告

(1)大館市ケアハウスほうとう(一般型)

平成 27 年度も共同生活に支障にならない範囲で、入居者個々の自主性を尊重し、個々の入居者がその人らしい生活を送ることができるよう支援した。過度な干渉を避けながら、人格及び人権を尊重しながら、入居者それぞれの生活に支障が出ないよう配慮した。

入居者全体の高齢化が進み、入居時から要介護の方も増えている。要介護の方の割合が増す中、身体機能維持の取り組みとしては、昼食前の嚥下体操を継続し、嚥下機能維持や、認知症発症予防としてのレクレーション活動を毎月実施し、入居者からも好評を得た。平成 28 年度も活動内容を工夫、検討しながら継続して行く。

平成 27 年度の顧客満足度調査に「職員が忙しそう」、「職員に話しかけづらい」等の意見が寄せられた。職員数に要因を求めるのは容易ではあるが、平成 28 年度においては、更に多職種協働によるよりきめ細やかな接遇に、職員一丸となって取り組む。

行事に関して、お出かけツアーやなどは参加対象者が偏ってしまう傾向があった。平成 28 年度はできるだけ多くの方が参加できるよう、マンネリに陥り易い行事を見直し、より個別に楽しめる内容を工夫してゆく。

(2)特定施設入居者生活介護事業

平成 24 年度から開始した特定事業に関しては、ほぼ満床の状態が続いている。一般入居者の要介護度化が進んでおり、契約枠が空けば契約できる状況である。なかには新規入居時から特定事業利用契約で入居となった方もいた。

平成 27 年度から看取り介護の実施が制度上可能となつたが、嘱託医や職員数の問題等により平成 28 年度時点でも導入は困難であると判断した。今後もケアハウスで最期を迎えると希望する入居者、ご家族は増加すると予想される。平成 27 年度は看取りに関する職員の意識の啓蒙と、知識を深めることを目的に外部研修に職員を派遣、復命研修会を通して職員個々の意識を高めた。今後は看取りの意義を職員共有のものとし、段階的に体制構築への知識蓄積と環境整備を進めたい。

平成 27 年度は、家族よりサービス計画書が判りやすいとの意見が多く寄せられた。反面、家族への連絡に力を入れて欲しいとの意見も寄せられている。計画書作成時に留まらず、入居者の状況について、特に遠方住ご家族への連絡を密にしたい。

平成 28 年度においては、一般入居者的心身機能の維持を、また、特定事業では更なるきめ細やかなサービス提供を目指すこととし、事業報告とする。

平成 28 年 3 月 31 日

大館市ケアハウスほうとう
施設長 渡部 清美

1. 部門別報告

(1) 介護部門

平成 27 年度は入居者のニーズ把握を行う取組みとして、ケアプランの実施過程の見直しを ISO の部門目標としても取り組んできた。今現在も見直しを行っており、平成 28 年度も引き続き取り組む。アセスメント(課題分析)からしっかりとニーズを把握し、サービス提供実施、モニタリングに至るまでの経過を明確にし、サービスの質の向上につなげて行きたい。

平成 26 年度の顧客満足度調査にて、接遇について「職員によって違う」との意見が寄せられており、接遇向上について取組んできた。しかし、平成 27 年度の顧客満足度調査においても、「こちらから声をかけないと挨拶のない人がいる」などの意見が聞かれている。平成 28 年度は接遇についての研修なども行い、引き続き接遇の向上に努めたい。

ISO の部門目標として、嚥下体操の見直しも行った。新たなメニューにすることで、より介護予防として効果のある内容になった。嚥下体操以外の新たな介護予防プログラムの取組みを行なうまでには至らなかったが、介護予防活動については今後も検討を重ねて行きたい。

(2) 看護部門

平成 27 年度の入居者の健康管理については、多職種職員と連携し情報伝達を密にして、入居者の体調異常を早期発見し対応することができた。

感染症対策については、入居者の方が 1 名インフルエンザに罹患したものの、他入居者や職員へ感染することはなかった。11 月から 3 月まで、手すりやドアノブ等施設内の消毒を施行すると共に、スタンダードプリコーション(標準予防策)を徹底し感染拡大防止に努めた。

(3) 栄養部門

平成 27 年度は、食事時間の見直しや新しいコンビオーブン購入により、以前より温かい状態で提供できる食事を増やすことができた。また、調理技術の標準化が図られたことは入居者への食事提供においては進歩であった。しかし、調理員間での機械操作理解に未だばらつきがあり苦情があがっているため、調理員への再研修をおこなっている。季節ごとのバイキング食や行事食については、顧客満足度調査において良い評価をいたくことができた。

おやつ作りは、レクリエーションの中に取り組むことで、参加者が増え入居者にも好評であった。フェイスマッサージについては、口腔体操の中に組み込んで実施することで回数を増やすことができた。平成 28 年度は内容を充実させ継続していきたい。

(4) 相談部門

特定入居者については、ケアプラン実施の経過をご家族に報告することで、コミュニケ

ーションの機会を持つことに努めた。また、遠方に住んでいるご家族には近況を電話で伝えるなど、身元引受人とのつながりを意識して取り組むことが出来た。

一般入居者についても、ご家族が面会に見えた際、近況報告を行うと共に、施設生活状況を伝えることに努めた。

また、一般入居者は生活のほとんどを自己管理している為、生活の中で職員から見えない部分もあるが、ケアマネジャーやヘルパー事業所からの情報収集、事業所内での多職種との情報共有により、行政への手続き、サービス利用の開始など、入居者が困っている部分に適時、適切に援助に入る事ができた。

(5) 事務部門

入居者の個別介助状況の変化に伴う介護用品の変更への対応、年度が重なることによる保管文書類の増加にとまどいながらも、整理整頓という平成27年度の目標は概ね達成できた。平成28年度は整理整頓の継続に加え、施設・備品等の改修や年度計画の作成に努めていきたい。

2. 事業実施状況

実施月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
4	13	買物ツアーバイキング	1 3 6 7 8 9 17 21 22 22	エレベーターメンテナンス 浄化槽保守点検 避難訓練(総合) 緊急連絡装置点検 水質検査 県議会議員不在者投票 浄化槽保守点検 エレベーターメンテナンス 市長・市議会議員不在者投票 ISO部門目標報告会
	16	買物代行		
	25	ヨモギ餅作り		
	30			
5	13	買物ツアーフードセミナー	7	緊急連絡装置点検
	21	花善の鶏樽飯を食べる会	1・7	施設ガラス清掃
	21	栄養・医療相談会	8	浄化槽保守点検
	26	使用料改定説明会(市)	12	法人監査
	27	買物代行	13	オゾン層脱臭装置点検
	27	ラーメン店来館	22 23～24	浄化槽法定検査・保守点検 居室・共有室空調機点検清掃
			26	エレベーターメンテナンス
			26	自動ドアメンテナンス
			27	定例理事・評議員会
			28	厨房衛生害虫防除
6	3	買物ツアーバイキング	1 5	緊急連絡装置点検 浄化槽保守点検
	3	森のおうち保育ルーム交流会	15	水質検査
	11	食事検討会	16	空調設備清掃
	17	おやつ作り	16	エレベーターメンテナンス
	24	外食ツアーリラクゼーション	16 18 19 19 26	貯湯槽修繕 苦情解決第3者委員報告会 給水ポンプ、制御盤交換修繕 浄化槽保守点検 市災害ネットワーク訓練
7	1	買物ツアーバイキング	2	ISO内部監査
	3	成章小2年生七夕飾り持参慰問	6	職員健康診断
	6	入居者健康診断	7	緊急連絡装置点検
	8	成章小3年生慰問	10	浄化槽保守点検
	15	野外昼食会(BQ、バイキング)	15	地域懇談会(軽井沢・大滝)
	22	買い物代行	21 23 23・24 24 24	厨房システム他施設視察(岩手) エレベーターメンテナンス 居室空調機器点検清掃 浄化槽保守点検 高校生進路ガイダンス
8	1	つくし・ほうとう合同夏祭り	7	浄化槽保守点検
	5	買い物ツアーバイキング	10	緊急連絡装置点検
	19	おやつ作り	10	濾過機修繕(女性浴槽)
	19	買い物代行	10	成章園夏祭り
	26	利用者結核検診	21	浄化槽保守点検
	28	バイキング	25 28	エレベーターメンテナンス 居室208トイレ水漏れ修繕
	9	買い物ツアーバイキング	4	浄化槽保守点検

実施月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
9	13	大館市ボランティアフェスティバル	8	緊急連絡装置点検
	16	買い物代行	10	成章園敬老会
	16	利用者100歳のお祝い(県)	15	十二所祭典
	16	十二所天命太鼓	18	浄化槽保守点検
	30	敬老会	18	職員女子トイレ改修
			24	エレベータメンテナンス
			30	111、112号室洗面器混合栓修繕
			30	女性浴槽ろ過配管修繕
10	7	買い物ツアー	8	緊急連絡装置点検
	14	利用者日帰り旅行(青森)	8	簡易水道法定水質検査
	21	買い物代行	9	浄化槽保守点検
	21	給食・入居者相談会	14~16	施設窓ガラス清掃
	21	おやつ作り	19	浴槽水質検査(レジオネラ菌)
	28	健康教室(包括おおたき)	21	避難訓練(地震想定)
			23	浄化槽保守点検
			23	貯水槽清掃
			28	エレベータメンテナンス
11	10	インフルエンザ予防接種	4	緊急連絡装置点検
	11	買い物ツアー	5・6・7	居室等ワックス掛け
	16	外食ツアー(比内べにやま荘)	6	オゾン装置点検
	19	だまっこ作り	6	消防機器点検
	25	健康教室(包括おおたき)	6	浄化槽保守点検
	25	買い物代行	11	受水槽2号機定水位弁取替工事
	27	昼食バイキング	11	男子トイレ換気扇取替工事
			12	定例理事・評議員会
			15	食堂床ワックス・カーペット・タイル清掃
			20	浄化槽保守点検
			24	エレベータメンテナンス
			24	理事会
			25~12/8	浴槽水水質検査(男・女)
			26	苦情第3者委員報告会
12	9	買い物ツアー	2	緊急連絡装置点検
	12	森のおうちお楽しみ会	4	浄化槽保守点検
	16	森のおうち慰問交流会	7	浴室防カビ剤散布(女子)
	22	買い物代行	7	105号室トイレスイッチ交換修繕
	24	十二所保育園慰問交流会	7	217、218号室洗面器混合栓修繕
	24	クリスマスバイキング昼食会	9	公用車(タント)定期点検
	28	年納めの挨拶	10	浴室防カビ剤散布(男子)
			11	エレベーターメンテナンス
			18	浄化槽保守点検
1	4	新年の挨拶	5	受水槽凍結防止ヒーター取替工事
	13	買い物ツアー	5	225号室蓄熱床暖コントローラー取替工事
	28	買い物代行	6	緊急連絡装置点検
			8	浄化槽保守点検
			12	浴槽昇温ポンプ漏水修繕
			14	212号室蓄熱床暖コントローラー取替工事
			16	平成28年十二所地区新年祝賀会
			26	エレベーターメンテナンス
			22	浄化槽保守点検
2	1	開園記念食事会	3	緊急連絡装置点検
	10	買い物ツアー	5	浄化槽保守点検

実施月	実施日	行事部門	実施日	管理部門
2	25	買い物代行	11～13	施設床クリーニング・ワックス掛け
	25	栄養・医療相談会	24	公用車(タント)定期点検
			26	厨房廃棄ダクト清掃
			27	116号室温水器漏水修繕
			29	エレベーターメンテナンス
3	3	ひなまつり	1	緊急連絡装置点検
	9	買い物ツアーア	1	職員検診(夜勤者、成人病)
	23	買い物代行	1	2階洗濯室蓄熱暖房機修繕
	23	森のおうち交流会	2	十二所地区地域懇談会(コミセン)
	25	昼食バイキング	3	116号室漏水による天井張替修繕
			3	216号室電気温水器取替修繕
			4	浄化槽保守点検
			11	エレベーターメンテナンス
			14	火災報知機点検
			15	地下室給湯蓄熱温水器点検
			15	消防用設備点検
			16	一般浴室(男女)濾過機点検
			17	にこにこクラブ閉講式
			18	森のおうち卒園式
			18	浄化槽保守点検
			22	一般浴室(男)排水配管消毒
			23	給湯ろ過設備等点検(居室以外)
			24	給湯ろ過設備等点検(居室)
			28	一般浴室(女)排水配管消毒
			28	定例評議員・理事会

4. 入居者状況報告

平成28年3月31日現在

(1)年齢別・性別の状況

年齢 性別	~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100~	計(人)
男	0	0	1	2	0	1	1	0	0	5
女	0	1	2	2	6	10	12	4	1	38
計	0	1	3	4	6	11	13	4	1	43
平均男(80.8歳) 女(87.3歳) 全体(86.6歳) 最高(102歳) 最低(69歳)										

(2)在所期間の状況

期間 性別	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上	計(人)
男	2	1	0	1	0	1	0	0	5
女	4	7	6	13	3	5	0	0	38
計	6	8	6	14	3	6	0	0	43
平均 男(5年7ヶ月)、女(6年7ヶ月) 最高 男(17年)、女(17年1ヶ月) 全体平均 (6年6ヶ月)									

(3)入退所の状況 (平成28年3月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
新規入所者	男	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	女	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	4
退所者	男	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	4
	女	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	4
月末在所者数	男	6	5	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	43
	女	38	38	38	39	38	38	36	37	37	37	37	38	
	計	44	43	44	45	44	44	42	43	42	42	42	43	

(退所者の平均在所期間: 10年6ヶ月)

(4)入所待機者の状況

		大館市内			他市町村・県外			合計待機者数		
平成27年3月末		29 (内夫婦3組)			10 (内夫婦2組)			39 (内夫婦5組)		
平成28年3月末		14 (内夫婦3組)			9 (内夫婦3組)			23 (内夫婦6組)		
増 減		-15			-1			-16		

(5)介護度別の状況(全入居者)

要介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成27年3月末現在	1	5	11	9	2	0	1	29
平成28年3月末現在	2	5	5	10	4	3	3	32
増 減	1	0	-6	1	2	3	2	3

(6)特定入居者介護度別の状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	0	1	8	8	2	0	1	20
5月	0	1	2	9	3	1	2	18
6月	0	1	2	9	3	2	3	20
7月	0	1	2	9	3	1	3	19
8月	0	1	2	9	3	1	3	19
9月	0	1	3	8	4	1	3	20
10月	0	1	4	7	4	0	4	20
11月	0	1	3	7	3	2	4	20
12月	0	1	3	6	4	2	4	20
1月	0	1	1	6	5	3	3	19
2月	0	0	1	9	5	2	3	20
3月	0	0	2	9	3	3	3	20
計	0	10	33	96	42	18	36	235
割合	0.0%	4.3%	14.0%	40.9%	17.9%	7.7%	15.3%	

5. ISO9001活動報告

(1) 部門目標①

【部門目標】 嘸下体操の見直しをする

【設定理由】

今年度新たに、介護予防に関する取り組みを行ってきた。今後も継続して行って行かなければならぬ課題であるとの意見あり。運動機能向上、認知症予防、口腔機能の向上など、いくつか課題が挙げられた。その中からひとまずひとつ選定することとし、まずは口腔機能の向上について取り組むこととした。口腔機能の向上の活動としては現在嘸下体操を毎日実施しているが、内容を再度確認・検討し、入居者の方にはより楽しんでもらいながら継続的に参加して頂けるようにして行くこととした。

【活動状況】(H26 年度から継続して取り組み)

月	項目	内 容
H26.12	目標の設定	10月、11月の話し合いを経て目標を設定した。
1		話し合いの機会得られず。
2	現状把握	現状把握として、現在の嘸下体操の内容について整理し、確認した。
3	見直し内容の検討	どのように見直しを行うのか検討した。全部変えるのではなく、一部を変更することでバリエーションを多く出来るように工夫する事とした。
H27.4・5	見直し内容の検討、実施	日替わりメニューの内容を変更、追加し実施した。
6・7	実施状況の確認	新メニューで嘸下体操実施し、7月に入居者の方へメニュー変更についてお知らせした。また、一般入居者の方に実施してみての感想と意見を聞いた。結果、「何の為にやっているのか分かっている人が少ないと思う。」との意見あり。
8	まとめ	嘸下体操の目的と効果について改めて周知する事とし、資料の作成、配布を行った。嘸下体操の内容については、今後も機会を見て見直しを行い、入居者の方に継続して参加してもらえる様にしていきたい。

【まとめ】

嘸下体操に限らず、入居者全員を対象として実施するものについてはやはり画一的になりがちで、入居者も「何となくやっている（やらされている）」という方が多いのではないかと感じた。嘸下体操の目的やその効果について説明してもなかなか理解できない方もいると思うが、予防という観点からすれば、今現在元気な方に今の状態を維持してもらえるよう、参加を呼び掛ける必要があると感じた。嘸下体操の内容については、今後も機会を見て見直しを行い、入居者に継続して参加してもらえるようにしたい。

(2)部門目標②

【部門目標】 ケアプランの実施過程全体を見直す
(利用者のADL(日常生活動作)に合わせた個別の援助の実施を目指して)

【設定理由】

特定施設入居者介護を取ってから3年が経過した。現在、要介護3~5の利用者が全体の20%、要介護者となると全体の62%である。

利用者のADLに差が出てきたことから、行事、レクも利用者全員に合ったものを提供するには対応が難しくなっている。

全員が同じニーズ、状態ではないことを感じ、一人ひとりにあった援助が提供できなか考えていきたいという事からこの目標に取り組むことにした。

【活動状況】

月	項目	内容
7	目標の設定	入居者全員が同じニーズ、ADLではないことを感じ、一人ひとりにあった援助が提供出来ないか考えたい。 「利用者のADL、ニーズに合わせた個別援助が提供できる」
8	現状把握と原因の分析	・PDCAが回っておらず、ケアプランが機能していない。 ・多職種で検討、情報共有できる流れになっていない。
	ゴール設定	「利用者から満足の声が聞かれる」
9	対策の立案	フロー「ケアプラン実施過程(立案～計画)」を見直す。 ・アセスメント表の修正と、アセスメントに載せる内容を検討する。 ・サービス担当者会議までの流れを検討、修正する。
10		
11		
12	目標とゴール設定の変更	目標が大き過ぎる事、評価しにくいゴール設定である事が話し合われ変更した。 目標「ケアプランの実施過程全体を見直す」 ゴール「フロー ケアハウス ケアプラン実施過程(立案～評価)を修正し、流れに添ってPDCAを回す」
1	対策の実施	・フローの修正。 ・アセスメント表の修正。 ・サービス担当者会議までの流れの見直しする。
2		
3		

【まとめ】

個別援助を提供していきたいということから目標設定した。「個別援助とはなにか」ということを検討していく中で、入居者一人ひとりの状態、好み、要望に合わせた援助は提供しているという現状が確認できた。そして、今まで援助してきたことは、すでに個別援助につながっているという共通認識を持つことができた。

では、なぜ個別援助出来ていないと感じていたのか話し合いをしていく中で、ケアプ

ランの実施過程に多職種での検討、情報共有できていない事、PDCAサイクルが回っていないという現状があげられた。

今までのケアプラン作成過程は、サービス計画作成担当が大半の部分を一人で担っていた。12月の「目標とゴール設定の変更」から、ケアプラン実施過程を見直し、多職種が関わる実施過程を築きたい。平成28年度もゴール達成に向けて引き続き取り組んでいく。

平成27年度 大館市立老人福祉センター 事業報告

平成27年度は、男女の浴槽タイル張替工事のため24日間休業したが、収支についてはプラスで終えることができた。利用者数は、上半期は前年同期を下回ったが、12月から3月までは10%以上の増員となり、その結果、月平均3,000人を維持することができた。

施設設備は経年劣化により補修が必要な個所が複数みられているが、利用における安全面で重要度が高いものから大館市福祉課へ相談しながら対応し、その結果利用中の事故やケガの報告がなかったことに繋がったものと捉えている。また、りんご湯やレモン湯のイベントを実施し、好評を得たことを励みに、来年度以降も入浴を楽しみながら心身の健康保持ができる施設づくりを目指し取り組みたい。

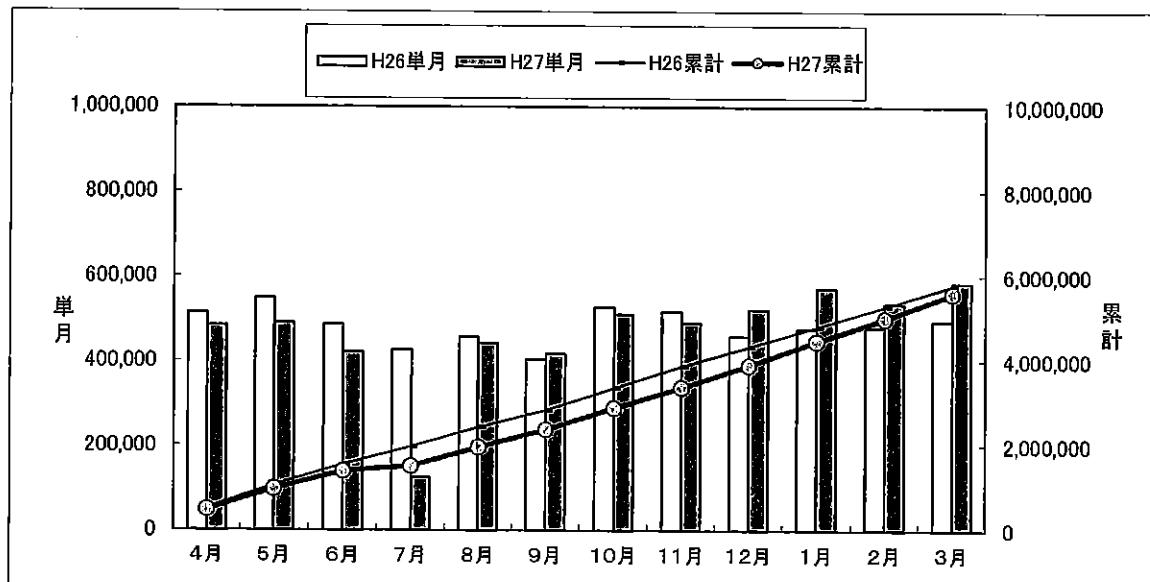
平成28年3月31日

大館市立老人福祉センター
所長 花田 繁盛

1. 月別・利用区分別利用実績表

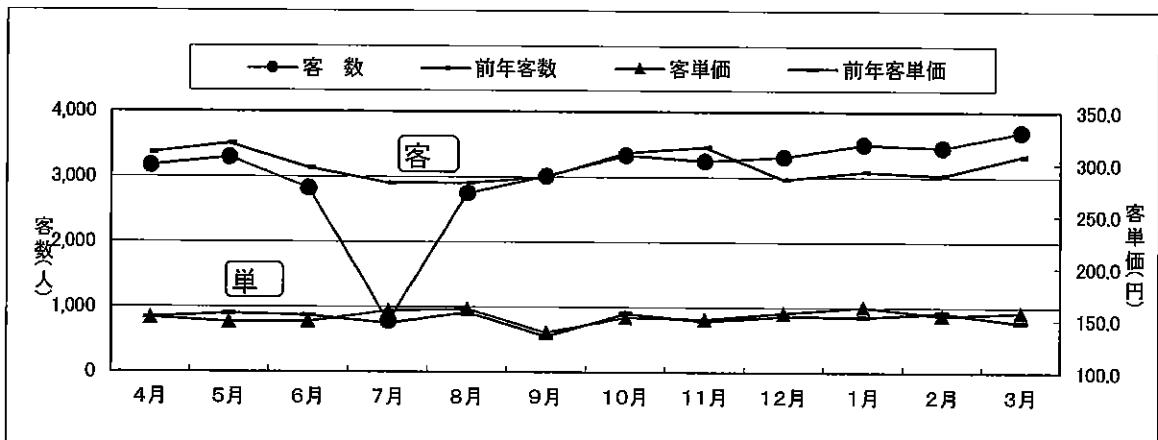
H27		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年	前差
入浴	老人	2,687	2,863	2,390	673	2,371	2,464	2,906	2,786	2,848	2,897	2,884	3,163	30,932	32,545	-1,613
	一般	186	226	166	44	187	164	189	160	181	233	234	209	2,179	2,561	-382
	子供	28	14	7	8	27	13	15	16	20	22	11	23	204	192	12
	計	2,901	3,103	2,563	725	2,585	2,641	3,110	2,962	3,049	3,152	3,129	3,395	33,315	35,298	-1,983
個室	老人	160	139	207	46	112	136	156	178	181	277	255	228	2,075	1,871	204
	一般	9	5	4	1	7	10	6	11	9	16	17	6	101	83	18
	子供	0	0	1	0	0	0	0	4	0	1	0	0	6	0	6
	計	169	144	212	47	119	146	162	193	190	294	272	234	2,182	1,954	228
ひる	老人	33	0	2	0	0	0	0	36	0	2	0	0	73	64	9
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	33	0	2	0	0	0	0	36	0	2	0	0	73	64	9
大広間	老人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	-5
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	-5
	子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	-10
よる	老人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	子供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身障等無料		71	53	49	12	49	228	64	58	75	56	55	68	838	758	80
合計		3,174	3,300	2,826	784	2,753	3,015	3,336	3,249	3,314	3,504	3,456	3,697	36,408	38,082	-1,674
回数券・老人	1,562	1,576	1,383	379	1,363	1,408	1,581	1,576	1,690	1,716	1,704	1,945	17,883	18,603	-720	
回数券・一般	16	8	7	2	10	4	15	24	21	50	40	67	264	366	-102	
回数券1500	14	11	7	5	14	8	15	11	21	18	15	15	154	195	-41	
回数券3000	61	61	52	16	62	53	64	61	71	73	65	85	724	723	1	
回数券2300	3	0	0	0	1	1	2	3	2	5	4	7	28	32	-4	

2. 売上高、単月・累計(前年比較)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
売上高	483,140	488,710	419,930	124,600	441,820	415,990	509,620	490,360	521,000	571,500	534,750	583,350
前年売上高	513,090	548,280	484,910	425,520	457,290	403,440	527,660	516,240	457,600	474,920	477,940	492,820
前年比	94.2%	89.1%	86.6%	29.3%	96.6%	103.1%	96.6%	95.0%	113.9%	120.3%	111.9%	118.4%
累計	483,140	971,850	1,391,780	1,516,380	1,958,200	2,374,190	2,883,810	3,374,170	3,895,170	4,466,670	5,001,420	5,584,770
前年累計	513,090	1,061,370	1,546,260	1,971,800	2,429,090	2,832,530	3,360,190	3,876,430	4,334,030	4,808,950	5,286,890	5,779,710
累計前年比	94.2%	91.6%	90.0%	76.9%	80.6%	83.8%	85.8%	87.0%	89.9%	92.9%	94.6%	96.6%

3. 客数、客単価(前年比較)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
客数	3,174	3,300	2,826	784	2,753	3,015	3,336	3,249	3,314	3,504	3,456	3,697	36,408
前年客数	3,369	3,509	3,139	2,902	2,906	3,000	3,376	3,464	2,967	3,090	3,032	3,328	38,082
客数前年比	94.2%	94.0%	90.0%	27.0%	94.7%	100.5%	98.8%	93.8%	111.7%	113.4%	114.0%	111.1%	95.6%
客単価	152.2	148.1	148.6	158.9	160.5	138.0	152.8	150.9	157.2	163.1	154.7	157.8	153.4
前年客単価	152.3	156.2	154.5	146.6	157.4	134.5	156.3	149.1	154.2	153.7	157.6	148.1	151.8
客単価前年比	99.9%	94.8%	96.2%	108.4%	102.0%	102.6%	97.8%	101.2%	101.9%	106.1%	98.2%	106.5%	101.1%
1日あたりの平均客数	113.4	113.8	108.7	100.1	94.9	107.7	115.0	116.0	114.3	120.8	128.0	127.5	113.78
営業日数	28	29	26	9	29	28	29	28	29	29	27	29	320
前年営業日数	28	29	28	29	29	28	29	28	29	29	26	29	341

平成27年度 大館市ふれあいセンター・やまびこ事業報告

ふれあいセンター・やまびこは、保育事業、放課後児童クラブの事業をはじめ、生きがいづくりならびに健康づくりの場として関係各施設や地域と連携を図りながら、幼児から高齢者までの各年代層が気持ちよく利用できるよう、創意工夫、柔軟な対応に積極的に取り組み、誰でも気軽に利用できる施設として、利用者の側に立ったサービスに努めてきた。

今年度の利用者数は、27,364人と昨年度より2,902人減少した。屋内の施設では、幼児の利用が284人増えたものの、「にこにこクラブ」が対象児童の減により1,448人と大幅に減少し、森のおうちも同じく園児数の減により353人減少していることによるものである。

さらに、屋外の子ども広場の利用についても、近年は増加傾向にあったが、27年度はボランティアフェスティバル時の悪天候などもあり昨年よりも1,100人程の減少となつた。

今後は施設設備の点検などの安全を図りながら、交流の場としてのふれあいセンターの機能を一層発揮し、地域や関係各機関との連携を強め、時代の変化に対応しながら、利用者及び市民の要望に応えられるよう、職員一丸となって利用促進や事業展開に努めることを誓い、事業報告とする。

《利用状況》

- (1)子育て中の親子や、孫を連れての一般の来館者については、例年並みの利用者数となつたが、子ども広場等屋外の利用は昨年よりも減少している。
- (2)幼児から高齢者までの多世代交流事業は、「成章保育ルーム森のおうち」を開園したことにより一層活発になり、成章小学校、十二所保育園や老人福祉施設への働きかけを行い、交流事業を実施してきた。今後は、利用されている幼稚園、保育所等との交流もしていきたい。生きがい・健康づくりの場として実施しているフリーアレンジメント教室、屋外のグランドゴルフも好評を得ており、引き続き、活動の場を提供していきたい。
- (3)「森のおうち」、「にこにこクラブ」の行事は、入所者はじめ地域の方々の参加も多く、今後も広報活動も含め、一層充実した活動内容にしていきたい。
- (4)「にこにこクラブ」については、制度改正により今年度から対象者を小学校6年生までに拡大するとともに、利用時間をこれまでより30分延長し、保護者が利用しやすくなつたが、対象児童の減少や利用料の月額1,000円の引き上げの影響により、利用者数は減少した。今後は、活動のメニュー・プログラムを多彩にするなど工夫を凝らし、児童が楽しく過ごせる環境になるよう努め、利用者の増加を図る。

平成28年3月31日

大館市ふれあいセンター・やまびこ
管理者 芳賀 利彦

1.平成27年度 ふれあいセンター利用状況調べ

平成28年3月31日現在

月	成章保育 ルーム 森のおうち	にこにこ クラブ	幼児	小学生	一般 中学生 含む	子ども広場 ふれ森公園	見学	計	主な利用団体及び事業
4	353	605	456	56	390	485	8	2,353	フラワー・アレンジメント・十二所グランドゴルフ・かづのふるさと学舎・比内養護学校
	394	467	400	60	366	1,014	16	2,717	
5	345	567	522	40	476	1,366	4	3,320	十二所グランドゴルフ・フラワー・アレンジメント・城南保育園・つくしんぼ・城南保育園分園・尾去沢小学校
	406	741	417	61	356	1,341	16	3,338	
6	425	695	308	25	202	817	2	2,474	十二所グランドゴルフ・有浦保育園・下川沿保育所・森のおうち運動会保護者等・扇田保育園・ワイワイキッズ・比内養護学校
	453	858	309	43	258	818	0	2,739	
7	400	679	356	56	188	937		2,616	十二所グランドゴルフ・駿迎内保育園・城南保育園子育て相談室・沼館保育所・南ヶ丘子ども園・成章小・夕涼み会保護者来賓等
	487	852	304	48	282	779	8	2,760	
8	350	558	371	63	254	821	2	2,419	フラワー・アレンジメント・十二所グランドゴルフ・東館保育園
	381	569	398	91	295	640	14	2,388	
9	365	519	1,006	123	377	1,138	5	3,533	十二所グランドゴルフ・フラワー・アレンジメント・松峰児童館・城南保育園・十二所保育園・成章小・花輪にこにこ保育園・第28回ボラフェス参加者
	455	796	506	228	411	1,953	5	4,354	
10	399	606	303	35	319	1,206	0	2,868	十二所グランドゴルフ・フラワー・アレンジメント・東館保育園・八幡幼稚園・はちまんこども園・扇田保育園・十二所保育園・綾子保育園・川口小・鈴木保育園・防犯訓練(大館警察署)
	455	893	239	45	213	1,061	0	2,906	
11	381	527	195	60	297	42	0	1,502	十二所グランドゴルフ・フラワー・アレンジメント・有浦小
	394	769	470	30	393	433	6	2,495	
12	405	720	175	28	204	15	0	1,547	フラワー・アレンジメント・成章小読み聞かせの会・包括支援教室・森のおうちお楽しみ会保護者来賓等
	405	720	175	28	204	15	0	1,547	
1	360	629	217	28	224	0	0	1,458	フラワー・アレンジメント・にこにこクラブ父兄・森のおうち保護者参観
	360	629	217	28	224	0	0	1,458	
2	402	553	186	47	213	20		1,421	フラワー・アレンジメント
	350	654	225	29	184		6	1,448	
3	417	557	322	93	353	93	18	1,853	森のおうち祖父母・比内養護学校高等
	415	715	473	69	441	2	1	2,116	
計	4,602	7,215	4,417	654	3,497	6,940	39	27,364	
昨年	4,955	8,663	4,133	760	3,627	8,056	72	30,266	
前年比	△ 353	△ 1,448	284	△ 106	△ 130	△ 1,116	△ 33	△ 2,902	
備考	・各月の下段はH26年度の利用人数です。								

2. にこにこクラブ 事業報告

月	行 事 内 容	参加人数
4	7 (月) にこにこクラブ開講式	36人、保護者等21人
	8 (火) 新入生を迎える会	35人
	13 (月) 避難訓練	14人
5	11 (月) じゃがいも植え	15人
	27 (水) 野外活動・バス遠足 (北欧の杜)	42人
6	1 (月) さつまいも植え	34人
	3 (水) おやつ作り	33人、保護者2人
	17 (水) 誕生日会 (4・5・6月生まれの人)	33人
	22 (月) ~30 (火) 七夕の飾り作り	
7	7 (火) 七夕集会	35人
	17 (金) 夕涼み会	19人、保護者36人
	27 (月) じゃがいも掘り	28人
	〃 泥団子つくりに挑戦しよう会	
8	30 (木) カレーライス クッキング	28人、保護者3人
	1 (土) 事業団【夏まつり】	
	6 (木) 流しそうめん大会	36人
	19 (水) 総合避難訓練	27人、森17人
	20 (木) スイカ割り (森のおうち・ケアハウスと交流)	25人、森17人
9	9 (水) おやつ作り	30人
	30 (水) 誕生日会 (7・8・9月生まれの人)	30人
10	15 (木) さつまいも掘り	32人
	19 (月) 焼いも会	19人、森19人
	20 (火) 防犯訓練 (大館警察署)	14人、森19人
	29 (木) ハロウィンパーティー (ケアハウス、つくし苑訪問)	31人
11	11 (水) おやつ作り	42人
	25 (水) 誕生日会 (10・11・12月生まれ)	24人
12	19 (土) クリスマス会	24人
1	7 (木) 作って食べよう会(だまっこ鍋)	25人
	9 (金) 昔遊びの会	16人
	18 (月) 平成28年度にこクラブ会員募集開始 (~2月6日まで)	
2	3 (火) 節分・大滝町内会どんど祭り参加	29人
	8 (月) 避難訓練 (暴風雪・着衣訓練)	24人、森20人
	17 (水) 誕生日会 (1・2・3月生まれ)	24人
3	3 (木) ひなまつり会	28人
	9 (水) お別れ会	21人
	17 (木) にこにこクラブ閉講式	40人
	23 (水) 肩たたき会 (ケアハウス訪問、森のおうちと一緒に)	21人

3. 成章保育ルーム森のおうち 事業実績報告

緑いっぱい!! わくわく・どきどき・森のおうち

月	日(曜)	行事名	参加者	参加人数
4	3 (金)	入園式	入園児19・保護者34・来賓6	59
5	1 (金)	お茶会	園児16・職員7・講師1	24
	14 (木)	さつま芋植え (世代間交流事業) 3・4・5歳児	森のおうち・南ヶ丘・駿迎内・扇田・東館・各町内 寿社会(老人クラブ)	157
	15 (金)	歯科検診	園児19	19
	20 (水)	保育参観・食育講座	園児18・保護者17・講師2	37
6	3 (水)	ケアハウスと交流会	園児19・ケアハウス	50
	6 (土)	運動会	全園児19・保護者その他地域の方	109
	17 (水)	ピクニック	園児18・職員(年長:長根山、年少:大滝温泉)	23
7	7 (月)	七夕の集い	園児18	18
	17 (木)	夕涼み会	全園児保護者・にこにこクラブ・ケアハウスその他 地域の方	158
8	1 (土)	事業団夏祭り・年長児お泊まり保育	5歳児8・職員	16
	4 (火)	市民プール	4歳児2・5歳児8	10
	19 (水)	総合避難訓練	園児17・にこにこクラブ17・来館者	40
	20 (木)	スイカ割り	園児17・にこにこクラブ	42
9	5 (土)	健康診断	2歳児4・3歳児5・4歳児2	11
	29 (火)	成章小学校ふれあい交流会	5歳児8・十二所保育園・成章小1年生	27
	30 (水)	コミセンさつま芋掘り (世代間交流事業)	全園児・十二所・扇田・城南・寿社会	161
10	2 (金)	親子遠足	全園児・保護者	43
	7 (水)	デイサービス大滝訪問	園児17	17
	29 (木)	ハロウィンパーティー	園児18・にこにこクラブ	49
11	6 (金)	成章小体験入学	5歳児	8
	13 (金)	親子虫歯予防教室	園児18・保護者18	36
12	12 (土)	お楽しみ会	園児20・保護者・祖父母・来賓	119
	15 (火)	成章園訪問	全園児・成章園入居者の方	58
	16 (水)	ケアハウス訪問	全園児・ケアハウス入居者の方	49
	17 (木)	つくし苑訪問	全園児・つくし苑入居者の方	70
	21 (月)	クリスマス会	全園児	19
1	8 (木)	OB会(1年生と遊ぼう)	全園児・OB1年生	24

	28 (木)	保育参観	全園児・保護者	34
2	4 (木)	出前節分	全園児	19
	13 (土)	H28年度入所児童健診	H28年度入所児童 14	14
	18 (木)	H27年度記念写真撮影	全園児、職員	24
3	3 (火)	ひな祭り会	全園児・祖父母	35
	11 (金)	お別れ遠足	園児	19
	18 (金)	卒園式	3. 4. 5歳児保護者・来賓	36
	23 (水)	ケアハウス訪問	全園児・にこにこクラブ会員・ケアハウス入居者の方	59

平成27年度 大館市へき地保育所 事業報告

へき地保育所は、地域の児童保育施設として住民の信頼が厚く、地域に根ざした保育所として機能している。平成22年度から大館市の指定管理を受け5年が経過し、平成27年度から新たに5年間の指定管理を受託することになった。これまで、保護者や地域住民の協力を得ながら事業を行ってきた。

平成27年度も、社会や利用者のニーズに対応できる、質の高い保育をめざしてきた。特に発達上課題が見られる児童に対する配慮や、2才児保育への配慮などを重点課題として、保育士の確保に努めた他に保育補助員を配置しながら保育を進めてきた。

また、インターンシップの受け入れや地域の介護保険事業所への訪問や地域の行事への参加などの地域とのふれあいの機会を大切にしてきた。

そして、3月の卒園式には5才児合計88名が卒園し、小学校入学に向けて夢と希望をもって卒業ていった。

最後に、今後も質の高い保育を提供できるよう、保育環境の整備、職員の研修の充実を図りながら保育業務を推進していくことを誓い、事業報告とする。

平成 28 年 3 月 31 日

大館市へき地保育所
管理者 芳賀 利彦

1. 平成 27 年度保育所児童数

平成 28 年 3 月 31 日現在 (単位 : 名)

No.	保育所名	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1	二井田保育所	9	13	16	17	55
2	真中保育所	2	5	8	8	23
3	下川沿保育所	9	11	13	13	46
4	沼館保育所	3	8	9	11	31
5	花岡保育所	5	10	13	11	39
6	矢立保育所	2	6	4	5	17
7	長木保育所	11	25	18	23	77
	合計	41	78	81	88	288

2. 平成 28 年度保育所児童数

平成 28 年 3 月 31 日現在 (単位 : 名)

No.	保育所名	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	増減
1	二井田保育所	3	9	13	16	41	▲ 14
2	真中保育所	1	3	5	8	17	▲ 6
3	下川沿保育所	3	10	11	13	37	▲ 9
4	沼館保育所	5	4	8	9	26	▲ 5
5	花岡保育所	6	5	10	13	34	▲ 5
6	矢立保育所	4	3	6	4	17	0
7	長木保育所	8	16	25	18	67	▲ 10
合 計		30	50	78	81	239	
増減		▲ 11	▲ 28	▲ 3	▲ 7	▲ 49	

3. 保育所別事業実施報告

(1) 二井田保育所

「元気いっぱい 笑顔いっぱい」

月	日	曜	行事名	参加人数・内容等
4	4	土	入所式・保護者会総会	児童 56 名・保護者 43 組 児童数 56 名
	12	日	鮎の稚魚放流	有志
5	21	木	世代間交流事業①年長児さつま芋苗植え	年長児 17 名・保育士 3 名・エリアバス
	22	金	年長児田植え	年長児 17 名・保育士 3 名・祖父母手伝い 4 名
	24	日	保護者会主催保護者早朝草取り	保護者 50 名・保育士 1 名
	28	木	南小学校保育所連絡協議会①	教師・保育士間で交流の年間計画確認・会場小学校
6	6	土	子どもハローワーク	花小から 2 名運動会の準備手伝い
	7	日	地区運動会	児童 53 名・保護者 41 組
	10	水	歯科検診	児童 51 名・高橋歯科医師・衛生士 3 名
	13	土	保育所運動会	児童 54 名・保護者 150 名・真中公民館体育館
	13	土	子どもハローワーク	南小、有小から 6 名運動会の手伝い

7	14	火	保育参観	児童 47名・保護者 35名参加
	14	火	インターナシップ 1名 16日まで	北鷹高校
	24	金	年長児真中保育所交流(ブルーベリー) ①	年長児 17名・保育士 3名・本宮貝森ブルーベリー園・事業団バス
	28	火	所内研修支援	北教育事務所浅野指導主事他
	29	水	地域交流(座禅)①	児童 56名・地域の方と保育所祖父母 15名・温泉寺
8	3	月	年長児真中保育所交流(プール)②	年長児 17名・保育士 3名・事業団バス 8月から児童数 55名
	5	水	消防査察	不備なし
	15	土	ちびっ子夏祭り(公民館事業)	(有志参加)
9	6	日	保護者会主催保護者早朝草取り	保護者 32組・保育士 1名
	7	月	子ども課訪問指導	日景先生・浅利保健師
	12	土	地区敬老会	年長児 16名・遊戯でお祝い
	15	火	児童健康診断	2歳児 5名・3歳児 12名・4歳児 15名・梅内小児科・欠席児後日
	18	金	保護者会主催親子レクレーション(陶芸)	児童 47名・保護者 40組・職員 6名・福祉エリア
	25	金	年長児稻刈り	年長児 17名・祖母手伝い 1名
10	1	木	世代間交流事業②年長児さつま芋ほり	年長児 17名・保育士 3名・エリアバス
	14	水	祖父母交流①焼き芋大会	児童 47名・祖父母 21名参加
	14	水	親子虫歯予防指導	児童 47名・保護者 36名・高橋歯科医師・衛生士 3名
	16	金	総合避難訓練	児童 49名・比内分署から 2名・地震火災想定・通報引き渡し訓練
	26	月	南小学校5年生交流②	総合学習の時間におにぎりを作り、届けてくれた
	28	水	南小学校就学時健診	年長児 17名中 15名南小
	30	金	防犯教室	児童 52名・大館警察署から 3名(不審者役・児童向け講話)・主任児童委員
11	1	日	地区文化祭	児童 51名・保護者 40名・絵画、遊戯で参加
	6	金	保育参観・保護者向け講話	児童 51名・保護者 40名・薦谷睦雄氏講演
	10	火	年長児南小学校交流③・年長児真中保育所交流③	年長児 17名・保育士 3名・生活科手作りおもちゃ・事業団バス

11	13	金	七五三集会	児童 55 名
	19	木	祖父母交流②おにぎり会食	児童 52 名・寄付の米と収穫した米でおにぎり作り・会食・祖父母 35 組参加
	28	土	保護者会主催だまっこ会食	児童 45 名・保護者祖父母 36 組
12	5	土	遊戯会	児童 53 名・保護者お客様約 150 人
	8	火	ネイガー交通安全教室	児童 53 名・ネイガー隊 6 名 (JA)
	17	木	クリスマス会	児童 53 名・少年自然の家から先生 2 名
1	12	火	保護者面談開始	保護者の都合に合わせて日程決定
	15	金	サケの受精卵受け取り	年長児 17 名有浦小学校にて・事業団バス
	25	月	真中保育所交流(二井田保育所にて)③	児童 49 名・真中保育所から年長児 8 名・雪遊び
2	1	月	豆まき	児童 52 名・少年自然の家から先生 3 名
	2	火	南小学校体験入学	年長児 17 名参加・事業団バス
	3	水	28 年度健康診断・新入児面接・説明会	対象児 41 名全員終了
	19	金	手形足型とり	児童 55 名(欠席児後日)
	26	金	公民館主催地域合同防災訓練	2 歳児以外参加・公民館にて
3	3	木	ひな祭り会・祖父母地域交流	児童 52 名・祖父母、地域老人会、公民館など 50 人参加
	8	火	南小学校連絡協議会②、引き継ぎ	教師、保育士間で交流の反省、次年度計画・会場小学校
	11	金	年長児親子お楽しみ会	年長児親子 17 組・会食、ゲームなど
	23	水	卒園式予行練習	祖父母 10 名見学
	26	土	卒園式	52 名参加

毎月の行事 ・交通指導 ・防災避難訓練 ・防犯訓練 ・身体測定 ・誕生会

(2) 真中保育所

「話そう！伝えよう！自分の気持ち」

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	4	土	入園式	児童 22 名 保護者 45 名 来賓 4 名
	17	金	新入児歓迎会	児童 22 名 新入児を歓迎し遊戯披露 手作りプレゼント
5	1	金	子どもの日祝会	児童 21 名
	22	金	保育参観日	保護者 20 名
	27	水	JA 訪問	年長・中児 16 名 さつま芋等の苗をもらいに行く

	28	木	南小学校区連絡協議会、1年生授業参観・情報交換会	南小教諭 真中、二井田、保育士 情報交換 計画確認
5	29	金	祖父母交流会	児童22名 祖父母22名 公民館2名 さつま芋・野菜・ひまわりの苗植え・ふれあい遊び・会食
6	14	日	真中地区運動会	児童22名 保護者祖父母
	18	木	ふれあい交流学習 南中学校生	児童22名 南中学校2年生23名 教諭2名
7	2	木	食育教室・栄養について・園児対象	児童20名 健康推進課職員2名 真中公民館2名
	4	土	真中地区シルバー人材センター会員・草刈、草取り	会員25名
	6	月	個人面談(6日～10日)	保護者20名
	7	火	七夕集会	児童21名
8	5	水	プール参観日・講演会 食と健康・保護者対象	児童22名 健康推進課職員1名 真中公民館2名
	10	月	南中学校教諭・10年研修(10日～12日)	南中学校教諭1名
	19	水	生き生き学級との交流会・音楽療法 公民館事業	児童22名 生き生き学級会員30名 保育士4名
	28	金	ひまわりの花切・種取り	児童22名 公民館2名
9	4	金	親子遠足 大館消防署見学・鷹巣ドリームワールド	児童22名 保護者22名
	12	土	敬老会出演	年長・中児16名
	18	金	南中学生、歯みがき指導	児童20名 南中学生8名 南中教諭2名 南小教諭1名
10	3	土	運動会	児童22名 保護者 祖父母
	5	月	歩き遠足	児童22名 高戸谷周辺散策 高戸谷会館前で昼食
	9	金	祖父母交流会(さつまいも掘り・ふれあい遊び・会食)	児童22名 祖父母20名
	13	火	親子歯科講習会	児童21名 保護者19名
	15	木	学習発表会予行参観 南小学校	年長児7名 保育士2名
	28	水	就学時健診 南小学校	年長児7名
11	5	木	りんご狩り	児童19名
	8	日	真中地区文化祭出演	年長・中・小児18名 保護者、祖父母50名

11	10	火	ふれあい交流会 南小1、2年生	年長児7名 保育士2名 手作りおもちゃで遊び交流をする
	11	水	南小学校5年生・総合学習で訪問	児童22名 5年生4名 教諭1名 手作りの食べ物 読み聞かせ
	13	金	七五三祝い会	児童20名
	18	水	生き生き学級との交流会 アートで脳トレ(公民館事業)	年長児7名 保育士1名 生き生き学級会員9名 公民館2名
	19	木	餅つき会	児童22名 保護者 祖父母35名
	27	金	交通安全教室(大館市交通指導隊)	児童19名 大館市交通指導隊5名 市生活課職員1名
12	5	土	お遊戯会	児童21名 保護者70名
	9	水	いきいき学級・地域の方にお遊戯披露	児童22名 生き生き学級会員、地域の方35名
	15	火	総合避難訓練	児童22名 大館消防署員3名
	24	木	クリスマス会	児童22名
1	22	金	総合防犯訓練	児童22名 大館警察署員3名
	27	水	お寺さん見学	児童21名
	28	木	かるた会	児童22名
	29	金	保育参観	児童22名 保護者20名
2	3	水	節分集会	児童22名 少年自然の家職員2名
	8	日	足型とり	児童22名
	9	火	レストランごっこ	児童22名
	10	水	いきいき学級と交流会	児童22名 生き生き学級会員10名 公民館1名
	20	火	体験入学(年長児・南小学校)	児童 7名 保護者7名
3	3	木	ひな祭り会・健康診断・新入児入所説明会	(ひな祭り会)児童23名 (健診・説明会)17名
	10	木	卒園・終了記念写真撮影	児童23名
	11	金	お別れ会	児童23名
	26	土	卒園・修了式	児童22名 保護者35名 来賓4名

毎月の行事：・交通安全指導・避難訓練・防犯訓練・身体測定・誕生会

交流保育：・ブルーベリー摘み(二井田保育所年長児と)(7/24)・二井田保育所年長児来園(8/3)・花岡・矢立保育所年長児来園(9/14)・沼館保育所来園(年長児 8/7・全園児 9/8)・年長児 沼館保育所を訪問(10/6)・年長児二井田保育所を訪問(1/25)

その他行事：・歯科検診(6月)・健康診断(9月・3月)・フッ素洗口指導(5月・12月)・北教育事務所内支援(10/16)・福祉部子ども課所内支援(1/20)・保護者早朝作業活動(草刈り・草取り、プール掃除・ベンキ塗り、運動会ライン引き)(5/16, 6/13, 21, 8/29, 9/26)

(3) 下川沿保育所

「えがおで げんきに のびのびと」

保育目標：1. 健やかな体と心を持つ子 2. 豊かな感性と創造性にあふれる子

3. 自分なりに考える子 4. 地域との触れ合いを楽しめる子

月	日	曜	行 事 名	参 加 者 (人數)・内 容 等
4	4	土	入園式、進級式	児童(44)保護者(48)来賓(4)
	24	金	子どもの日祝う会	児童(43)
5	1	金	じゃがいも種芋植え	児童(43)祖父母(7)元館長長崎さん
	13	水	ハチ公ポリスによる交通安全教室	児童(44)大館警察署員(2)小林重信さん
	21	木	保育参観、講演会、PTA総会	児童(40)保護者(40)浅野直子北教指導主事
	22	金	さつまいも苗植え	児童(43)祖父母(6)元館長長崎さん
	28	木	歯科検診	児童(44)水上歯科医師、衛生士(3)
6	2	火	親子バス遠足	児童(42)保護者(46) 総合福祉エリア
	7	日	地域住民親睦運動会	児童(40)保護者(53)
	9	火	年長児個人面談(～12日)	保護者 情報交換
	11	木	祖父母草取り交流会	祖父母(26)ロイヤル学級(9)小林重信さん
7	3	金	七夕集会	児童(44)小林重信さん笹竹提供
	16	木	ふれあい交流会	児童(43)川口小4年生(31)
	24	金	PTA 作業奉仕	祖父母(3)小林重信さん草刈り機械 PTA役員(10)
	31	金	夏祭り	児童(44)保護者・地域の方々・小学生(70名位)
8	19	水	初任者研修 保育体験	下川沿中学校 福原先生(英語で保育)
	25	火	総合避難訓練	児童(42)田代分署から3名
	28	金	じゃがいも掘り	児童(42)祖父母(6)元館長長崎さん
9	13	日	敬老会	年長児(13)お遊戯でお祝い
	17	木	健康診断	児童(31)佐々木小児科医師
	26	土	運動会	児童(44)保護者・来賓(250名位)川口小グランド

	2	金	歩き遠足	児童(47)雨天のため室内で遠足ごっこ
	7	水	ふれあい交流会	児童(33名)下中2年生(16)
	9	金	さつまいも掘り	児童(44)祖父母(7)元館長長崎さん
	18	日	地区文化祭	児童(36)保護者・祖父母(50)
10	22	木	防犯パレード	年長児(13)保護者・祖父母(7)防犯協会(9)、駐在さん
	23	金	焼いもパーティー	児童(43)畠を手伝ってくれた方をご招待(4)
	23	金	保育所・小学校・中学校・公民館合同研修会	講師瀬下和夫氏～未来を背負う子ども達～～
	11	水	親子虫歯予防指導	児童(41)保護者(40)水上歯科医師、衛生士(3)
12	5	土	発表会	児童(45)保護者(150人位)、来賓(5)
	16	水	ふれあい交流会	児童(43)川口小4年生(31)
	21	月	クリスマス会	児童(44)少年自然の家職員(2)サンタ・グーメ等
1	13	水	保育参観日、クラス懇談	児童(41)保護者(45)講師田口諒也先生
	30	土	雪かきボランティア	中学生(35)校長・教頭先生・小林重信さん
2	3	水	豆まき	児童(44)小林重信さん(鬼役)
	4	木	H28度入所時健康診断	児童(36)新入園児(4)佐々木小児科医師
	9	火	総合避難訓練(通報)	児童(44)
	18	木	お茶と和菓子の会(祖父母交流)	児童(40)保護者(6)祖父母(33)ロイヤル学級(7)
	19	金	にこにこ交流会	年長児(13)川口小にて一年生と交流
3	2	水	入所説明会	新入保護者(4)
	3	木	ひなまつり会	児童(44)
	8	火	お別れ会	児童(46)
	26	土	卒園式・修了式	児童(46)保護者(62)、来賓(2)
	29	火	川口小情報交換	奥山先生・長田先生

・毎月の行事　　交通安全指導・防災避難訓練・防犯訓練・身体測定・誕生会

(4) 沼館保育所

「地域自然に親しみ、心豊かにたくましく」

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	4	土	平成27年度入所式	参加人数：児童28名とその保護者、来賓3名

	1	金	子どもの日祝会	ゲームや会食で祝う
5	11~30		第1回個人面談	送迎の時間帯を活用し、保護者の希望に合わせ実施
	12	火	ジャガ芋植え	児童・保育士で実施
	15	金	交通安全教室	大館市の交通安全指導隊による児童のみの指導教室
	18・19		東中生職場体験	東中生4人による体験学習
	28	木	さつま芋苗植え・草取り(地域交流)	地域の老人会参加
6	3	水	保育参観日・歯科検診	保護者、児童の活動を参観後、親子で歯科検診
	11	木	第1回なかよしお風呂(年長児)	沼館温泉で年長児11名が、入浴体験
7	3	金	親子バス遠足	消防署見学・北部エリアにて親子交流
	7	火	七夕集会(祖父母交流)	祖父母16人が、笹飾り作りやゲームなどで交流
	13	月	プール開き	保育所前に組み立てプールを設置
8	1	土	夏祭り会	子ども達が、主体的に出店の考案～役割分担
	7	金	第1回真中保育所交流	真中保育所プールで交流
	10	火	ジャガ芋掘り	農作業、収穫の喜びを体験
	25	火	第1回総合避難訓練	消防署員指導により、避難訓練・煙体験
9	3	木	第2回なかよしお風呂(年中児)	年中児9名入浴体験
	4	金	要請訪問指導	北教育事務所主事他3名による保育指導
	6	日	地区敬老会	2年に1度の当番制により実施
	8	火	りんご狩り・第2回真中保育所交流	真中でリンゴ狩り体験後、全児童が真中保で交流
	10	水	おみこし練り歩き	年齢に合った町内コースを、希望保護者と練り歩き
	14 ~	木	ディサービス「大滝」慰問	14日:年長, 16日:年中, 17日:年長慰問
	18	金	健康診断	2・3・4歳児(18人)実施
10	1	木	第3回なかよしお風呂(年少児)	年少児7名入浴体験
	3	土	運動会	途中から雨のため、保育所ホールにて実施

10	5～	月～	陶芸体験（年長児・保護者）	顧問：田山伸夫先生による指導（食器作り）
	6	火	第3回真中保育所交流（沼館保にて）	ヒノマル観光手前の山に登り自然を堪能
	9	金	さつま芋掘り（地域交流）	町内老人会の協力により実施
	14	水	歩き遠足	長木川河川敷
	16	金	就労ボランティア	東中生9人来所。窓ふき、畑の片付け作業
	26	月	子ども課保育指導訪問	保育現場の状況報告、保育相談、指導を受ける
	30	金	焼き芋会（祖父母交流）	焼き芋・ゲーム・芋汁会食等で交流（祖父母12名）
11	2	月	次年度入所児募集	町内にポスター掲示
	2～21		第2回個人面談	送迎の時間帯を活用し、保護者の希望に合わせ実施
	13	金	防犯訓練	大館警察署・駅前派出所員5名来所
	14	土	糸迦内公民館文化祭	糸迦内公民館にて児童20名が遊戯披露
	20	金	保育参観・歯科講習	保育参観後、伊藤歯科医による講話
	26	木	苦情解決第三者評議委員会	つくし苑にて「接触事故」について
	18～22		就学児童個人面談	送迎の時間帯を活用し、保護者の希望に合わせ実施
1	27	水	平成28年度健康診断・入所説明会	進級児20人・新入所希望児5人受診
2	1	月	節分	「少年自然の家」職員扮する鬼と豆まきやゲームを楽しんだ
	12	金	第2回総合避難訓練	職員による通報のみの訓練
	26	金	お別れ会	一年を振り返ったり、ゲーム、会食等で別れを惜しだ
3	3	火	ひな祭りお茶会	祖父母や地域・近隣の方々の参加を得て実施
	26	土	修了式	児童31名とその関係者、来賓4名を以て実施

・毎月の行事：交通指導・身体測定・避難訓練・防災訓練・誕生会

(5) 花岡保育所

「瞳 きらきら 心 どきどき 体 わくわく ~好きな遊びを心ゆくまで楽しめ

ることもをめざして～」

保育目標：・生き生きと遊べる子・友達と仲良く遊べる子

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	4	土	入所式・保護者会総会	児童 39名 保護者
	23	木	保小連絡協議会	花小職員 4名、保育所 3名 H27年度計画検討
5	14	木	絵本読み聞かせキャラバン隊	年長 14名 矢保 5名 花小 1年生 12名 地域の方 花矢図書館にて
	17	日	花小運動会参加	5歳児 9名 参加 保護者付き添い
	21	木	さつま芋の苗植え	5歳児 11名 JAより苗寄贈
	21	木	中学生職場体験	北陽中 1年生 5名 教諭 1名 保育士体験
	22	金	夏野菜の苗植え	5歳児 11名 ピーマン・ミニトマト・ナス・キュウリ・枝豆他
	26	火	豆類を植える	5歳児 11名 小豆、黒豆を植える
	27	水	保育参観日 交通安全教室	子ども達の遊びの様子を参観 クラス懇談会 大館警察署 2名 駐在さん 1名 交通安全について
25～6/6			草取り奉仕	園舎の周囲 都合のつく時間で
6	10	水	神山荘シルバーオリンピック参加	5・4・3歳児 34名 おゆうぎ、玉入れ、遊競技参加
	17	水	歯科検診	児童 37名 こう歯科医師による
	19	金	石田ローズガーデン見学	5歳児 11名 引率 3名 事業団のマイクロバスにて
	20	土	工業体育祭参加	5歳児 11名 ゆうぎ披露 かけっこ 宝さがし参加
	26	金	親子バス遠足	児童 39名 親子参加 秋田北空港見学 北欧の杜
	29	月	保小七夕飾り作り	5歳児 11名 と花小 5年生が七夕飾りと一緒に作る
7	7	火	保小七夕交流会	保 39名 花小 5年生 15名 笹飾りと一緒に飾りつけ 飾った笹竹を神山荘とグレープホーム神山へ届ける
	8	水	絵本読み聞かせ（矢保交流）	5歳児 14名 矢保 5名 花矢図書館にて

7	17	金	夕涼み会	児童 39名と家族、地域の方々 買い物を楽しむ
8	19	水	花小職員保育参観 所内研修支援 ミニ公開	児童 36名 花小職員 10名 浅野指導主事 日景指導員参観 ・助言指導 長木保より 1名
	28	金	総合避難訓練	児童 37名 消防北分署署員 3名 避難・煙体験・ビデオ
	30～9/6		草取り奉仕	園舎の周囲 都合のつく時間で
9	1～3		工業生インターンシップ	工業2年1名 保育士体験
	5	土	敬老会	5歳児 11名 4歳児 13名 おゆうぎ披露 公民館にて
	14	月	りんご狩り	5歳児 11名 赤石富樫りんご園へ 真中保育所と交流
	16	水	健康診断	児童 27名 石田内科医師による
	17	木	運動会予行練習	保護者役員お手伝い
	26	土	運動会	児童 39名 保護者祖父母 来賓 5名
	1	木	歩き遠足	4・5歳児松峰児童館 2・3歳児鳥潟会館
10	13	火	さつま芋堀	5歳児 11名 矢保 6名 花矢図書館にて
	14	水	絵本読み聞かせ（矢保交流）	4・5歳児 23名
	11月末まで		個人面談	一人 30分位 情報交換
	5	木	七五三詣り	児童 32名 花岡本郷神明社で参拝
11	8	日	花岡地区産業文化祭参加	5歳児 11名 4歳児 13名 おゆうぎ参加絵出品 保護者付添
	11	水	親子虫歯予防講習会	児童 32名 保護者 30名 こう歯科医師 講話・歯磨き指導
	18	水	座禅体験	児童 33名 信正寺にて
	25	水	りんご狩り	児童 36名 花岡阿部さん宅で
	27	金	防犯訓練	児童 39名 警察官 5名による
	12	土	おゆうぎ会	児童 37名 来賓 3名 保護者多数
12	18	金	祖父母交流会	児童 34名 祖父母 27名 保護者役員お手伝い 4名
	22	火	クリスマス会	児童 37名 自然の家よりサンタさん
	1	22	金	保小新春カルタ大会
2	2	火	豆まき	自然の家よりオニと福の神来所

	17	水	保育参観日・H28年度健康診断・面接	進級児・入所希望児
2	20	土	入所説明会	入所予定児保護者対象
	21	日	花岡支部死亡事故ゼロ8,000日達成記念式典参加	年長児8名 プラザ杉の子にて
3	3	木	ひな祭りお茶会	児童38名 抹茶サークルの方2名 祖母1名 保護者役員4名
	11	金	お別れ会	児童37名 ゲーム
	26	土	卒園式・修了式	児童38名 保護者 来賓6名

・毎月の行事:・身体測定・交通指導・避難訓練・防犯訓練・誕生会・絵本読み聞かせ

(6) 矢立保育所

保育目標:心身ともに豊かでたくましい子どもを育む

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	4	土	入所式並びに保護者会	児童17名 保護者25名 来賓4名
	14	木	花岡保育所との交流①	年長児5名 保育士2名 往復バス利用
	16	土	地区祭典(神社参拝)	児童5名 保育士2名 神社参拝後お菓子をいただく
5	22	金	保育参観並びに保護者会総会	児童16名 保護者19名 おはなしの森の方2名
	25	月	じゃが芋・夏野菜植え	児童17名
	27	水	さつま芋の苗植え	児童16名
	29	金	交通安全教室	児童15名 交通指導隊4名
6	1～8		保護者会草取り(都合のいい日)	保護者15名以上
	9	火	要請訪問	浅野先生、中嶋先生、日景先生
	15～24		個人面談	保護者15名
	16	火	歯科検診	児童17名 神成歯科医
	19	金	親子バス遠足	児童17名 保護者17名 保育士4名 大館能代空港経由北欧の杜
7	8	水	花岡保育所との交流②	年長児5名 保育士2名 往復バス利用
	11	土	夕涼み会	児童17名 来賓4名 北陽中生ボランティア27名 保護者・地域の方多数
	15	水	デイサービス・ニチイ慰問	年長・年中児9名 保育士2名
8	28	金	じゃが芋掘り	児童16名 保育士4名
	〃	〃	矢立小学校の避難訓練に参加	児童16名 保育士4名

	4~14	保護者会草取り(都合のいい日)	保護者15名以上
9	12 土	矢立地区敬老会	3~5歳児15名 保育士4名
	14 月	りんご狩り	年長児5名 保育士2名 花岡保育所のりんご狩りに同伴 りんご狩り後、真中保育所で交流 往復事業団のバス利用
	26 土	運動会	児童17名 保育士4名 来賓4名 保護者多数
	5 月	秋の遠足	児童17名 保育士4名 行き電車・帰りバス 行先…中道南公園経由中道公園 年長児伊徳で買い物
10	7 水	健康診断	2~4歳児12名と二井田保の児童1名 梅内小児科
	19 月	さつま芋掘り	児童14名
	21 水	防犯訓練	児童15名 保育士4名 大館警察署2名 駁迦内駐在所 矢立地区町内会連絡協議会会長の佐藤さん
	〃 〃	矢立小学校のオペレッタ鑑賞に参加	年長児5名 保育士2名
	26 月	就学時健診	年長児5名
11	1 日	矢立公民館祭り	3~5歳児15名 保育士4名
	2 月	焼き芋会	児童14名
	10 火	七五三参り	児童14名
	11 水	花岡保育所との交流③	年長児5名 保育士2名 往復バス利用
	14 土	餅つき会(公民館子育て支援)	児童15名 保育士4名 公民館長・主事 婦人会のお手伝い4名 保護者多数 地域の方数名 マジックショー
	18 水	矢立小学校太鼓演奏鑑賞に参加	年長児4名 保育士2名
	20 金	歯科講習会	児童15名 保護者12名 神成歯科医
12	5 土	おゆうぎ会	児童16名 保護者多数 来賓7名
	15 火	矢立小学校1年生との交流	年長児5名 1年生6名 保育士2名
	15~28	個人面談(年長児)	年長児保護者5名
	16 水	所内支援	日景先生 浅利保健師
	17 木	矢立小学校3・4年生との交流	児童16名 保育士4名
	18 金	クリスマス会	児童13名 少年自然の方2名

	21	木	保育参観	児童17名 保護者15名
1	25~ 1/5		個人面談(2~4歳児)	保護者12名
2	2	火	豆まき	児童17名 少年自然の家の方2名
	5	金	1日体験入学	年長児5名 保育士2名
	12	金	矢立小学校1年生との交流	年長児5名 保育士2名
	19	金	平成28年度入所児健康診断	2~4歳児11名 新入所児3名 保護者3名 梅内小児科
	25	木	祖父母交流お茶会	児童16名 祖父母15名
3	3	火	ひな祭り会	児童17名
	8	火	お別れ会	児童15名
	26	土	卒園式・修了式	卒園児5名 修了児11名 保護者22名 来賓6名

・毎月の行事:避難消火訓練・防犯訓練・交通指導・身体測定・お誕生会

(7) 長木保育所

みんな仲間 地域で育とう 長木っ子

月	日	曜	行 事 名	参 加 人 数 ・ 内 容 等
4	4	土	平成27年度入所式	全児童77名・保護者・来賓=計155名/入所式・親の会役員改選
	26	日	水交苑お花見会	年長組23名・保護者
5	1	金	子どもの日祝い会	児童名/制作したこいのぼりの紹介、歌、お話
	18	月	じやが芋種芋植え	3・4・5才児53名、祖父母手伝い8名,2歳児見学
	18	月	職場体験学習(~19日)	児童77名・東中2年生生徒3名/保育手伝い
	19	月	保育参観日	児童68名・保護者/親子交通安全教室(大館警察署3名)
	25	月	年長組個人面談(~6/5)	保護者の希望で実施
6	27	水	チャレンジデイin大館に参加	3.4.5歳児61名参加/樹海ドームで運動遊びに挑戦
	2	月	さつま芋苗植え・祖父母交流会	全児童76名・祖父母16名/苗植え後一緒に遊んで交流
	11	木	長木小2年町探検学習	2年生1グループ6名/保育所についてインタビュー・ピアニカ演奏

6	14	日	長木地区運動会	児童 55名・保護者/親子競技・フォークダンス参加
	16	火	歯科検診	児童 76名/嘱託医…市立病院歯科医師
	19	金	親子バス遠足(親の会主催)	児童 70名・保護者/場所…鹿角スポーツセンターアルパス
	22	月	4歳児個人面談(~7/3)	保護者の希望で実施
7	6	月	フッ素洗口指導	5歳児 22名・健康推進課/フッ素洗口見学・お話し
	7	火	七夕集会	児童 72名/七夕飾り・願い事の紹介・写真撮影
	10	金	所内研究会・保育指導日	児童名。北教育事務所・子ども課/保育見学・協議
	24	金	年長児お泊り保育(場所…大館少年自然の家)	5歳児 23名・職員/~25日(土)制作やゲーム、お泊り体験
	27	月	2.3歳児個人面談(~8/7)	保護者の希望で実施
	31	金	保育見学(5歳児)・夕涼み会(親の会主催)	児童・保護者・卒所児・他、総勢 300名/各出店
8	3	火	自由保育参観の週(~7日)	保護者 20名参観/プール遊びや食事風景など自由参観。
	4	火	じゃがいも掘り	3・4・5歳児 55名・祖父母 4名/じゃがいも掘りお手伝い
	21	金	総合避難訓練	児童 70名・消防士 3名/避難訓練・水消火器体験
	27	木	公民館高齢者学級交流会	3・4・5歳児 64名/公民館の高齢者と歌や遊び、昔遊び
9	6	日	長木地区敬老会	5歳児/遊戲披露
	11	金	水交苑ディサービスのぎく慰問	4歳児 17名/歌・遊戲披露・プレゼントを渡す。
	26	土	運動会	児童 74名・保護者・他/長木小グランドで行う。
	30	水	健康診断	児童 77名/嘱託医:石田 強先生/内科健診
	10	木	歩き遠足	児童 78名/郷土博物館:ニワトリ見学・木の実拾い・お弁当

10	7	水	保・小交流会	5歳児 24名/長木小1年/児童館/ドーム広場で交流し、一緒に楽しむ。
	13	火	さつまいも掘り・祖父母交流会	児童 68名・祖父母 9名/収穫後一緒に遊ぶ。
	17	土	長木地区公民館祭	5歳児 24名/遊戯披露
	17	土	子どもハローワーク	有浦小3年2名/保育士体験/保育手伝い
	19	月	長木小3年来所	4.5歳児 37名・長木小3年/小学校生活/エゾタンポポのお話
	20	火	やきいも会	児童 72名/収穫したさつま芋を焼いて食す。
	30	金	ハロウィンごっこ	児童 65名/雨のため 4.5歳児のみ仮装して地域を歩く。
11	31	土	子どもハローワーク	有浦小3年1名/保育士体験/保育手伝い
	6	金	防犯実施訓練・防犯教室	児童 73名・警察官 6名/防犯訓練・防犯教室
	14	土	子どもハローワーク	有浦小5年2名/保育士体験/保育手伝い
12	27	金	親子歯科講習会	児童 71名・保護者/嘱託医:市立病院/歯磨き講習
	5	土	発表会	児童 74名・保護者・来賓:総勢 300名/歌、遊戲、劇、他披露
	24	木	ショートステイとんぼ慰問(2か所慰問)	4歳児 15名/2グループになり遊戯、歌、プレゼントを渡す。
1	25	木	クリスマス会	児童 72名/サンタとゲーム、プレゼントをもらい記念写真
	18	月	5歳児個人面談(～29日)	保護者の希望で実施
	21	木	保育参観日	児童 70名・保護者/親子で鬼の面の制作/クラス懇談
2	3	火	豆まき会(鬼役…少年自然の家職員)	児童 73名/豆まき・お話
	5	金	保育勉強会	児童名・子ども課日景補佐・浅利保健師/保育参観・協議
	10	水	平成26年度入所児童健康診断・面接	平成28年度入所児童 66名・保護者/健康診断・面接
	16	火	誕生会バイキング会食	児童名/親の会の補助でバイキング会食/年長児給食当番活動
	18	木	保・長木小交流会	年長組 22名/長木小1年・児童館、他/勉強紹介・ゲーム
	23	火	卒園記念写真撮影	児童 76名/卒園記念写真を全員で撮影

2	29	月	総合避難訓練(通報訓練)	児童 72名/避難誘導と通報の訓練をする。
3	3	木	ひな祭り会	児童 76名/歌、お話し、他
	5	土	平成28年度入所説明会	入所児童保護者 25名/保育所の方針・持ち物等について
	15	火	お別れ会	児童 79名/親の会お弁当会食・プレゼント交換
	26	土	卒園式・修了式	児童 74名(欠5)・保護者・来賓/保育証書授与、他

毎月の行事:誕生会、交通安全指導、避難訓練、防犯訓練、シーツ洗濯、布団・内ズック持ち帰り、絵本配布、絵本代集金